

湖南省
地域福祉計画策定のための
各種アンケート調査結果報告書

令和3年9月
湖南省

【目次】

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 調査結果の見方	1
4. 結果概要	2
II 民生委員・児童委員等アンケート調査結果	7
1. 回答者ご本人について	7
2. 地域について	11
3. 活動について	20
4. 避難行動要支援者の情報について	32
5. 自由記述	36
III 団体アンケート調査結果	41
1. 団体について	41
2. 地域について	44
3. 活動について	56
4. 自由記述	64
IV 福祉事業所アンケート調査結果	67
1. 事業所について	67
2. 地域について	70
3. 活動について	79
4. 自由記述	87
V 相談支援機関アンケート調査結果	88
1. 組織・体制について	88
2. 地域について	90
3. 活動について	99
4. 自由記述	106

I 調査概要

1. 調査の目的

「湖南省第四次地域福祉計画・地域福祉活動計画」の策定にあたり、市の現状や課題等を把握し、計画策定の基礎資料とするため、地域で活動している方々にアンケート調査を実施しました。

2. 調査概要

区分	対象者	調査期間	調査方法	回収状況		
				配布数	回収数	回収率
民生委員・児童委員等	民生委員・児童委員・地域まちづくり協議会役員・区役員・健康推進員・保護司	令和3年7月9日～8月5日	郵送による配布・回収	269件	207件	77.0%
団体	湖南省で活動している団体	令和3年7月20日～8月5日	区長便・郵送による配布・回収	152件	111件	73.0%
福祉事業所	湖南省で活動している福祉事業所	令和3年7月15日～7月30日	直接配布・直接回収	63件	36件	57.1%
相談支援機関	湖南省で活動している相談支援機関	令和3年7月15日～7月30日	郵送による配布・回収	34件	24件	70.6%

<対象者数>

- (1) 民生委員等：民生委員・児童委員×120 保護司×14
- (2) 団体：ボランティアサークル×79、単位老人クラブ×18、更生保護女性会×20
日赤奉仕団×29、障がい者団体×6
- (3) 福祉事業所：障がい分野×21、高齢分野×23、子ども分野×17、その他×2
- (4) 相談支援機関：障がい分野×11、高齢分野×23

3. 調査結果の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、選択肢ごとの有効回答数に対する、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

4. 結果概要

(1) 各調査結果の概要

	民生委員・児童委員等	団 体	福祉事業所	相談支援機関
地域の つながり	<ul style="list-style-type: none"> 「日常的な付き合いがあり、つながりはまあまあ強い」が約半数となっている 〈P11：問5〉 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の助け合い意識について、「どちらかといえば高い」「あまり高くない」が同程度となっている 〈P44：問3〉 世代間交流ができる場所や身近な集いの場があればよいという意見が挙がっている 〈P64～66：自由記述〉 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の助け合い意識について、「どちらかといえば高い」が5割程度となっている 〈P70：問3〉 ひとり親家庭など子育て世帯で悩みを抱えている人が気軽に相談できる機会や場があればよいという意見が挙がっている 〈P74～75：問7、P87：自由記述〉 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の助け合い意識について、「どちらかといえば高い」「あまり高くない」が同程度となっている 〈P90：問3〉
支えあ い	<ul style="list-style-type: none"> 市や社協に期待することとして、住民同士の支え合いの仕組みづくりや人材の育成・確保が高くなっている 〈P30：問15〉 個人情報など見守りに必要な情報がないことが課題として多く挙がっている 〈P36～40：自由記述〉 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の支え合い活動を活発にするために重要なことについて、リーダーなど活動に携わる人の養成や拠点となる場の整備が高くなっている 〈P55：問10〉 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の支え合い活動を活発にするために重要なことについて、困っている人と支援できる人との調整をする人材の育成、行政による資金的な援助が高くなっている 〈P78：問10〉 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の支え合い活動を活発にするために重要なことについて、困っている人と支援できる人との調整をする人材の育成、地域の情報を得やすくすることが高くなっている 〈P98：問10〉
支援の 必要な 人	<ul style="list-style-type: none"> 「ひとり暮らし高齢者」「高齢者のみの世帯」が高く、地域の見守り活動などから気付くことが多くなっている 〈P12～15：問 	<ul style="list-style-type: none"> 「ひとり暮らし高齢者」「高齢者のみの世帯」が高く、「高齢者や障がい者を介護している人」も高くなっている 〈P48：問5〉 	<ul style="list-style-type: none"> 「ひとり暮らし高齢者」「高齢者のみの世帯」が高く、「認知症高齢者」も高くなっている 〈P72：問5〉 	<ul style="list-style-type: none"> 「高齢者や障がい者を介護している人」が最も高く、次いで「高齢者のみの世帯」が高くなっている 〈P92：問5〉

	6・問7)			
制度の狭間		<ul style="list-style-type: none"> •手続きが困難でサービスを受けられていない人や移動手段のない人に関する意見が多く、必要な支援として、訪問による申請等の指導や地区での相談・見守り、送迎支援が挙げられている 〈P50～52：問7〉 	<ul style="list-style-type: none"> •障がい者や認知症高齢者、外国籍の人、複数の課題を抱える人に関する意見があり、必要な支援として、関係機関や行政担当課をまたいだ連携、情報共有が挙げられている 〈P74～75：問7〉 •市や社協に期待することとして、「困難ケースへの対応」が最も高くなっている 〈P86：問18〉 	<ul style="list-style-type: none"> •ダブルケアやヤングケアラー、複合的な課題を抱える家庭に関する意見があり、必要な支援として、ボランティアや地域での助け合いによる支援が挙げられている 〈P94～95：問7〉 •市や社協に期待することとして、「困難ケースへの対応」が高くなっている 〈P105：問17〉
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> •「地域の役員などのなり手がいない」「地域のことに關心のない人が多い」「世代間で交流できる機会がない」が高くなっている 〈P18：問9〉 •高齢者の外出支援に向けた移動手段の確保に関する意見が多く挙がっている 〈P36～40：自由記述〉 	<ul style="list-style-type: none"> •「地域のことに關心のない人が多い」「地域の行事に参加する人が少ない」「地域の役員などのなり手がいない」が高くなっている 〈P53：問8〉 •高齢者の免許返納後等、交通手段の確保に関する意見が多く挙がっている 〈P50～52：問7、P64～66：自由記述〉 	<ul style="list-style-type: none"> •「誰にも相談せず、支援を受けていない人がいる」「身近に相談できる人や場所がない」が高くなっている 〈P76：問8〉 •交通手段が確保できない人について、活動の場や買い物に行けないことが課題として挙げられている 〈P74～75：問7、P87：自由記述〉 	<ul style="list-style-type: none"> •災害発生時の避難や交通手段、買い物に不安や不便を感じることで、地域から孤立している人や相談や支援を受けられていない人がいることが挙げられている 〈P97：問9〉
活動について	<ul style="list-style-type: none"> •活動を進めるうえでは、担い手の高齢化や負担が大きいことが課題となっている 〈P20：問10〉 •自治会未加入者の増加に関する意見が 	<ul style="list-style-type: none"> •活動を行う上では、担い手の高齢化や後継者不足が課題となっている 〈P56：問11〉 •市や社協に期待することとして、「会員募集の支援」「団体 	<ul style="list-style-type: none"> •今後、地域に対してできることとして、「サービス提供を通じた貢献」に次いで「相談窓口の提供（公的機関へのつなぎ役）」が高くなっている 	<ul style="list-style-type: none"> •今後、地域に対してできることとして、「課題共有の場（会議等）への参加」が最も高くなっている 〈P96：問8〉

	<p>多く挙げられており、未加入者の状況が把握できないことが課題となっている</p> <p>〈P36～40：自由記述〉</p>	<p>や活動についてのPR」が高くなっている</p> <p>〈P63：問17〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い人の参加や新規の参加がないことなど、団体の継続についての意見が多く挙げられている <p>〈P64～66：自由記述〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、地域に対してできることとして、「様々な世代が気軽に集うことができる居場所づくり」が最も高くなっている <p>〈P54：問9〉</p>	<p>〈P77：問9〉</p>	
<p>連携について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市・地域・住民での役割分担を明確にする必要性や地域活動への支援、情報共有を求める意見が多く挙げられている <p>〈P36～40：自由記述〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 市や地域での見守り・支援を行っている団体等との連携・協働を求める意見が挙げられている <p>〈P36～40：自由記述〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交流や連携したい組織・団体について、社協や区・自治会、地域まちづくり協議会が高くなっている <p>〈P62：問16〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> 連携したい組織・団体について、区・自治会、地域まちづくり協議会、民生委員・児童委員が高くなっている <p>〈P85：問17〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区・自治会、地域まちづくり協議会やボランティア等と連携したいと考えている割合が高くなっているが、現状ではあまり連携ができていない状況となっている <p>〈P103：問15〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 断らない相談や包括的な相談のために、強化が必要な機能や取組について、「関係する機関との顔の見える関係づくり」が高くなっている <p>〈104：問16〉</p>

<p>コロナの影響について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「イベントや行事が中止になった」に約9割が回答しているが、コロナ禍で新たに取り組んでいることについて、少人数での活動やオンラインでの会議・講演会の開催、電話での安否確認などが挙げられている 〈P22～25:問 11、問 12〉 	<ul style="list-style-type: none"> 「イベントや行事が中止になった」に約6割が回答しており、活動を休止している団体も多くなっている 〈P58:問 13〉 	<ul style="list-style-type: none"> 「イベントや行事が中止になった」に約7割が回答しており、「利用者が減った」は約3割、「困りごとの相談が増加した」は約2割となっている 〈P82:問 14〉 コロナ禍で新たに取り組んでいることでは、オンラインでの研修や会議が多く挙げられている 〈P83:問 15〉 	<ul style="list-style-type: none"> 「情報共有や情報提供の機会が減った」「相談支援活動を縮小した」「利用者の状態が悪化した」が高くなっている 〈P100:問 12〉 コロナ禍で新たに取り組んでいることでは、オンライン会議・研修会、訪問時間の短縮などが挙げられている 〈P101:問 13〉
<p>防災について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者について、対象者の情報を、地図や個別支援計画の作成、見守り等に活用しており、平常時からの見守り活動や災害時の声かけが必要となっている 〈P32:問 16〉 			<ul style="list-style-type: none"> 市や社協に期待することとして、「災害時における支援者間の協力・連携の調整」が高くなっている 〈P105:問 17〉

(2) 課題のまとめ

- 地域での支えあいを進めるためには、活動に携わるリーダーの育成や困っている人と支援できる人との調整などによる支えあいの仕組みづくりが必要という意見が多くなっています。一方で、地域での見守りにおいて、支援の必要な人や自治会未加入者の情報がないことが課題となっています。
- 地域活動や団体活動においては、高齢化による担い手不足が課題となっています。若い人や転入者等新しく参加する人を増やすために、意識啓発や活動についてのPRが必要です。
- 今後特に支援が必要だと思う人について、「ひとり暮らし高齢者」「高齢者のみの世帯」が多く、団体調査・相談支援機関調査では「高齢者や障がい者を介護している人」も多くなっています。高齢者が孤立しないための見守りや介護者等家族への支援が必要です。
- 福祉事業所調査・相談支援機関調査では、市や社協に期待することとして「困難ケースへの対応」が多く、複合的な課題を抱える人など制度の狭間への対応が必要となっています。
- 福祉事業所調査・相談支援機関調査では、身近に相談できる人や場所がないことや地域から孤立している人がいることが課題として挙げられており、団体調査では、世代間交流の場や身近な集いの場の必要性が挙げられています。
- 高齢者など移動手段のない人についての意見が多く挙げられており、送迎支援等による活動への参加や買い物、通院のための移動手段の確保が課題となっています。

⇒ひとり暮らし高齢者などへの見守りがより必要となっている一方で、自治会未加入者の増加や個人情報保護の観点からそれぞれの状況把握が難しくなっており、地域と行政、組織・団体との連携や情報共有が重要です。

⇒自治会等の地域活動や団体活動への参加促進のため、周知・啓発を行うとともに、リーダー等の担い手の育成、参加のための移動手段の確保等に取り組むことが大切です。

⇒誰にも相談できず、地域で孤立してしまう人をなくすために、身近な場所で気軽に相談や交流ができるような環境づくりや支えあいの仕組みづくりが重要です。

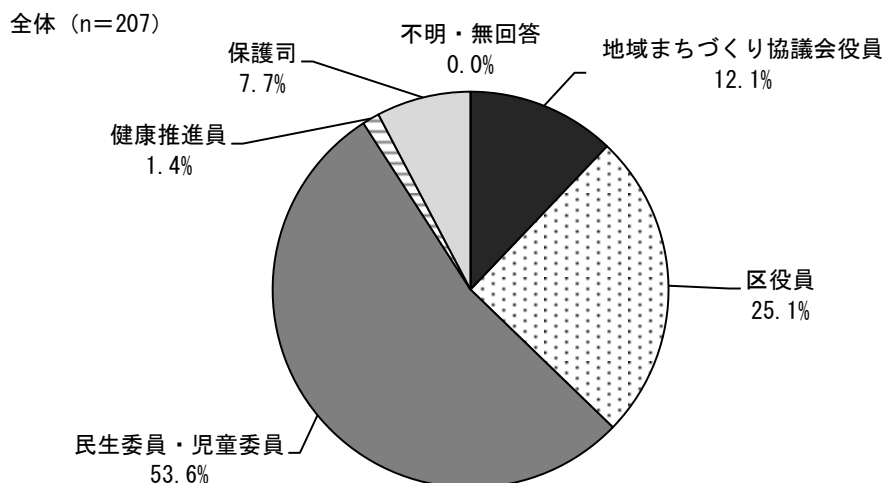
Ⅱ 民生委員・児童委員等アンケート調査結果

1. 回答者ご本人について

問1 あなたが担っている地域の役割は何ですか。(〇は1つ)

担っている地域の役割について、「民生委員・児童委員」が53.6%と最も高く、次いで「区役員」が25.1%、「地域まちづくり協議会役員」が12.1%となっています。

地区別にみると、すべての地区で「民生委員・児童委員」が最も高くなっています。

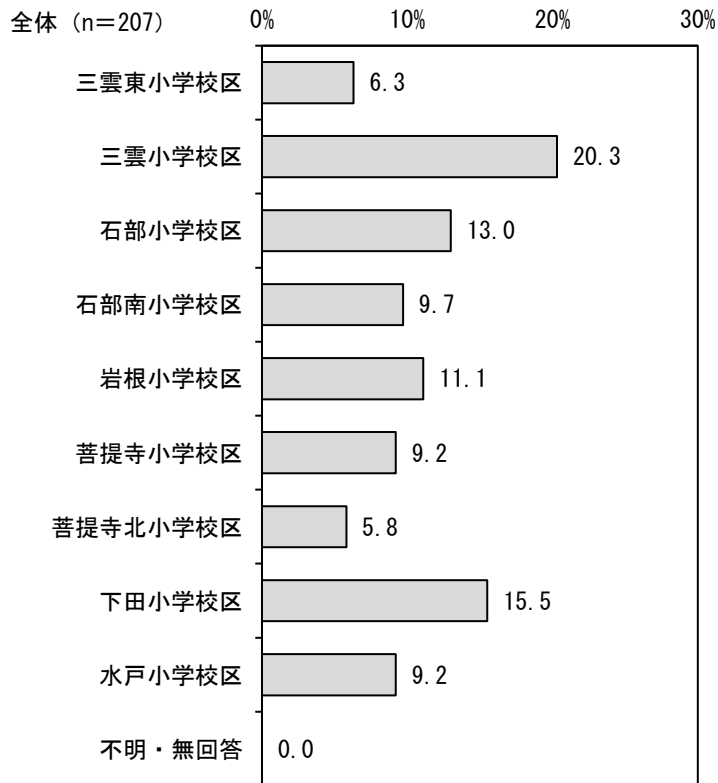


【地区別クロス】

単位 : %	地域まちづくり協議会役員	区役員	民生委員・児童委員	健康推進員	保護司	不明・無回答
全体 (n=207)	12.1	25.1	53.6	1.4	7.7	0.0
三雲東小学校区 (n=13)	0.0	23.1	61.5	0.0	15.4	0.0
三雲小学校区 (n=42)	11.9	28.6	52.4	2.4	4.8	0.0
石部小学校区 (n=27)	14.8	18.5	55.6	0.0	11.1	0.0
石部南小学校区 (n=20)	20.0	15.0	60.0	0.0	5.0	0.0
岩根小学校区 (n=23)	17.4	30.4	43.5	4.3	4.3	0.0
菩提寺小学校区 (n=19)	0.0	31.6	57.9	0.0	10.5	0.0
菩提寺北小学校区 (n=12)	0.0	25.0	58.3	0.0	16.7	0.0
下田小学校区 (n=32)	12.5	34.4	46.9	3.1	3.1	0.0
水戸小学校区 (n=19)	21.1	10.5	57.9	0.0	10.5	0.0

問2 あなたのお住まいは、どの地区（小学校区）にありますか。（○は1つ）

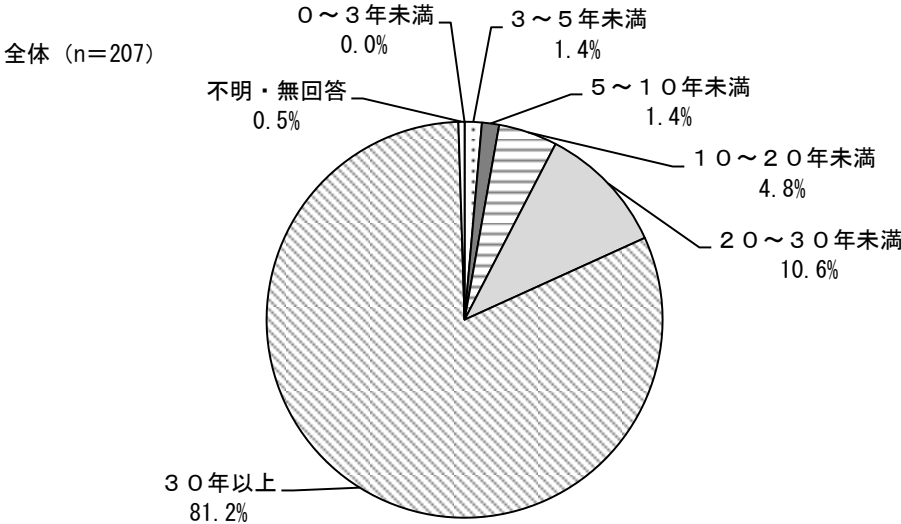
お住まいの地区（小学校区）について、「三雲小学校区」が20.3%と最も高く、次いで「下田小学校区」が15.5%、「石部小学校区」が13.0%となっています。



問3 お住まいの地区の居住年数を教えてください。(〇は1つ)

お住まいの地区の居住年数について、「30年以上」が81.2%と最も高く、次いで「20～30年未満」が10.6%、「10～20年未満」が4.8%となっています。

地区別にみると、すべての地区で「30年以上」が最も高くなっています。



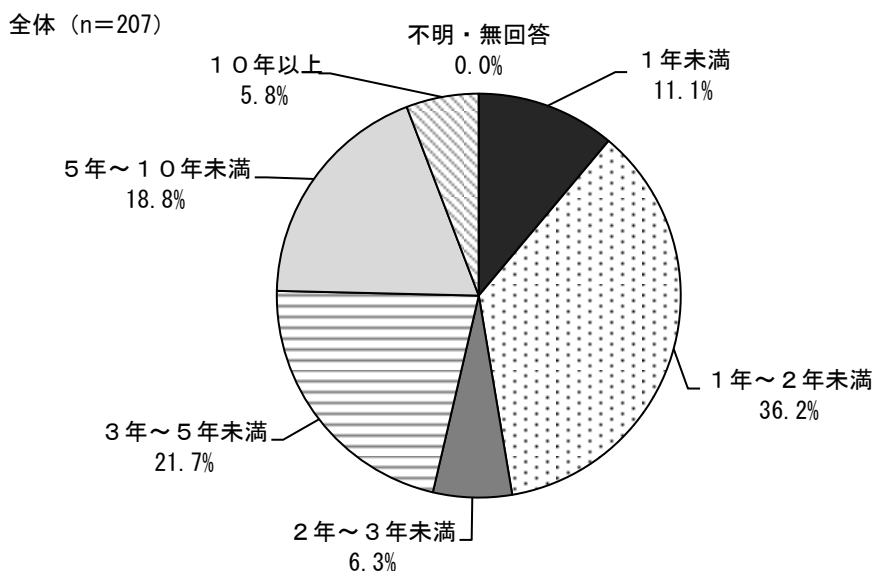
【地区別クロス】

単位：%	0 ～ 3 年 未 満	3 ～ 5 年 未 満	5 ～ 1 0 年 未 満	1 0 ～ 2 0 年 未 満	2 0 ～ 3 0 年 未 満	3 0 年 以 上	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=207)	0.0	1.4	1.4	4.8	10.6	81.2	0.5
三雲東小学校区 (n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	92.3	0.0
三雲小学校区 (n=42)	0.0	2.4	2.4	4.8	11.9	78.6	0.0
石部小学校区 (n=27)	0.0	0.0	3.7	3.7	11.1	81.5	0.0
石部南小学校区 (n=20)	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	95.0	0.0
岩根小学校区 (n=23)	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	87.0	4.3
菩提寺小学校区 (n=19)	0.0	10.5	0.0	0.0	10.5	78.9	0.0
菩提寺北小学校区 (n=12)	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0
下田小学校区 (n=32)	0.0	0.0	3.1	6.3	6.3	84.4	0.0
水戸小学校区 (n=19)	0.0	0.0	0.0	0.0	26.3	73.7	0.0

問4 現在の活動（役職）の経験年数を教えてください。（○は1つ）

現在の活動（役職）の経験年数について、「1年～2年未満」が36.2%と最も高く、次いで「3年～5年未満」が21.7%、「5年～10年未満」が18.8%となっています。

地区別にみると、三雲東小学校区で「1年未満」、水戸小学校区で「5年～10年未満」、それ以外の地区で「1年～2年未満」が最も高くなっています。



【地区別クロス】

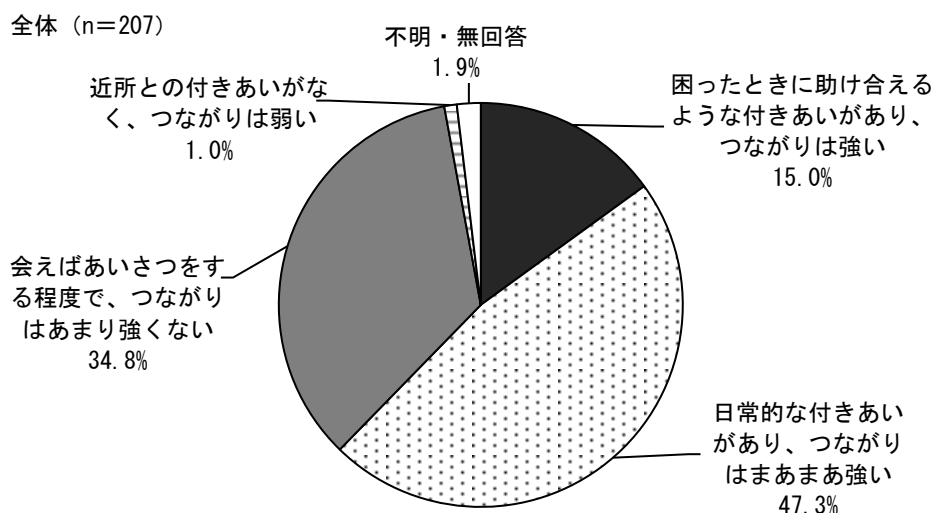
単位：%	1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	不明・無回答
全体 (n=207)	11.1	36.2	6.3	21.7	18.8	5.8	0.0
三雲東小学校区 (n=13)	30.8	15.4	0.0	15.4	23.1	15.4	0.0
三雲小学校区 (n=42)	7.1	28.6	11.9	23.8	23.8	4.8	0.0
石部小学校区 (n=27)	11.1	33.3	0.0	33.3	14.8	7.4	0.0
石部南小学校区 (n=20)	15.0	40.0	0.0	25.0	15.0	5.0	0.0
岩根小学校区 (n=23)	13.0	52.2	4.3	13.0	13.0	4.3	0.0
菩提寺小学校区 (n=19)	5.3	47.4	5.3	26.3	15.8	0.0	0.0
菩提寺北小学校区 (n=12)	0.0	41.7	16.7	16.7	16.7	8.3	0.0
下田小学校区 (n=32)	18.8	40.6	3.1	18.8	9.4	9.4	0.0
水戸小学校区 (n=19)	0.0	26.3	15.8	15.8	42.1	0.0	0.0

2. 地域について

問5 あなたがお住まいの地域では、地域のつながりが強いですか。(〇は1つ)

地域のつながりの状況について、「日常的な付き合いがあり、つながりはまあまあ強い」が47.3%と最も高く、次いで「会えばあいさつをする程度で、つながりはあまり強くない」が34.8%、「困ったときに助け合えるような付き合いがあり、つながりは強い」が15.0%となっています。

地区別にみると、石部小学校区、菩提寺北小学校区、下田小学校区で「会えばあいさつをする程度で、つながりはあまり強くない」、それ以外の地区で「日常的な付き合いがあり、つながりはまあまあ強い」が最も高くなっています。



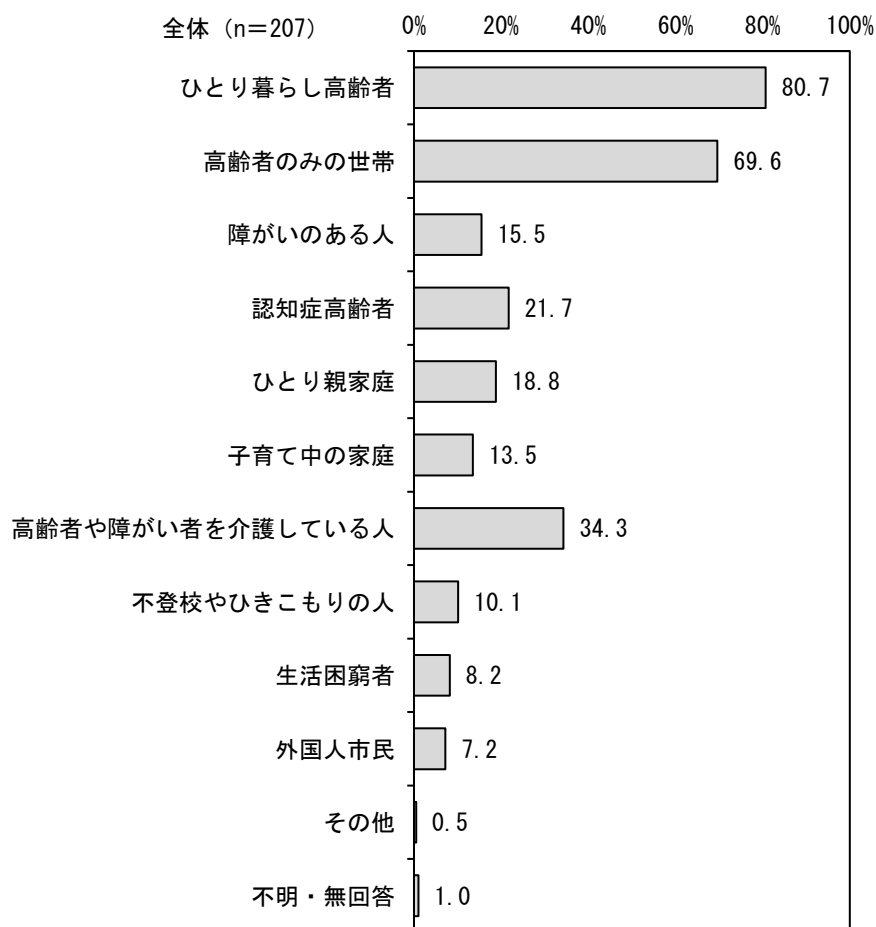
【地区別クロス】

単位：%	困ったときに助け合えるような付き合いがあり、つながりは強い	日常的な付き合いがあり、つながりはまあまあ強い	会えばあいさつをする程度で、つながりはあまり強くない	近所との付き合いがなく、つながりは弱い	不明・無回答
全体 (n=207)	15.0	47.3	34.8	1.0	1.9
三雲東小学校区 (n=13)	23.1	38.5	30.8	0.0	7.7
三雲小学校区 (n=42)	9.5	54.8	33.3	2.4	0.0
石部小学校区 (n=27)	18.5	25.9	48.1	0.0	7.4
石部南小学校区 (n=20)	20.0	55.0	25.0	0.0	0.0
岩根小学校区 (n=23)	30.4	65.2	4.3	0.0	0.0
菩提寺小学校区 (n=19)	5.3	57.9	31.6	0.0	5.3
菩提寺北小学校区 (n=12)	8.3	33.3	58.3	0.0	0.0
下田小学校区 (n=32)	12.5	40.6	46.9	0.0	0.0
水戸小学校区 (n=19)	10.5	47.4	36.8	5.3	0.0

問6 あなたがお住まいの地域において、これから特に支援が必要だと思う対象は誰ですか。
(〇は3つまで)

地域においてこれから特に支援が必要だと思う対象について、「ひとり暮らし高齢者」が80.7%と最も高く、次いで「高齢者のみの世帯」が69.6%、「高齢者や障がい者を介護している人」が34.3%となっています。

地区別にみると、菩提寺小学校区で「認知症高齢者」、石部南小学校区、菩提寺北小学校区で「子育て中の家庭」、水戸小学校区で「ひとり親家庭」「外国人市民」が他と比べて高くなっています。



その他回答

- それぞれどんな支援が必要か、してほしいかを各世帯に対話式アンケートで聞き取りして引き出すことが大事と思う。勝手な思い込みと上から目線ではニーズにマッチしない

【地区別クロス】

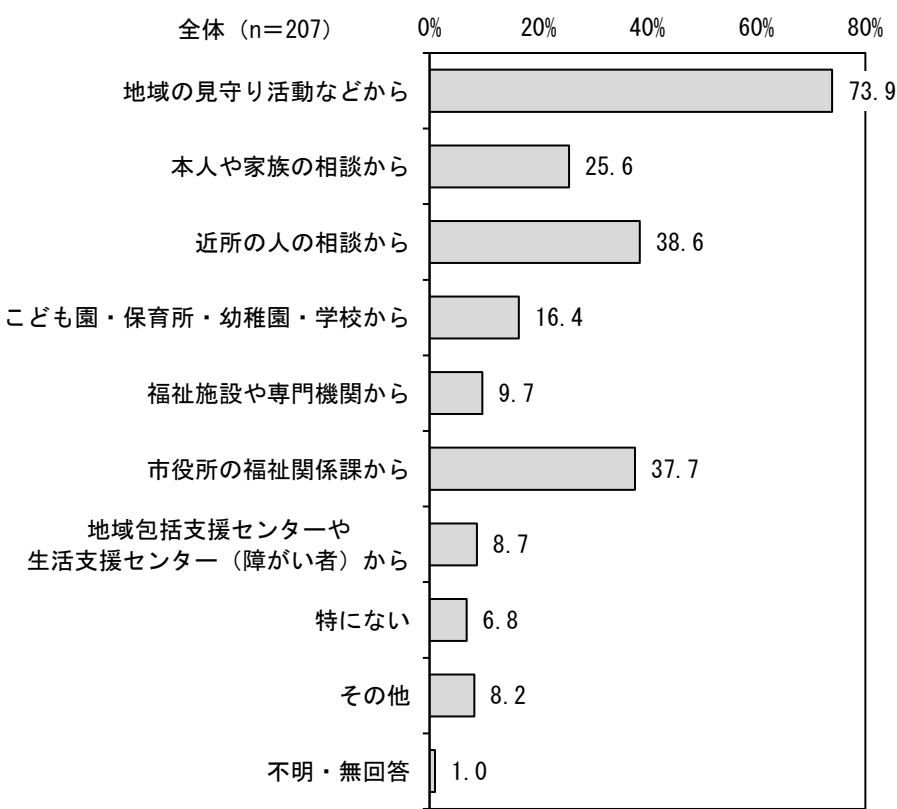
単位：%	ひとり暮らし 高齢者	高齢者のみの世帯	障がいのある人	認知症高齢者	ひとり親家庭	子育て中の家庭	高齢者や障がい者を 介護している人	ひきこもりや 不登校の人	生活困窮者	外国人市民
全体 (n=207)	80.7	69.6	15.5	21.7	18.8	13.5	34.3	10.1	8.2	7.2
三雲東小学校区 (n=13)	61.5	76.9	23.1	15.4	23.1	7.7	46.2	7.7	15.4	0.0
三雲小学校区 (n=42)	81.0	85.7	9.5	11.9	9.5	14.3	35.7	11.9	7.1	2.4
石部小学校区 (n=27)	88.9	51.9	22.2	29.6	25.9	11.1	33.3	3.7	11.1	7.4
石部南小学校区 (n=20)	95.0	45.0	10.0	20.0	15.0	20.0	40.0	15.0	10.0	15.0
岩根小学校区 (n=23)	78.3	65.2	26.1	26.1	8.7	13.0	21.7	4.3	4.3	0.0
菩提寺小学校区 (n=19)	84.2	73.7	10.5	42.1	15.8	5.3	21.1	15.8	10.5	0.0
菩提寺北小学校区 (n=12)	83.3	83.3	25.0	8.3	16.7	25.0	33.3	8.3	0.0	0.0
下田小学校区 (n=32)	71.9	81.3	9.4	21.9	28.1	15.6	40.6	9.4	6.3	12.5
水戸小学校区 (n=19)	78.9	52.6	15.8	21.1	31.6	10.5	36.8	15.8	10.5	26.3

単位：%	その他	不明・無回答
全体 (n=207)	0.5	1.0
三雲東小学校区 (n=13)	0.0	0.0
三雲小学校区 (n=42)	0.0	0.0
石部小学校区 (n=27)	0.0	0.0
石部南小学校区 (n=20)	5.0	0.0
岩根小学校区 (n=23)	0.0	4.3
菩提寺小学校区 (n=19)	0.0	5.3
菩提寺北小学校区 (n=12)	0.0	0.0
下田小学校区 (n=32)	0.0	0.0
水戸小学校区 (n=19)	0.0	0.0

問7 問6のような支援が必要な人をどのような機会に気づくことが多いですか。(〇はいくつでも)

支援が必要な人をどのような機会に気づくことが多いかについて、「地域の見守り活動などから」が73.9%と最も高く、次いで「近所の人の相談から」が38.6%、「市役所の福祉関係課から」が37.7%となっています。

地区別にみると、すべての地区で「地域の見守り活動などから」が最も高くなっています。



その他回答	
●	前任者からの引継ぎ
●	社会福祉協議会から
●	人付き合いの中で
●	送迎支援の立場から
●	テレビ、新聞、雑誌
●	仕事上
●	安否カード
●	自治会
●	買い物などで近所を歩いている際に感じる
●	新聞記事
●	日常から感じる
●	地域情報
●	引き継ぎ
●	地域の人との世間話から

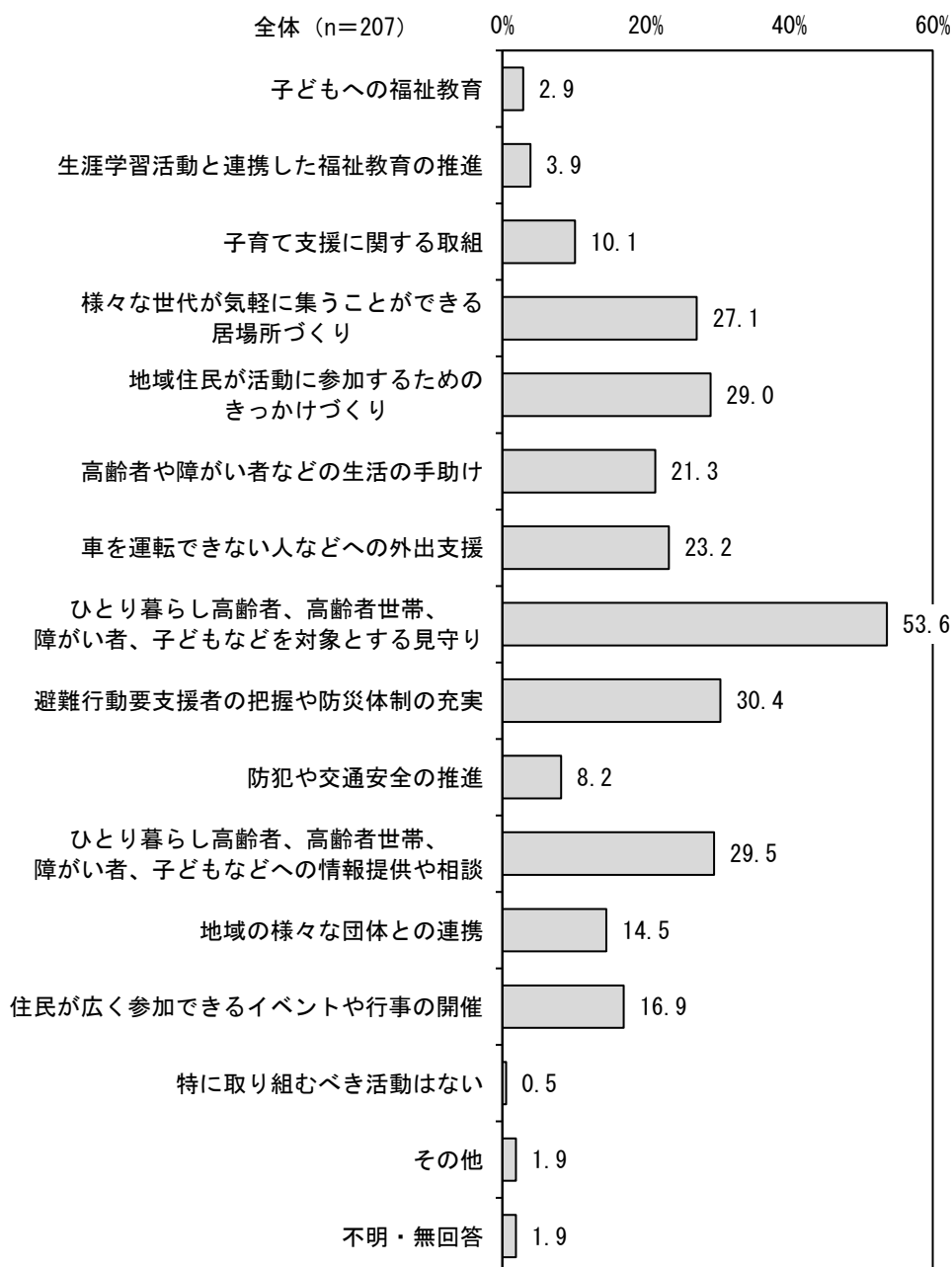
【地区別クロス】

単位：%	地域の 見守り活動など から	本人や家族の相談から	近所の人の相談から	こども園・保育所・ 幼稚園・学校から	福祉施設や専門機関 から	市役所の福祉関係課 から	地域包括支援センター や生活支援センター (障がい者)から	特 に な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=207)	73.9	25.6	38.6	16.4	9.7	37.7	8.7	6.8	8.2	1.0
三雲東小学校区 (n=13)	61.5	7.7	46.2	23.1	7.7	46.2	0.0	0.0	15.4	0.0
三雲小学校区 (n=42)	59.5	11.9	38.1	14.3	7.1	38.1	7.1	14.3	2.4	0.0
石部小学校区 (n=27)	81.5	29.6	48.1	18.5	11.1	40.7	7.4	0.0	3.7	0.0
石部南小学校区 (n=20)	80.0	30.0	45.0	20.0	10.0	35.0	15.0	5.0	20.0	0.0
岩根小学校区 (n=23)	73.9	17.4	34.8	8.7	8.7	30.4	13.0	4.3	4.3	4.3
菩提寺小学校区 (n=19)	78.9	42.1	15.8	5.3	31.6	26.3	21.1	5.3	10.5	5.3
菩提寺北小学校区 (n=12)	91.7	58.3	50.0	8.3	8.3	16.7	8.3	8.3	16.7	0.0
下田小学校区 (n=32)	68.8	18.8	31.3	28.1	3.1	50.0	3.1	12.5	6.3	0.0
水戸小学校区 (n=19)	89.5	42.1	47.4	15.8	5.3	42.1	5.3	0.0	10.5	0.0

問8 あなたがお住まいの地域で、優先度が高いと考える地域の支えあいの活動や取組は何ですか。
(〇は3つまで)

優先度が高いと考える地域の支えあいの活動や取組について、「ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者、子どもなどを対象とする見守り」が53.6%と最も高く、次いで「避難行動要支援者の把握や防災体制の充実」が30.4%、「ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者、子どもなどへの情報提供や相談」が29.5%となっています。

地区別にみると、菩提寺小学校区で「地域住民が活動に参加するためのきっかけづくり」と「ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者、子どもなどを対象とする見守り」がともに最も高くなっています。また、三雲東小学校区で「様々な世代が気軽に集うことができる居場所づくり」、石部小学校区で「避難行動要支援者の把握や防災体制の充実」、それ以外の地区で「ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者、子どもなどを対象とする見守り」が最も高くなっています。



その他回答

- 組織がしっかりしていて一人の役割が多く、個が埋没してしまうことがある
- 老人クラブ
- 外国籍住民との関わり方

【地区別クロス】

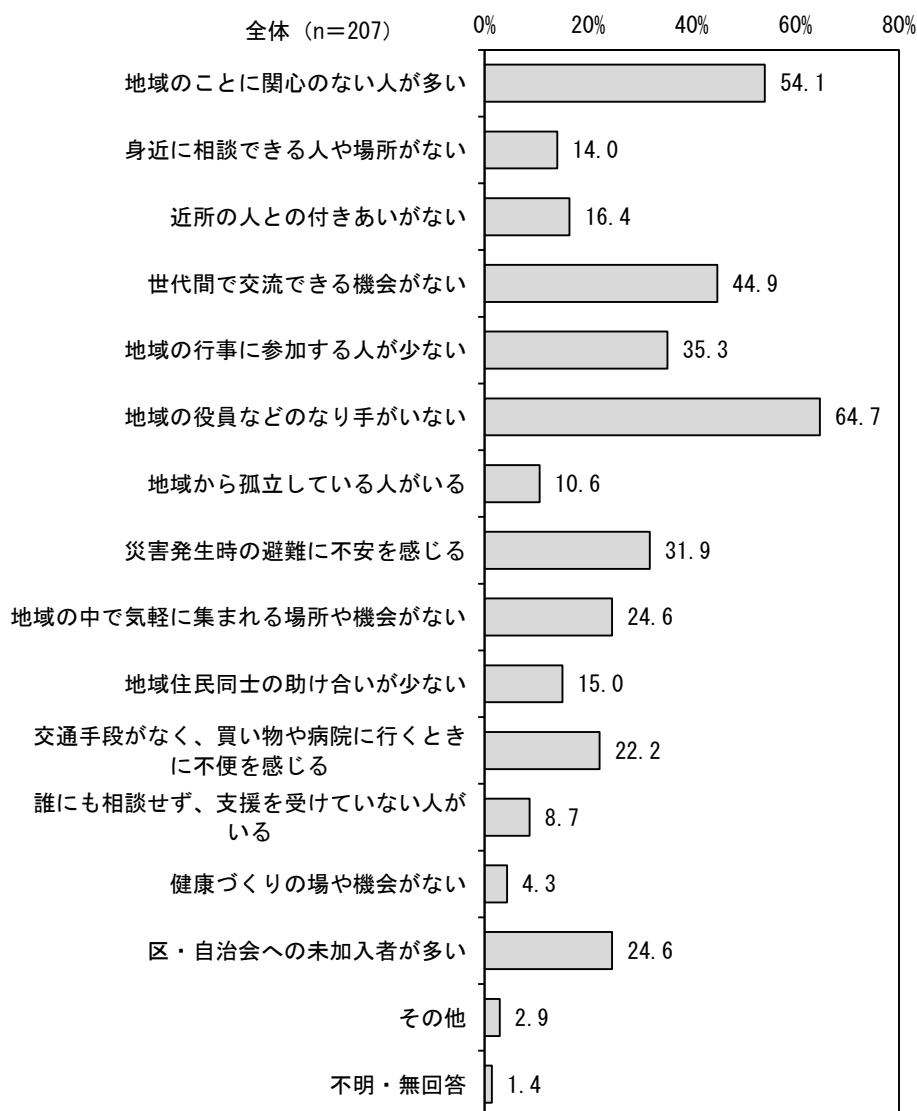
単位：%	子どもへの福祉教育	生涯学習活動と連携した福祉教育の推進	子育て支援に関する取組	様々な世代が気軽に集うことができる居場所づくり	地域住民が活動に参加するためのきっかけづくり	高齢者や障がい者などの生活の手助け	車を運転できない人などへの外出支援	ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者、子どもなどを対象とする見守り	避難行動要支援者の把握や防災体制の充実	防犯や交通安全の推進
全体 (n=207)	2.9	3.9	10.1	27.1	29.0	21.3	23.2	53.6	30.4	8.2
三雲東小学校区 (n=13)	7.7	7.7	7.7	46.2	23.1	23.1	23.1	30.8	23.1	0.0
三雲小学校区 (n=42)	2.4	2.4	11.9	28.6	21.4	11.9	19.0	52.4	38.1	11.9
石部小学校区 (n=27)	3.7	7.4	11.1	18.5	40.7	14.8	14.8	48.1	51.9	7.4
石部南小学校区 (n=20)	0.0	5.0	5.0	30.0	20.0	30.0	35.0	45.0	30.0	0.0
岩根小学校区 (n=23)	0.0	13.0	17.4	43.5	21.7	26.1	13.0	52.2	21.7	13.0
菩提寺小学校区 (n=19)	0.0	0.0	5.3	31.6	52.6	26.3	15.8	52.6	10.5	5.3
菩提寺北小学校区 (n=12)	0.0	0.0	0.0	41.7	33.3	33.3	8.3	83.3	58.3	0.0
下田小学校区 (n=32)	9.4	0.0	12.5	12.5	25.0	21.9	31.3	65.6	15.6	15.6
水戸小学校区 (n=19)	0.0	0.0	10.5	10.5	31.6	21.1	47.4	52.6	26.3	5.3

単位：%	ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者、子どもなどへの情報提供や相談	地域の様々な団体との連携	住民が広く参加できるイベントや行事の開催	特に取り組むべき活動はない	その他	不明・無回答
全体 (n=207)	29.5	14.5	16.9	0.5	1.9	1.9
三雲東小学校区 (n=13)	30.8	15.4	30.8	0.0	0.0	7.7
三雲小学校区 (n=42)	28.6	16.7	21.4	2.4	2.4	0.0
石部小学校区 (n=27)	25.9	11.1	7.4	0.0	0.0	3.7
石部南小学校区 (n=20)	30.0	30.0	20.0	0.0	0.0	0.0
岩根小学校区 (n=23)	17.4	13.0	26.1	0.0	0.0	4.3
菩提寺小学校区 (n=19)	31.6	21.1	10.5	0.0	5.3	5.3
菩提寺北小学校区 (n=12)	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
下田小学校区 (n=32)	43.8	6.3	15.6	0.0	3.1	0.0
水戸小学校区 (n=19)	31.6	5.3	15.8	0.0	5.3	0.0

問9 あなたがお住まいの地域には、どのような課題や問題があると感じていますか。
(〇は5つまで)

地域の課題や問題について、「地域の役員などのなり手がいない」が64.7%と最も高く、次いで「地域のことに関心のない人が多い」が54.1%、「世代間で交流できる機会がない」が44.9%となっています。

地区別にみると、三雲東小学校区で「地域のことに関心のない人が多い」と「地域の役員などのなり手がいない」がともに最も高くなっています。また、岩根小学校区、菩提寺北小学校区で「世代間で交流できる機会がない」、水戸小学校区で「地域のことに関心のない人が多い」、それ以外の地区で「地域の役員などのなり手がいない」が最も高くなっています。



その他回答

- ゴミの不法投棄、ゴミ出しルールの不認識
- 外国人居住者との交流が少ない
- 高齢単身者世帯が増えている
- 少子高齢化

【地区別クロス】

単位：%	地域のことに関心のない人が多い	身近に相談できる人や場所がない	近所の人との付き合いがない	世代間で交流できる機会がない	地域の行事に参加する人が少ない	地域の役員などのなり手がいない	地域から孤立している人がいる	災害発生時の避難に不安を感じる	地域の中で気軽に集まれる場所や機会がない	地域住民同士の助け合いが少ない
全体 (n=207)	54.1	14.0	16.4	44.9	35.3	64.7	10.6	31.9	24.6	15.0
三雲東小学校区 (n=13)	69.2	7.7	15.4	38.5	38.5	69.2	0.0	53.8	38.5	23.1
三雲小学校区 (n=42)	52.4	11.9	9.5	40.5	35.7	66.7	4.8	50.0	26.2	7.1
石部小学校区 (n=27)	51.9	18.5	11.1	48.1	29.6	70.4	7.4	25.9	25.9	22.2
石部南小学校区 (n=20)	55.0	15.0	10.0	55.0	30.0	60.0	20.0	20.0	35.0	10.0
岩根小学校区 (n=23)	34.8	17.4	13.0	56.5	52.2	52.2	13.0	13.0	30.4	8.7
菩提寺小学校区 (n=19)	57.9	21.1	15.8	47.4	36.8	78.9	10.5	15.8	15.8	10.5
菩提寺北小学校区 (n=12)	58.3	0.0	16.7	75.0	41.7	58.3	8.3	50.0	25.0	0.0
下田小学校区 (n=32)	43.8	18.8	34.4	40.6	28.1	59.4	12.5	31.3	15.6	31.3
水戸小学校区 (n=19)	84.2	5.3	21.1	15.8	31.6	68.4	21.1	26.3	15.8	15.8

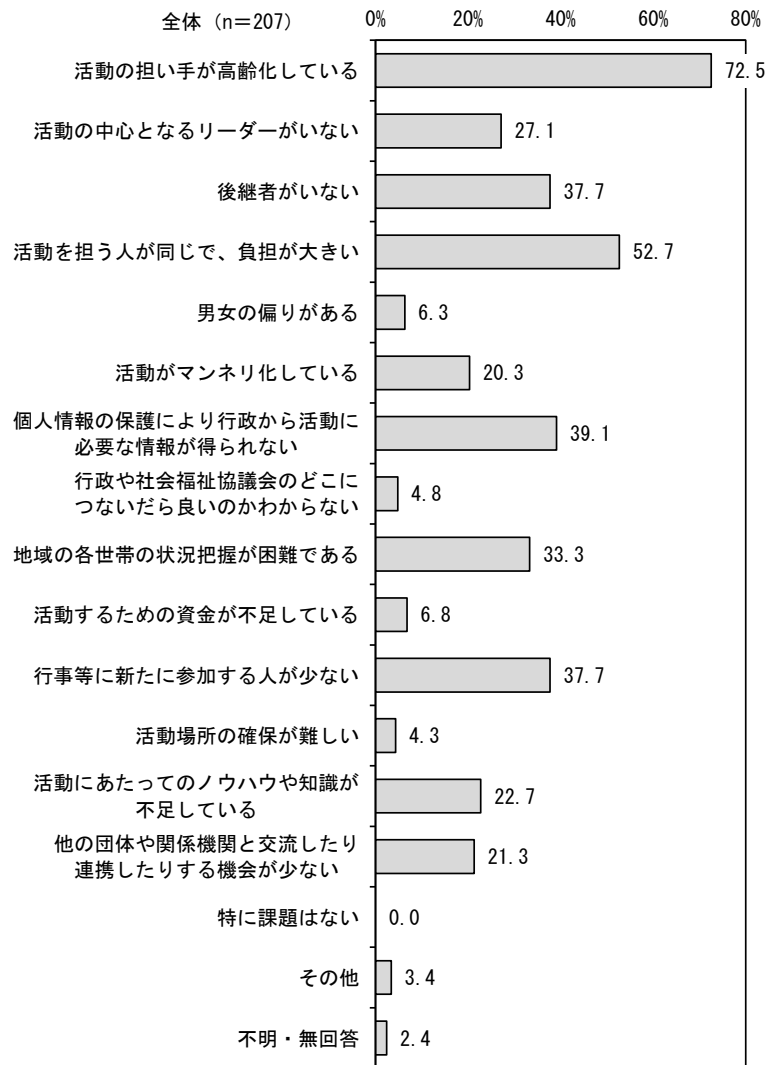
単位：%	交通手段がなく、買い物や病院に行くときに不便を感じる	誰にも相談せず、支援を受けていない人がいる	健康づくりの場や機会がない	区・自治会への未加入者が多い	その他	不明・無回答
全体 (n=207)	22.2	8.7	4.3	24.6	2.9	1.4
三雲東小学校区 (n=13)	23.1	7.7	0.0	46.2	0.0	0.0
三雲小学校区 (n=42)	16.7	7.1	2.4	19.0	2.4	0.0
石部小学校区 (n=27)	7.4	3.7	11.1	44.4	3.7	3.7
石部南小学校区 (n=20)	40.0	20.0	0.0	30.0	5.0	0.0
岩根小学校区 (n=23)	26.1	4.3	13.0	30.4	4.3	0.0
菩提寺小学校区 (n=19)	26.3	5.3	5.3	21.1	0.0	5.3
菩提寺北小学校区 (n=12)	8.3	0.0	8.3	16.7	0.0	0.0
下田小学校区 (n=32)	28.1	9.4	0.0	12.5	3.1	3.1
水戸小学校区 (n=19)	26.3	21.1	0.0	10.5	5.3	0.0

3. 活動について

問 10 あなたご自身が地域の支えあい活動を進めるうえで抱えている課題は何ですか。
(〇は5つまで)

回答者自身が抱えている課題について、「活動の担い手が高齢化している」が72.5%と最も高く、次いで「活動を担う人が同じで、負担が大きい」が52.7%、「個人情報の保護により行政から活動に必要な情報が得られない」が39.1%となっています。

地区別にみると、岩根小学校区、菩提寺北小学校区で「活動の担い手が高齢化している」と「活動を担う人が同じで、負担が大きい」がともに最も高くなっています。それ以外の地区で「活動の担い手が高齢化している」が最も高くなっています。



その他回答

- 70歳以上でも仕事があり、区の役員をしてもらえない
- 検討段階で理想を話し合っているのみ
- 対話や接触が不十分
- 外国籍の人への情報伝達
- 気になっている家（家庭）に、踏み込んだことを聞けない
- コロナ禍で活動が減り、高齢者への訪問活動が制限

【地区別クロス】

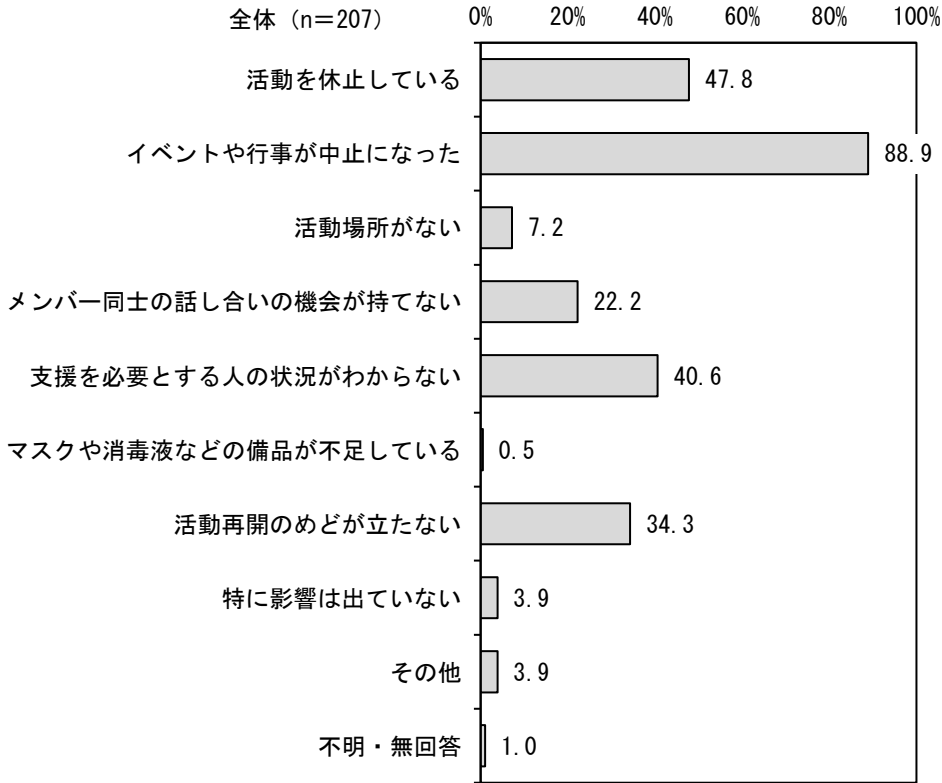
単位：%	活動の担い手が 高齢化している	活動の中心となる リーダーがいらない	後継者がいない	活動を担う人が同じ で、負担が大きい	男女の偏りがある	活動がマンネリ化 している	個人情報保護により 行政から活動に必要な 情報が得られない	行政や社会福祉協議会 のどこにつないだら 良いのかわからない	地域の各世帯の状況 把握が困難である	活動するための資金が 不足している
全体 (n=207)	72.5	27.1	37.7	52.7	6.3	20.3	39.1	4.8	33.3	6.8
三雲東小学校区 (n=13)	76.9	38.5	7.7	69.2	0.0	23.1	38.5	0.0	38.5	7.7
三雲小学校区 (n=42)	71.4	16.7	40.5	42.9	9.5	11.9	50.0	2.4	35.7	11.9
石部小学校区 (n=27)	74.1	22.2	40.7	55.6	0.0	37.0	37.0	11.1	25.9	3.7
石部南小学校区 (n=20)	75.0	30.0	15.0	70.0	10.0	20.0	45.0	5.0	45.0	10.0
岩根小学校区 (n=23)	56.5	26.1	30.4	56.5	8.7	21.7	30.4	4.3	30.4	13.0
菩提寺小学校区 (n=19)	68.4	31.6	42.1	47.4	0.0	15.8	52.6	10.5	42.1	0.0
菩提寺北小学校区 (n=12)	83.3	25.0	66.7	83.3	8.3	8.3	25.0	0.0	25.0	0.0
下田小学校区 (n=32)	71.9	34.4	25.0	37.5	9.4	25.0	31.3	3.1	31.3	3.1
水戸小学校区 (n=19)	84.2	31.6	78.9	47.4	5.3	15.8	31.6	5.3	26.3	5.3

単位：%	行事等に新たに参加 する人が少ない	活動場所の確保が 難しい	活動にあつての ノウハウや知識が 不足している	他の団体や関係機関と 交流したり連携したり する機会が少ない	特に課題はない	その他	不明・無回答
全体 (n=207)	37.7	4.3	22.7	21.3	0.0	3.4	2.4
三雲東小学校区 (n=13)	61.5	7.7	23.1	23.1	0.0	0.0	0.0
三雲小学校区 (n=42)	33.3	4.8	19.0	26.2	0.0	0.0	0.0
石部小学校区 (n=27)	44.4	3.7	25.9	14.8	0.0	3.7	3.7
石部南小学校区 (n=20)	25.0	5.0	35.0	10.0	0.0	5.0	5.0
岩根小学校区 (n=23)	47.8	4.3	30.4	26.1	0.0	13.0	4.3
菩提寺小学校区 (n=19)	31.6	0.0	10.5	21.1	0.0	0.0	0.0
菩提寺北小学校区 (n=12)	41.7	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3
下田小学校区 (n=32)	31.3	3.1	37.5	25.0	0.0	3.1	3.1
水戸小学校区 (n=19)	36.8	5.3	5.3	26.3	0.0	5.3	0.0

問 11 活動を行う上で、新型コロナウイルス感染症による影響はありますか。(〇はいくつでも)

新型コロナウイルス感染症による活動への影響について、「イベントや行事が中止になった」が 88.9%と最も高く、次いで「活動を休止している」が 47.8%、「支援を必要とする人の状況がわからない」が 40.6%となっています。

地区別にみると、すべての地区で「イベントや行事が中止になった」が最も高くなっています。



その他回答
● 訪問を控えている
● 見守り・訪問活動が減少
● 個々の意識の違い
● 今までのような内容の高齢者サロン行えず、メニューに苦労
● 開催か中止かの判断基準が分からない

【地区別クロス】

単位：%	活動を休止している	イベントや行事が中止になった	活動場所がない	メンバー同士の話し合いの機会が持てない	支援を必要とする人の状況がわからない	マスクや消毒液などの備品が不足している	活動再開のめどが立たない	特に影響は出ていない	その他	不明・無回答
全体 (n=207)	47.8	88.9	7.2	22.2	40.6	0.5	34.3	3.9	3.9	1.0
三雲東小学校区 (n=13)	53.8	100.0	7.7	7.7	61.5	0.0	46.2	0.0	0.0	0.0
三雲小学校区 (n=42)	28.6	90.5	4.8	19.0	40.5	2.4	21.4	2.4	2.4	0.0
石部小学校区 (n=27)	59.3	85.2	11.1	22.2	48.1	0.0	37.0	3.7	7.4	3.7
石部南小学校区 (n=20)	60.0	90.0	15.0	30.0	40.0	0.0	55.0	5.0	10.0	0.0
岩根小学校区 (n=23)	69.6	87.0	0.0	26.1	17.4	0.0	60.9	0.0	4.3	0.0
菩提寺小学校区 (n=19)	47.4	89.5	0.0	15.8	42.1	0.0	31.6	5.3	0.0	0.0
菩提寺北小学校区 (n=12)	25.0	91.7	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0
下田小学校区 (n=32)	43.8	84.4	0.0	34.4	50.0	0.0	34.4	6.3	3.1	3.1
水戸小学校区 (n=19)	52.6	89.5	31.6	15.8	31.6	0.0	21.1	5.3	0.0	0.0

問 12 コロナ禍の中で、新たに取り組んでいることがあれば教えてください。(自由記述)

<地域まちづくり協議会役員>

新たに取り組んでいること
● イベントや行事の際、コロナ対策徹底と規模縮小
● 高齢者宅への家庭訪問
● 人数制限、書面での報告
● 全体会合でなく、個人的な少人数会合に変更
● リモート講演会の企画 ● 手作りマスク販売
● オンライン会議、講演会への参加
● イベント開催の人数減や2部制にして開催
● 各行事を役員だけで縮小して活動
● まち協ではソーシャルディスタンスを考えながらのイベント実施を始めた。屋内では広い広間で実施 ● 自治会はことごとく中止となっている。高齢者はワクチン接種が進んできたので、百歳体操やイベントを徐々に開始
● 少人数での活動に切り替えた

<区役員>

新たに取り組んでいること
● 正副組長会を組長会にして出席者を半減 ● 草刈等の作業は接触時間を減らした
● 全く活動ができていないので、設備の新設やリフォームや地域美化など、平時には資金的にできない案件について取り組みを実施 (LED 交換・外灯新設・河川の業者委託清掃・集会場のリフォーム等)
● 集会活動から訪問活動に変更
● 自治会員の了解が得られた作業は外部委託
● 会議対象者の絞り込み、時間短縮、飲食物の提供取り止め、換気の徹底
● ワクチン接種予約の手助け ● 今までの区行事の見直し
● ふれあいサロンが中止のため、サロンだより・パズル・まちがい探し等を持って訪問活動をしている
● 自治会活動は休止中
● 会議の環境を整えた
● zoom 会議を実施
● 総会や会合は書面で決議、出張を控える
● 会合実施回数の低減、会議時間の短縮
● 定例の会議場所を公民館からまちづくりセンターに変更
● ボランティアによる草刈り実施
● 山林や河川等、危険個所の点検と整備事業の実施、災害時の対策検討
● オンラインによるサークル活動
● 室内行事 (サンライフ甲西大ホールを利用、弁当持ち帰り) ● 秋祭り (参加者名簿作成、リストバンド装着 (クラスター対策))

<民生委員・児童委員>

新たに取り組んでいること
● スマートフォン・LINE の活用で、連絡および内容の共有
● 電話での安否確認を利用
● 気になる人には手書きのメッセージを付けてポストイングした。趣味を活かし絵手紙を出した
● 独居老人への声かけと電話での相談や話し相手
● 訪問活動を電話に変えている
● 一日でも早いコロナの終息
● 個人情報を守るに、本来助けが必要な人の情報が各区役員に伝わらないのが残念。もう少し公的機関の人たちに勇気を持ってほしいと感じている
● みんな中止になり困っている
● 行事が中止になり、顔を合わせる場が減少。個別訪問するなど、少しの情報も集められたらと思う
● 定例会の会場を大会議室に変更し、短時間で会議が終了するよう事前段取りを良くする
● 120名全体研修は中止し、3分の1(40名)の部会研修に変更・縮小した
● 「サロン」のおたよりを作成してポストイング
● ワクチン接種の予約とデマンド交通
● おたよりを出してポストイング
● 休止していた活動を形を変えて再開
● 訪問が難しく、電話で安否確認している
● ふれあいサロン等、高齢者との関りが少なくなった。65歳以上の世帯、単身者への訪問見守りを進めている
● 活動が中止になる中で、75歳以上の単身高齢者の見守りを行っている
● 電話での見守り活動
● 人と人との接触を避け、体づくりをしている
● 電話やメール、LINEによる安否確認に切り替えている。携帯番号や緊急時の連絡先などの個人情報を教えてもらえるなど、コロナによる怪我の功名もあった
● オンラインで親子の集いを行う予定
● 会わずに済むように、ポストイング
● ワクチン接種者も増えるだろうから、全体会議や講演会等を増やしていければいい
● ひとり暮らし高齢者等に対する訪問時は対面を避け、玄関先や電話で元気であるかの確認
● ワクチン接種の手伝い
● 感染防止対応策を行い通常活動
● 高齢者対象にワクチン接種の確認および接種推奨を促した
● 65歳以上独身高齢者の集いは参加者募集した人数での会食や講演等を行っていたが、対象全宅を訪問し、粗品渡しと日常会話で見守り確認に変更
● 親子ふれあいの集いをオンラインで実施予定で、準備をしている
● 民生児童委員の定例会および活動には出席しているが、個人的には他府県への介入は避けている。多人数の受け入りを制限し、子どもたち宅にも立ち寄っていない。日常生活における買い物のみ外出し、密を避けている

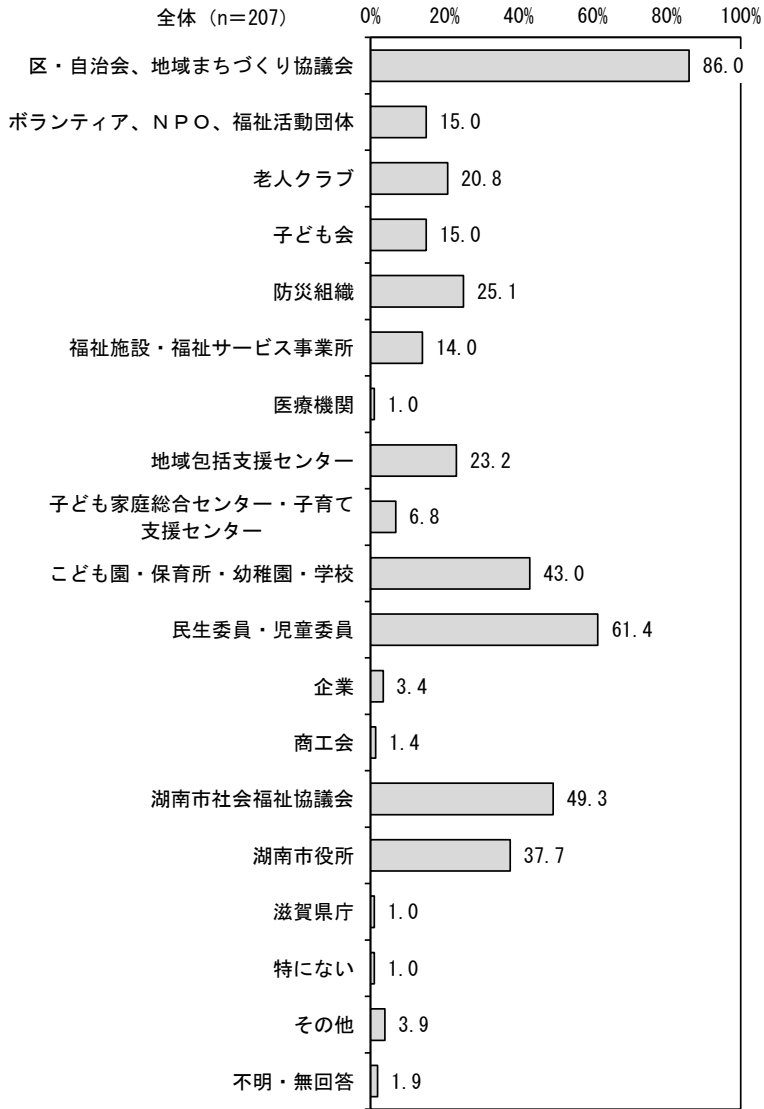
<保護司>

新たに取り組んでいること
● 大人数のサークルが消滅し、コロナの影響を受けないサークルを立ち上げた
● 会議場所や参加者の消毒、マスク着用

問 13 あなたは、地域での活動の際に、どのような組織・団体などと連携して活動されていますか。
 (〇はいくつでも)

地域での活動の際に連携している組織・団体について、「区・自治会、地域まちづくり協議会」が86.0%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員」が61.4%、「湖南省社会福祉協議会」が49.3%となっています。

地区別にみると、菩提寺北小学校区で「民生委員・児童委員」、それ以外の地区で「区・自治会、地域まちづくり協議会」が最も高くなっています。



その他回答	
●	保護観察所（2件）
●	青少年育成学区協議会
●	日赤
●	自主サークル
●	保健センター、湖南省文化体育振興事業団
●	少年センター
●	更生保護女性会

【地区別クロス】

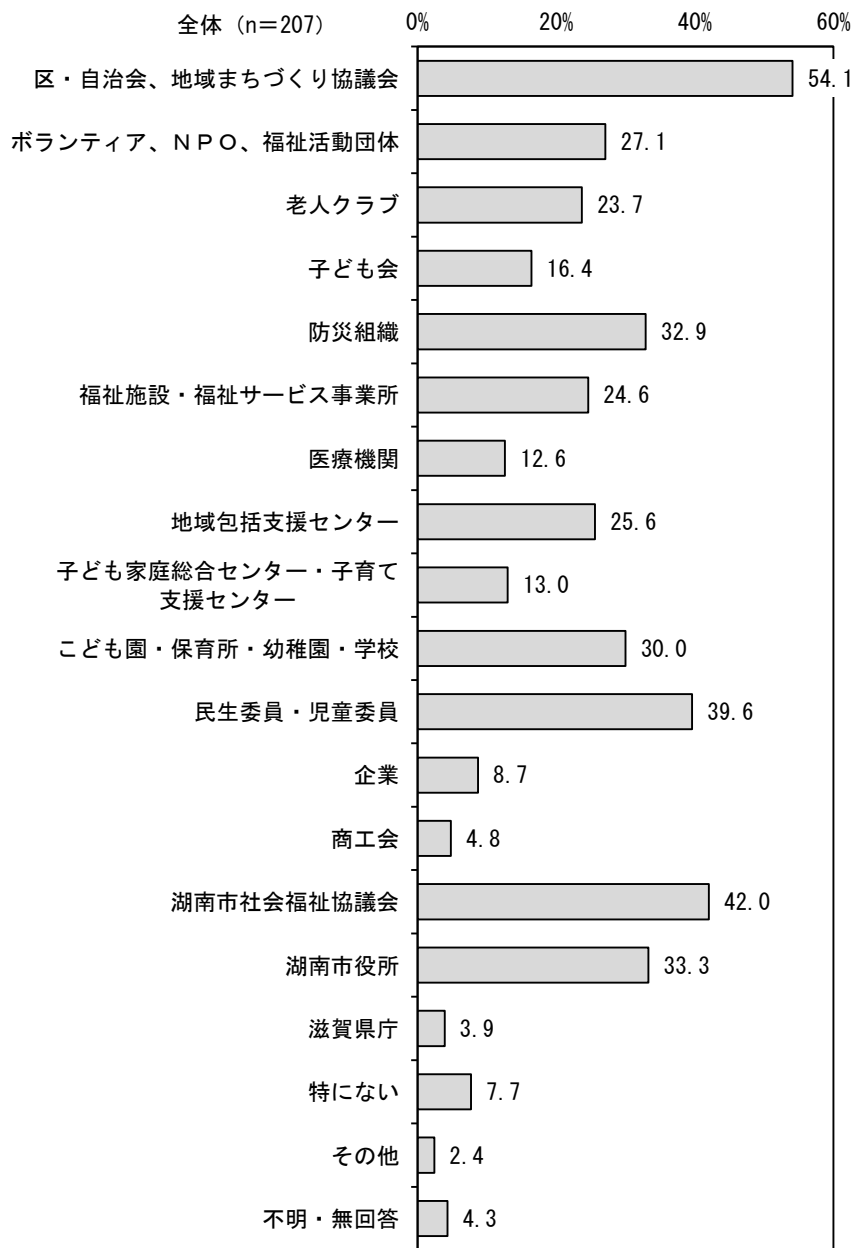
単位：%	地域まちづくり協議会・自治会、	ボランティア、NPO、 福祉活動団体	老人クラブ	子ども会	防災組織	福祉施設・ 福祉サービス事業所	医療機関	地域包括支援センター	子ども家庭総合センター・ 子育て支援センター	こども園・保育所・ 幼稚園・学校
全体 (n=207)	86.0	15.0	20.8	15.0	25.1	14.0	1.0	23.2	6.8	43.0
三雲東小学校区 (n=13)	92.3	15.4	7.7	15.4	38.5	7.7	0.0	23.1	15.4	38.5
三雲小学校区 (n=42)	90.5	11.9	23.8	21.4	33.3	9.5	2.4	14.3	2.4	47.6
石部小学校区 (n=27)	77.8	22.2	22.2	14.8	18.5	14.8	0.0	22.2	7.4	48.1
石部南小学校区 (n=20)	80.0	10.0	25.0	15.0	30.0	25.0	0.0	30.0	10.0	35.0
岩根小学校区 (n=23)	87.0	4.3	43.5	13.0	17.4	8.7	4.3	21.7	8.7	30.4
菩提寺小学校区 (n=19)	89.5	36.8	21.1	10.5	21.1	31.6	0.0	36.8	5.3	42.1
菩提寺北小学校区 (n=12)	83.3	33.3	8.3	25.0	33.3	41.7	0.0	41.7	0.0	41.7
下田小学校区 (n=32)	81.3	6.3	18.8	12.5	15.6	0.0	0.0	15.6	3.1	50.0
水戸小学校区 (n=19)	94.7	10.5	0.0	5.3	26.3	10.5	0.0	26.3	15.8	42.1

単位：%	民生委員・児童委員	企業	商工会	湖南省社会福祉協議会	湖南省役所	滋賀県庁	特にない	その他	不明・無回答
全体 (n=207)	61.4	3.4	1.4	49.3	37.7	1.0	1.0	3.9	1.9
三雲東小学校区 (n=13)	38.5	0.0	0.0	69.2	38.5	0.0	0.0	7.7	0.0
三雲小学校区 (n=42)	57.1	2.4	0.0	47.6	40.5	2.4	0.0	4.8	2.4
石部小学校区 (n=27)	66.7	3.7	0.0	51.9	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
石部南小学校区 (n=20)	50.0	5.0	0.0	50.0	40.0	0.0	5.0	0.0	5.0
岩根小学校区 (n=23)	52.2	8.7	4.3	39.1	30.4	0.0	0.0	4.3	0.0
菩提寺小学校区 (n=19)	84.2	0.0	5.3	47.4	31.6	5.3	0.0	5.3	5.3
菩提寺北小学校区 (n=12)	91.7	0.0	0.0	66.7	50.0	0.0	8.3	0.0	0.0
下田小学校区 (n=32)	50.0	6.3	3.1	31.3	34.4	0.0	0.0	6.3	3.1
水戸小学校区 (n=19)	78.9	0.0	0.0	68.4	47.4	0.0	0.0	5.3	0.0

問 14 今後、活動を行う際に、連携したい組織・団体などがありますか。(〇はいくつでも)

今後活動を行う際に連携したい組織・団体について、「区・自治会、地域まちづくり協議会」が54.1%と最も高く、次いで「湖南省社会福祉協議会」が42.0%、「民生委員・児童委員」が39.6%となっています。

地区別にみると、菩提寺小学校区では「福祉施設・福祉サービス事業所」が最も高くなっています。それ以外の地区で「区・自治会、地域まちづくり協議会」が最も高くなっています。また、菩提寺北小学校区では「防災組織」、「民生委員・児童委員」、「湖南省社会福祉協議会」、水戸小学校区では「湖南省社会福祉協議会」もともに最も高くなっています。



その他回答	
●	青少年育成学区協議会
●	更生保護女性会

【地区別クロス】

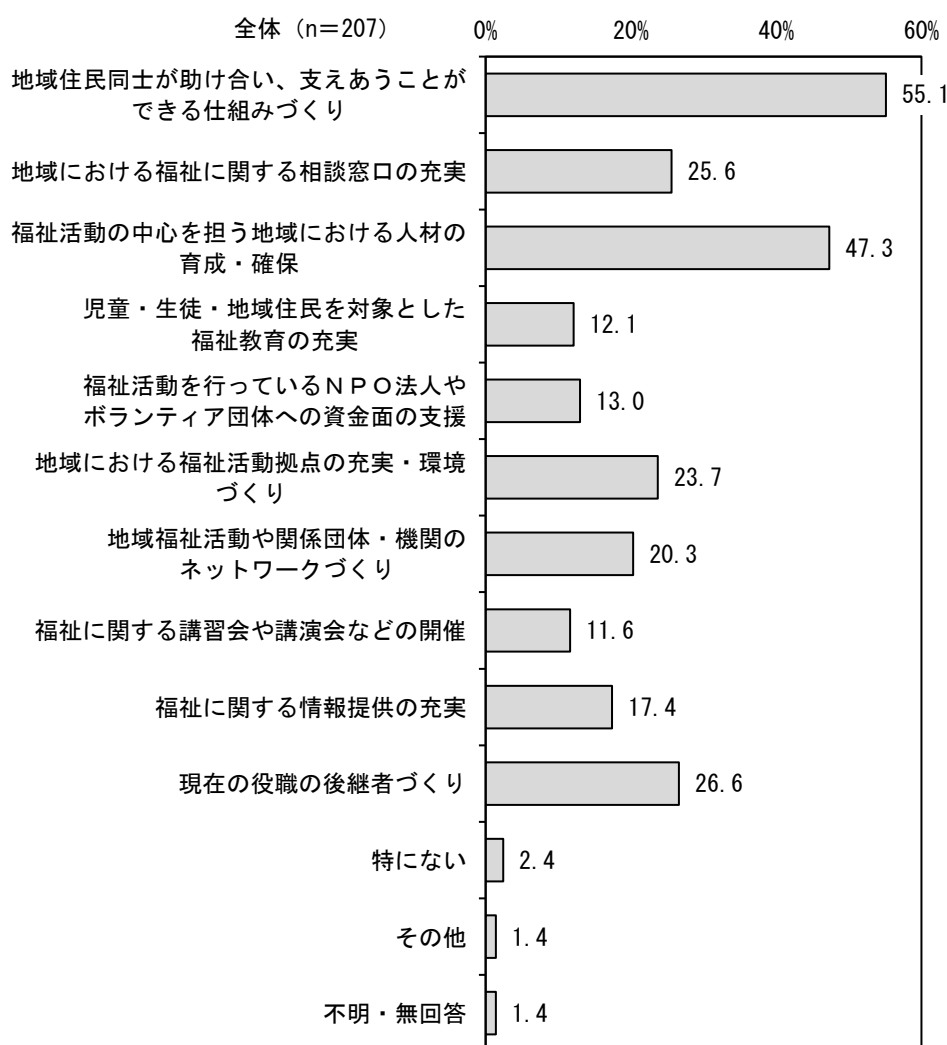
単位：%	地区・自治会、 地域まちづくり協議会	ボランティア、NPO、 福祉活動団体	老人クラブ	子ども会	防災組織	福祉施設・ 福祉サービス事業所	医療機関	地域包括支援センター	子ども家庭総合センター・ 子育て支援センター	こども園・保育所・ 幼稚園・学校
全体 (n=207)	54.1	27.1	23.7	16.4	32.9	24.6	12.6	25.6	13.0	30.0
三雲東小学校区 (n=13)	61.5	15.4	38.5	15.4	53.8	7.7	7.7	30.8	0.0	23.1
三雲小学校区 (n=42)	54.8	28.6	14.3	19.0	40.5	23.8	11.9	19.0	23.8	35.7
石部小学校区 (n=27)	59.3	33.3	22.2	14.8	22.2	29.6	7.4	25.9	14.8	37.0
石部南小学校区 (n=20)	50.0	20.0	35.0	20.0	35.0	40.0	15.0	30.0	5.0	25.0
岩根小学校区 (n=23)	52.2	30.4	30.4	13.0	17.4	8.7	4.3	17.4	0.0	13.0
菩提寺小学校区 (n=19)	26.3	21.1	10.5	5.3	15.8	36.8	15.8	21.1	21.1	15.8
菩提寺北小学校区 (n=12)	66.7	25.0	8.3	16.7	66.7	16.7	25.0	33.3	0.0	25.0
下田小学校区 (n=32)	59.4	31.3	34.4	18.8	31.3	18.8	6.3	34.4	12.5	40.6
水戸小学校区 (n=19)	57.9	26.3	21.1	21.1	31.6	36.8	31.6	26.3	21.1	36.8

単位：%	民生委員・児童委員	企業	商工会	湖南省社会福祉協議会	湖南省役所	滋賀県庁	特にない	その他	不明・無回答
全体 (n=207)	39.6	8.7	4.8	42.0	33.3	3.9	7.7	2.4	4.3
三雲東小学校区 (n=13)	38.5	0.0	7.7	53.8	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0
三雲小学校区 (n=42)	42.9	11.9	2.4	40.5	35.7	7.1	2.4	2.4	2.4
石部小学校区 (n=27)	51.9	7.4	7.4	48.1	29.6	0.0	7.4	3.7	0.0
石部南小学校区 (n=20)	35.0	10.0	5.0	45.0	30.0	10.0	5.0	0.0	10.0
岩根小学校区 (n=23)	26.1	4.3	4.3	34.8	30.4	4.3	13.0	0.0	4.3
菩提寺小学校区 (n=19)	21.1	5.3	0.0	26.3	26.3	0.0	21.1	10.5	5.3
菩提寺北小学校区 (n=12)	66.7	0.0	0.0	66.7	25.0	0.0	8.3	0.0	8.3
下田小学校区 (n=32)	34.4	12.5	6.3	28.1	37.5	0.0	9.4	3.1	6.3
水戸小学校区 (n=19)	47.4	15.8	10.5	57.9	47.4	10.5	5.3	0.0	5.3

問 15 地域福祉を進める上で、市や社会福祉協議会に期待することは何ですか。(〇は3つまで)

地域福祉を進める上で市や社会福祉協議会に期待することについて、「地域住民同士が助け合い、支えあうことができる仕組みづくり」が 55.1%と最も高く、次いで「福祉活動の中心を担う地域における人材の育成・確保」が 47.3%、「現在の役職の後継者づくり」が 26.6%となっています。

地区別にみると、石部小学校区、水戸小学校区で「地域住民同士が助け合い、支えあうことができる仕組みづくり」と「福祉活動の中心を担う地域における人材の育成・確保」、菩提寺北小学校区で「福祉活動の中心を担う地域における人材の育成・確保」と「現在の役職の後継者づくり」がともに最も高くなっています。また、三雲東小学校区、岩根小学校区で「福祉活動の中心を担う地域における人材の育成・確保」、それ以外の地区で「地域住民同士が助け合い、支えあうことができる仕組みづくり」が最も高くなっています。



その他回答

- 大変な時期の中ではありますが引き続きお願いします
- 福祉関連予算の増額

【地区別クロス】

単位：%	地域住民同士が助け合い、支えあうことができる仕組みづくり	地域における福祉に関する相談窓口の充実	福祉活動の中心を担う地域における人材の育成・確保	児童・生徒・地域住民を対象とした福祉教育の充実	NPO法人やボランティア団体への資金面の支援	地域における福祉活動拠点の充実・環境づくり	地域福祉活動や関係団体・機関のネットワークづくり	福祉に関する講習会や講演会などの開催	福祉に関する情報提供の充実	現在の役職の後継者づくり
全体 (n=207)	55.1	25.6	47.3	12.1	13.0	23.7	20.3	11.6	17.4	26.6
三雲東小学校区 (n=13)	38.5	30.8	76.9	7.7	7.7	38.5	23.1	7.7	15.4	23.1
三雲小学校区 (n=42)	54.8	23.8	45.2	9.5	14.3	26.2	23.8	19.0	21.4	19.0
石部小学校区 (n=27)	48.1	22.2	48.1	7.4	18.5	33.3	11.1	11.1	7.4	29.6
石部南小学校区 (n=20)	85.0	20.0	45.0	20.0	5.0	15.0	20.0	20.0	15.0	25.0
岩根小学校区 (n=23)	47.8	34.8	52.2	4.3	13.0	30.4	21.7	4.3	17.4	26.1
菩提寺小学校区 (n=19)	57.9	21.1	42.1	5.3	5.3	21.1	36.8	10.5	21.1	31.6
菩提寺北小学校区 (n=12)	33.3	25.0	50.0	0.0	25.0	16.7	25.0	0.0	8.3	50.0
下田小学校区 (n=32)	65.6	21.9	37.5	18.8	18.8	9.4	18.8	12.5	25.0	21.9
水戸小学校区 (n=19)	47.4	36.8	47.4	31.6	5.3	26.3	5.3	5.3	15.8	31.6

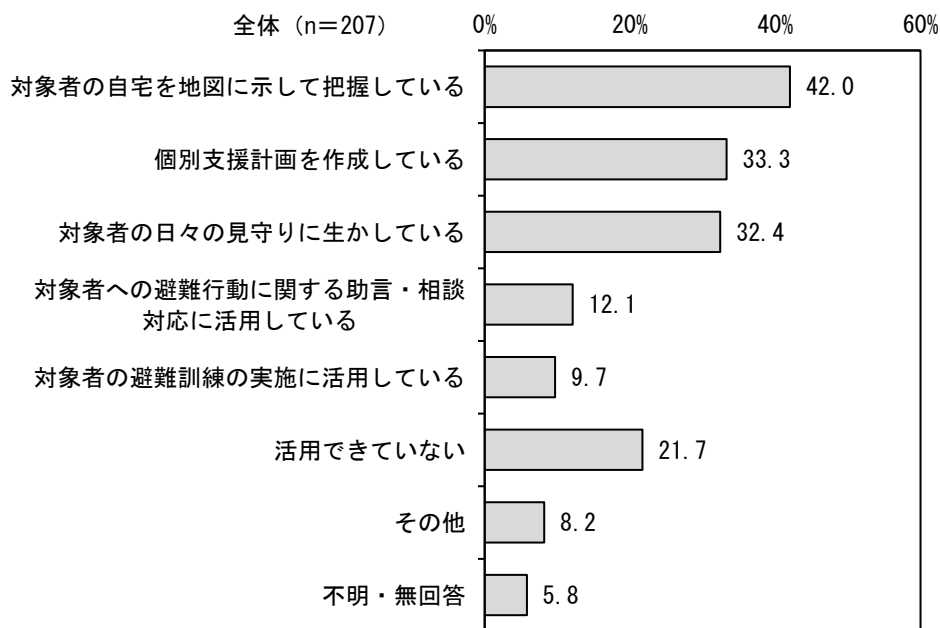
単位：%	特にない	その他	不明・無回答
全体 (n=207)	2.4	1.4	1.4
三雲東小学校区 (n=13)	0.0	0.0	0.0
三雲小学校区 (n=42)	0.0	2.4	0.0
石部小学校区 (n=27)	0.0	3.7	7.4
石部南小学校区 (n=20)	0.0	0.0	0.0
岩根小学校区 (n=23)	4.3	0.0	0.0
菩提寺小学校区 (n=19)	5.3	5.3	0.0
菩提寺北小学校区 (n=12)	8.3	0.0	0.0
下田小学校区 (n=32)	6.3	0.0	3.1
水戸小学校区 (n=19)	0.0	0.0	0.0

4. 避難行動要支援者の情報について

問 16 あなたがお住まいの地域では、避難行動要支援者の情報をどのように活用していますか。
(〇はいくつでも)

地域では避難行動要支援者の情報をどのように活用しているかについて、「対象者の自宅を地図に示して把握している」が42.0%と最も高く、次いで「個別支援計画を作成している」が33.3%、「対象者の日々の見守りに生かしている」が32.4%となっています。

地区別にみると、ほとんどの地区で「対象者の自宅を地図に示して把握している」、「個別支援計画を作成している」、「対象者の日々の見守りに生かしている」のいずれかが最も高くなっていますが、三雲東小学校区、下田小学校区では「活用できていない」もともに最も高くなっています。



その他回答

- 対象者はいない (2件)
- 情報が無い (2件)
- 民生委員との連携
- 情報は特定の人しか知らない
- 区長が作成中
- 地域では活用できていると思うが、私自身は認識していない
- 一覧表にしている
- 文章化された情報は無いが、把握できている
- 要支援者の情報は無いが、民生委員は把握しており、リストを作成済

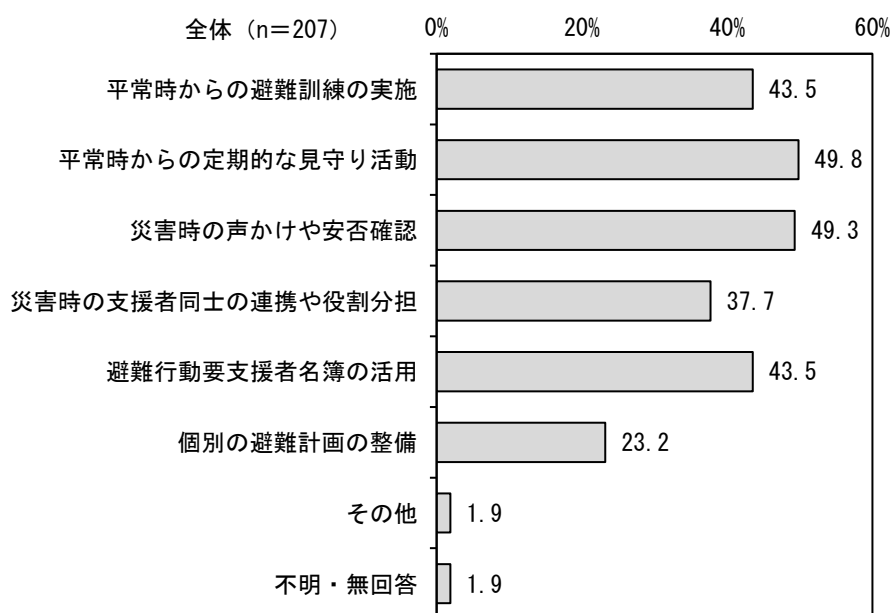
【地区別クロス】

単位：%	対象者の自宅を地図に示して把握している	個別支援計画を作成している	対象者の日々の見守りに生かしている	対象者への避難行動に関する助言・相談対応に活用している	対象者の避難訓練の実施に活用している	活用できていない	その他	不明・無回答
全体 (n=207)	42.0	33.3	32.4	12.1	9.7	21.7	8.2	5.8
三雲東小学校区 (n=13)	23.1	7.7	30.8	7.7	7.7	30.8	7.7	7.7
三雲小学校区 (n=42)	50.0	38.1	26.2	14.3	14.3	23.8	4.8	0.0
石部小学校区 (n=27)	40.7	25.9	29.6	14.8	3.7	18.5	11.1	3.7
石部南小学校区 (n=20)	35.0	35.0	25.0	10.0	15.0	20.0	10.0	10.0
岩根小学校区 (n=23)	34.8	8.7	34.8	8.7	13.0	17.4	13.0	13.0
菩提寺小学校区 (n=19)	42.1	36.8	42.1	21.1	5.3	21.1	5.3	10.5
菩提寺北小学校区 (n=12)	41.7	66.7	25.0	8.3	16.7	16.7	8.3	8.3
下田小学校区 (n=32)	37.5	28.1	34.4	9.4	3.1	37.5	12.5	3.1
水戸小学校区 (n=19)	63.2	63.2	47.4	10.5	10.5	0.0	0.0	5.3

問 17 災害時に避難行動要支援者の安全を守るために、あなたがお住まいの地域ではどのような取組が必要と考えますか。(〇は3つまで)

災害時に避難行動要支援者の安全を守るために地域で必要な取組について、「平常時からの定期的な見守り活動」が49.8%と最も高く、次いで「災害時の声かけや安否確認」が49.3%、「平常時からの避難訓練の実施」と「避難行動要支援者名簿の活用」がともに43.5%となっています。

地区別にみると、菩提寺小学校区、下田小学校区、水戸小学校区で「平常時からの定期的な見守り活動」、石部小学校区で「災害時の声かけや安否確認」、石部南小学校区で「避難行動要支援者名簿の活用」、菩提寺北小学校区で「平常時からの避難訓練の実施」が最も高くなっています。三雲東小学校区で「災害時の声かけや安否確認」と「避難行動要支援者名簿の活用」、三雲小学校区で「平常時からの避難訓練の実施」と「災害時の声かけや安否確認」、岩根小学校区で「平常時からの避難訓練の実施」と「平常時からの定期的な見守り活動」がともに最も高くなっています。



その他回答

- 対象者はいない
- 普段からの住民交流
- 要支援者の情報がなく、取り組めない

【地区別クロス】

単位：%	平常時からの 避難訓練の実施	平常時からの 定期的な見守り 活動	災害時の声かけ や安否確認	災害時の支援者 同士の連携や 役割分担	避難行動要支援 者名簿の活用	個別の避難計画 の整備	その他	不明・無回答
全体 (n=207)	43.5	49.8	49.3	37.7	43.5	23.2	1.9	1.9
三雲東小学校区 (n=13)	15.4	46.2	53.8	46.2	53.8	7.7	7.7	0.0
三雲小学校区 (n=42)	54.8	33.3	54.8	35.7	47.6	23.8	2.4	0.0
石部小学校区 (n=27)	48.1	48.1	59.3	37.0	29.6	18.5	3.7	3.7
石部南小学校区 (n=20)	60.0	45.0	35.0	20.0	70.0	30.0	5.0	0.0
岩根小学校区 (n=23)	47.8	47.8	39.1	43.5	30.4	13.0	0.0	8.7
菩提寺小学校区 (n=19)	31.6	57.9	31.6	36.8	42.1	47.4	0.0	0.0
菩提寺北小学校区 (n=12)	66.7	41.7	58.3	41.7	25.0	8.3	0.0	0.0
下田小学校区 (n=32)	37.5	62.5	59.4	37.5	43.8	25.0	0.0	3.1
水戸小学校区 (n=19)	15.8	73.7	42.1	47.4	47.4	26.3	0.0	0.0

5. 自由記述

その他、地域福祉の推進について、ご意見・ご要望がございましたらご自由にお書きください。

<地域まちづくり協議会役員>

分野	自由回答
支えあい	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の支えあい活動を進めている。高齢者の買い物や通院のお手伝いと、軽自動車を市役所に借りて月2回の活動。今後の後継者を育てることが必須。自分自身が地域で最後まで生活できるように仕組みを作っている。安価で市内どこでも300円、ゴミ出しは50円で行っている
連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人情報の制限が多く、活動に支障がある。区と町内の連携が上手くいっていない
地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 働く年齢が延長し、地域活動をする層が高齢化する。現役時代から参加することが望まれる。地域活動をして初めて、人のためだけでなく、自分自身の生きがいを感じることができた。活動して初めて感じることにゆえに、活動にどう参加してもらうか日頃の人間関係を深めるためのリーダーも必要である ● 区としては古い規約の見直し、役員の手助けができる組織づくりを目指し会議を重ねている。新しい地域づくりを考えなければならない
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民参加のボランティアをどこまで求めるのか！どんな状況にある人をどこまで……。市民参加を求めるのなら、せめてまち協や自治会役員の継続的な訴えや教育が必要ではないか。例えば、独居高齢者宅の買い物や草引きまで、日頃の世話の範囲など。健康推進委員・民生児童委員・ボランティア（募集）にやれることは何か？
支援の必要な人	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政が把握している人や家族等に対し、行政としてどんな手立てを講じているか ● 高齢者家庭および独居高齢者で問題がありそうな事柄を社協や高齢福祉課へ連絡するが、どのように対処したらいいかの連絡がない（個人情報のためなのか？）
移動	<ul style="list-style-type: none"> ● 水戸学区まちづくり協議会では高齢者の通院や買い物等の付き添い送迎支援を行っているが、どの程度の身体不自由まで支援できるか判断に困る時がある ● 歩行困難者がいるので、自宅から目的地までの送迎対策を講じてほしい。早急にシステムの見直しをする
アンケート等	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民懇談会は大事なことだが、今回の会合は問題があった。初めての参加者への説明等、時間が短すぎた。市の福祉政策課と各地区、まち協役員との事前会議が必要と思われる ● 市民懇談会に参加したが、アンケートをするならば事前に調査し、参加した全員が理解できる設問にしてほしい。また事前に、市・区長会・まちづくり協議会・民生児童委員・健康推進員の代表者で会議の内容のすり合わせを行い、会議がスムーズに進むようにしてほしい。主催者は会議に誰が参加しているかを理解しておくこと ● 地域福祉と言っても、どんなことを言っているのか難しい。このアンケートで少し明らかになるかと思う。市の主催の会合でデータを示して説明されるが、それは結果や方向であり、そうなるまでの過程においてどこに問題があり課題があるのか、その点が大事なことでと考える

<区役員>

分野	自由回答
支えあい	<ul style="list-style-type: none"> ● 支えあいについて地域でしている。支援の必要な人は病院か施設にいる ● 各地域で意識の違いを感じる。人間関係が濃いところは普段の生活で解決できるように感じる ● 地域福祉は人間関係が深くなることで活性するので、人的な交流が必要
つながり	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要以上に個人に関わることを嫌がる ● コロナ禍を契機に、冠婚葬祭を親族のみで執り行う傾向が強くなっている。そのために地域福祉の必要性を感じる住民が徐々に多くなるのではないかとと思われる
連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在地域の運営組織を見直すためのワークショップが開催され、各学区において福祉関係も含み学区に合った実施に向けての検討会を行っている。社会福祉協議会においても新たな計画に向けて活動されている。すべてが同じでないが、進めている方向は同じ。湖南省代表者会議のメンバーは組織上、いずれの会合にも参加している。その他の役員も社協にいると思うが、同じ内容の検討であれば別々にせず進めてほしい。区自治会のメンバーは同じである。湖南省として縦割りでない体制の検討を願う ● 少子高齢化が進む中、自助・共助・公助それぞれが役割分担を明確にすることが大切 ● 基本、個人・近所・区などでできる限りの努力はすべきで、力不足のときは行政に手助け願う ● 地域福祉の推進を実施するのは行政なのか、地域ボランティアなのかを明確にすべき。市長は「行政の力には限りがある。それを地域に補ってほしい」と言うが、それは最後の手段であり、本来は限りある力をいかに増強するかを考え実施すべきだと思う
地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 区未加入者が多く、限られた人しかわからない。民生委員との連携が大事 ● コロナ禍の中、区の福祉関連行事（敬老会・独居高齢者のつどい等）の開催基準をどうするか判断が難しく、感染のことを考えると責任が取れない。特に敬老会は75歳以上該当者が増えると思われ、会場が狭くて1回での開催が難しく、区役員等のスタッフ負担が大きくなる。今後の敬老会は市やまちづくり協議会と自治区の共同開催ができないか考えたい ● 個々が経済的・社会的に自立することがまずは大事であり、現状を考えると退職後に社会活動に参画する人が少なくなっている。知識・知見・スキルを持つ高齢者が社会活動参画できる環境づくりが大切である
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ではボランティア精神のある人は一部で、多くの人に広げることが課題
移動	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の高齢化が進んでいる中で車の使用が必須の地域では、高齢者運転が大きな問題となることが予測される。市や地区で対策を講じることが必要
防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域最大の課題は、野洲川洪水対策です。湖南省ハザードマップによれば、野洲川洪水により100世帯以上の家屋が流出倒壊し、300世帯以上が床上浸水となると予測されている。命と財産と生活基盤を失い、「住みなれた地域で安心して暮らせる」前提が壊されてしまう。野洲川堤防の破堤防止工事、樋門設置工事等を国・県・市の関係部署にお願いします。縦割り行政とは思いますが、市民の啓蒙活動に協力してください ● 大きな災害時に支援を求めるための窓口公表を希望 ● 地区では要支援者が7名いるが、災害時（特に地震）の避難所を確保してほしい。福祉避難所開設訓練をお願いしたい
アンケート等	<ul style="list-style-type: none"> ● 前回の会議でもコンサルを入れて無意味だった。今回のアンケートも設問が不明なところばかり

<民生委員・児童委員>

分野	自由回答
支えあい	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の生活課題や支えあい・助け合いと言われても昔のような近所付き合いもなく、各家庭が困っていることを言い出しにくい状態で気付くことも難しい。どこを支え、誰を助ければいいのか見えない。いろいろな組織や団体はあるが繋がりもなく、事業も変化がなく予算が使われているのが現状。包括支援とはすべてを一つにまとめることである。支援を必要としている人は声をあげることもできず苦しんでいる。何か助けることはできないかと思っている人も多くいる。そこをうまくつなぐことができるように、親身になってほしい
つながり	<ul style="list-style-type: none"> ● 遠い親戚より近くの他人と親しく付き合う ● アパート住まいの人が増え、自治会未加入者がいる。相談相手も話し相手も無く、訪問しても断られることがある。それでも声かけはするが、インターフォン越しでは様子がわからず、声の調子で判断している。地域に溶け込んでもらえればいいと感じている ● アパート居住者への取り組みが難しい。個人情報保護のため誰が暮らしているかわからず、訪宅もままならない ● 自治会に加入していない地域がある。老人会や高齢者が集まる組織がなく、一人暮らしや昼間一人になる高齢者が孤立している可能性がある。敬老の日のプレゼントを手渡しに行き、大変喜ばれたことが心に残る。つながりがないことが心配である ● 災害時に本当に支援が必要な人の情報は自治会で把握しているが、コロナ禍で近所同士が顔を合わせるのは溝掃除日くらい。つながりが薄れている。横の連携を取り戻すため、まちづくりセンターでの講演会など開催してもらいたい
連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 市担当者と住民との間に温度差を感じる。市の担当者は本気で向き合ってほしい。多忙は理解できるが、一方通行で形だけと感じている。担当地域の高齢者に対しては情報もあり見守りできるが、子どもに対する支援・情報等は少ない。市・住民・ボランティア・民生委員で力を合わせ、住みよい湖南市を目指したい ● 委員会でのまとめ役は市職員になってほしい ● 重い話ばかりでなく、楽しい話もあればよい ● 住民から苦情が発生して市の担当者とも会議の場を設け、今後の進め方を検討する中、当時の区長の不手際により住民の声が潰された事例があった。地域で発生した苦情に対し、住民からの声を市に伝えるルートに関してのルール化が必要と思われる。現状では①「住民→当該組長→区長（自治会）→市」、②「住民→市長への手紙（または直接）→市」の二通りがあるが、市担当者は区長経由でないと受け付けないケースがほとんど。区長の判断能力を考慮し、必ずしも①のルートと決めずに柔軟な対応が必要。組長・区長や自治会には当然相互密に連絡し合うことは必要 ● 担当区の中にヘルパーが支援をしていることがあるが、民生委員として接点がない。どの家がヘルパーの支援を受けているのかわからないので、つながりを持ちたい ● 市で高齢者一人暮らしの見守りをしているが、一緒に見守りたいと思う。情報提供を共有してほしい ● 本来、行政が行うべきことをボランティアに頼り、机上でできない言い訳を繰り返す体質改善に取り組んでほしい ● ボランティアでは限界があり、高齢化も進み見守りも多すぎて大変である。次世代にバトンタッチしたい。仕事を辞めざるを得なかった。高齢者家族がもう少し見守ってほしい。近所に住んでいるからだけでは無理がある。市は仕事なのだから、積極的に対応すべきだ！地域へと言い過ぎだ！
地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 民生委員活動は自由であるべきで、特定の人に指図されるべきでない。仕事が増えると委員のなり手が無くなる ● 民生委員の任期について、後任に譲ることも大事。期間を決めてはどうか ● 民生委員の後継者が見つからない。また高齢化が進み、仕事の重みが増している。持続可能な制度にするため、根本的な改革が必要 ● 民生委員の仕事内容から考えて「一人区」は無くすべき ● 自分から考えて行動できる人間ではないので、指示してもらい地域福祉の役に立ちたい ● 民生委員・児童委員に個人情報の提供が少な過ぎる。全国的に民生委員や児童委員はなり

分野	自由回答
	<p>手がなく、3年任期ごとに減少している。昔からの考えでなく、地域の代表者（区・自治会）を含め、協議してやっていってもよいというイメージをつくるようにする。地域代表者がもう一度考えるべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ファイルやチラシを配布する際や、フードドライブを利用したくても自分で取りに行けない人たちの支援を民生委員できるように言われても、各家庭に訪ね歩く訳にはいかない。事前に回覧で通知し、各地区の民生委員に相談するように記してもらえれば、訪問支援につながるのではないかと ● 民生委員の3年に1度の改選時について、新任の方を選ぶ際、区長や市職員が頑張ってくれるが、現場の民生児童委員の声も聞いてほしい。「誰にでもできて資格はいらぬが、誰でもいい訳でない」。性格まで見抜くことは難しいが、委員同士協調できない人では難しい。人生のキャリアにおいて、今までの肩書き等で我流に動かれる人も大変である。なり手が無いために早く決めたくて「誰でもよい」という訳ではない。時間的にも経済的にも少し余裕があり、穏やかな普通の常識のある人が理想である。人選は慎重に願う ● 民児協の役割がボランティアと言いながら、個人情報入手が困難である。本当に役に立ちたいと考えている人が気の毒である。民生委員だけでも、いろいろな情報があればと思う ● 平成 27 年頃から「地域支え合うまちづくりフォーラム」が開催されているが、一向に前進していない。前年度から「地域支えあい推進員」が選任され期待しているが、活動内容が明確でない。地域支えあい推進員は幅広い視野でのリーダーシップを発揮してほしい
子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの安全安心について関心を持つこと ● 子育て支援センターを開設しているが、利用者がいないところがあり、気軽に利用してもらえる取り組みが必要。日頃からすべての人が利用できる催しを開催することが身近な存在（場所）として捉え、利用につなげたい
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットを利用した情報発信。今は全くダメな状態
移動	<ul style="list-style-type: none"> ● 滋賀県は車が無いとどこへも行けない。病院や買い物など行ける人は車を出してほしい。高齢化で運転免許証返納が多くなる。妙感寺区や泉が丘の人たちはボランティアをしたくても社協まで行く車がない。みんな高齢で早くボランティアする人を探さなければ、やる人がいなくなる。役をするのが嫌で抜けていく。どうにかならないものか困っている ● 車を運転できない高齢者の外出支援 ● 高齢者の健康対策 ● 核家族世帯が多く、近くに買い物する所もなく困っている高齢者が多い。移動食品販売店の定期的な出回りがあればよい
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学生や高齢者を対象とした「福祉券」などを発行してほしい ● 親との同居が嫌だから高齢者世帯が増えるわけで、老人の世話で精一杯。子どもの面倒など見る暇はない
コロナの影響	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍で研修会などが開催できず、活動の学習機会が少ない ● コロナ禍の中、生命を守る行動と言われると難しさを感じる。それぞれの思いで行動するということでしょうが、いつも自分のこの動きでよいのか不安になる。暑さ厳しくなる中、独居老人や高齢者の熱中症対策など、啓発・見守りに努めていかなければと考えている ● 今必要なことは、コロナ撲滅である。少しでも協力できることは、いろいろな団体が結束すること。ある自治会では高齢者のコロナ予防接種電話受付を行っていたようだ
防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区との連携が密に取れていないため、避難行動要支援者の把握ができず不安がある ● 災害時、食料品・毛布・備品等や、災害関係者やボランティアが寝泊まりできる大きな和室、大きな風呂を備えた建物が必要。給食センター周辺に大きな施設が必要と思われる。給食センターをフルに活用できる。また食料品は災害訓練時に使用し、新しい品を補充すればよい
地域福祉計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 民生児童委員を任命し、それを機に湖南市福祉計画ならびに活動計画を初めて拝見した。その中で策定の必要性と基本理念・基本目標を素晴らしい取り組みだと痛感した。また福祉の視点からわかりやすく親しみのある表現や内容となっており、誰もが理解できる。但し、その掲げられた内容や行動が真に生かされているのか？「協働・連携・活動・育成・共助・提供・推進・場づくり」等、一般人には届いていない。市民一人ひとりが福祉について身近に感じられる方策や方法について検討が必要。そのことが基本計画の「ぬくもり・安心・

分野	自由回答
	希望」につながるのだと思う
アンケート等	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケートで情報を集める事も大事だが、このアンケートだけでは私たちの一方的な思い・考え方や高齢者の思いが一致しているとは思えない。高齢者にアンケート用紙を送っても表面的な買い物、交通手段が無い等が出てくる。また通常困っていることはないかと尋ねても大概は特にないと答えられる。 ● 各役員、団体ごとに高齢者、障がい者（家族）、子ども世帯等に分けて、それぞれに訪問式で困り事やしてほしい事はないかと聞き出し方式で調査しないと本当の問題点が出てこない。老人会やサロン、他行事等に出てこない人、出てこれない人を中心に訪問アンケートはどうか

<健康推進員、保護司>

分野	自由回答
支えあい	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ではアパート住人や外国人が多く住んでいるが面識がなく、地域で支え合うのは難しい ● 今住んでいる地域では個人主義の人が多く、「自治会に入りたくない」「役員が当たるのなら、自治会を脱退したい」、「自治会に加入してもメリットがない」等、以前なら考えられない意見がある。生活が豊かになり車があり個人で楽しめるので、特に自治会活動には不参加の人が多。役員のなり手もなく、この先に不安を感じる。従って地域福祉は本当に難しいものがある。今後は高齢者や障害者が隣人の場合、必要であれば個人個人ができる範囲で気にかけてあげるという方法しかないように思う。例えば、回覧板を回す時や郵便、新聞がたまっていたら、民生委員さんに連絡するのがよい。民生委員は隣人の様子は把握できないので… ● 今後益々高齢者が増えて地域福祉が重要になるというのに、自治会の現状は厳しい
地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動を行うにあたり同じメンバーばかりで、他の人も積極的に参加してほしい ● 若者世代の活動への不参加 ● 財政支援 ● リーダーの高齢化と世代交代の課題に向けた克服施策 ● 活動持続のための点検事項 <ul style="list-style-type: none"> ①自らが楽しむ活動であること ②我が身を知る（自らの姿が見える活動） ③無理をしない ④食べる飲むこと ● 各課に専門職の配置と会議の実施
活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉関連の予算増額が必要。福祉事業に必要な物品を保護司が「会費」としてポケットマネーを集めて購入している現状。本来は事業予算の範囲内で処理されるべきで、改善してほしい
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉ボランティアの高齢化
コロナの影響	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍は3年続くと言われている。地域が乗り越えられる仕組み・計画をお願いしたい
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護司について情報が発信されておらず、存在そのものを知らない人が多い。そのために活動を理解していないように感じる。自治会などを通じて、存在を周知してほしい。そのために後任の人選に苦労している
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護司の役割は再犯防止であり、生活の安定を支援している。住居の確保、当座の生活資金、仕事の確保が必要である。保護観察期間が過ぎると、担当者との関わりがなくなり、刑期満了者に対する支援は法的にもない。住みやすい地域であれば、防犯に対して安全な地域といえる

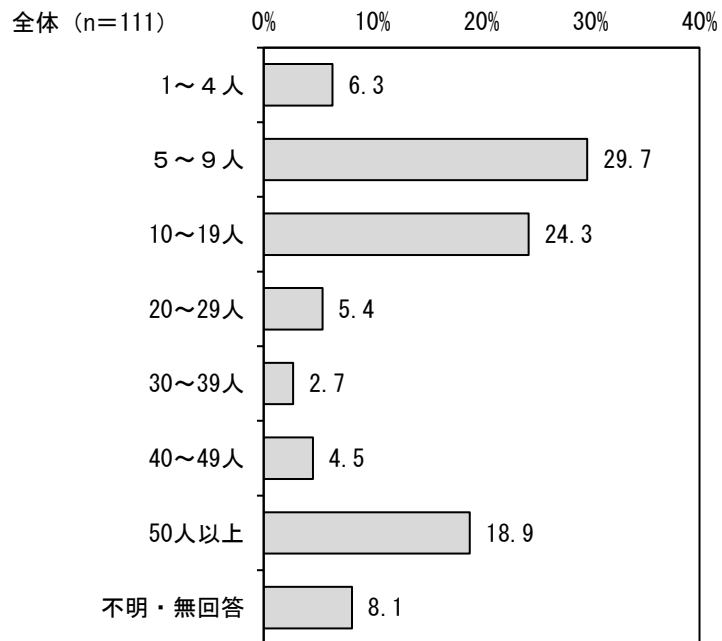
Ⅲ 団体アンケート調査結果

1. 団体について

問1 貴団体について教えてください。

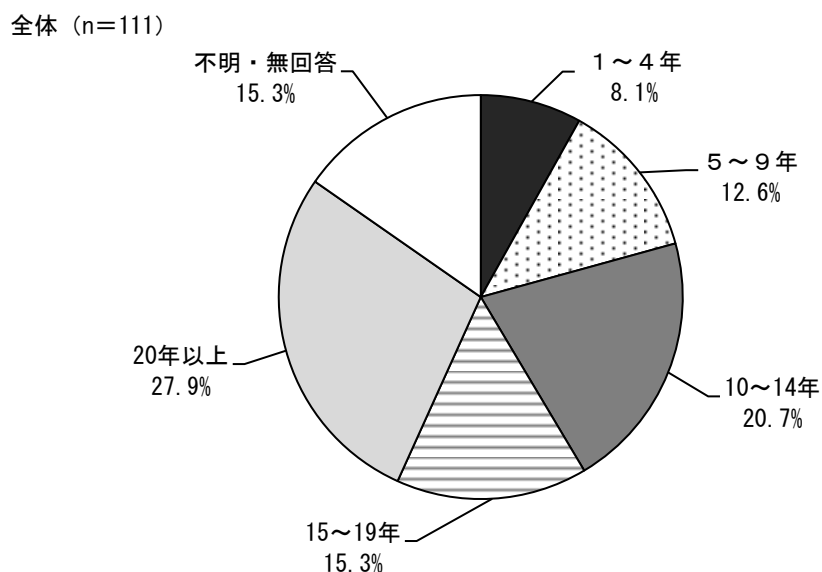
【会員数】

会員数について、「5～9人」が29.7%と最も高く、次いで「10～19人」が24.3%、「50人以上」が18.9%となっています。



【活動年数】

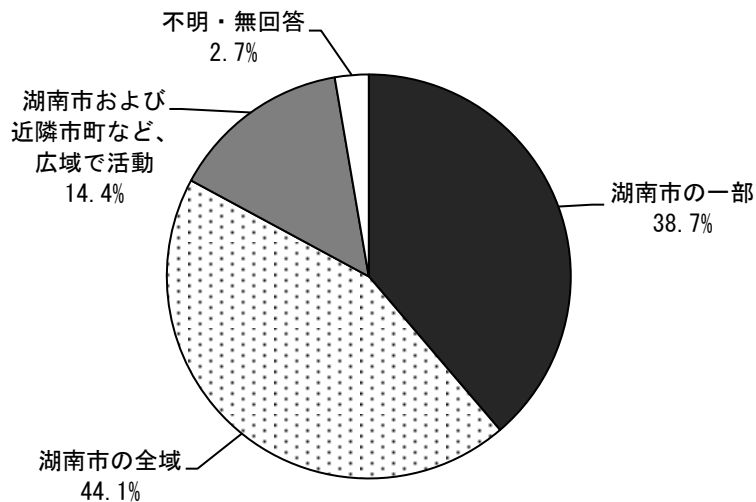
活動年数について、「20年以上」が27.9%と最も高く、次いで「10～14年」が20.7%、「15～19年」が15.3%となっています。



【活動範囲】（〇は1つ）

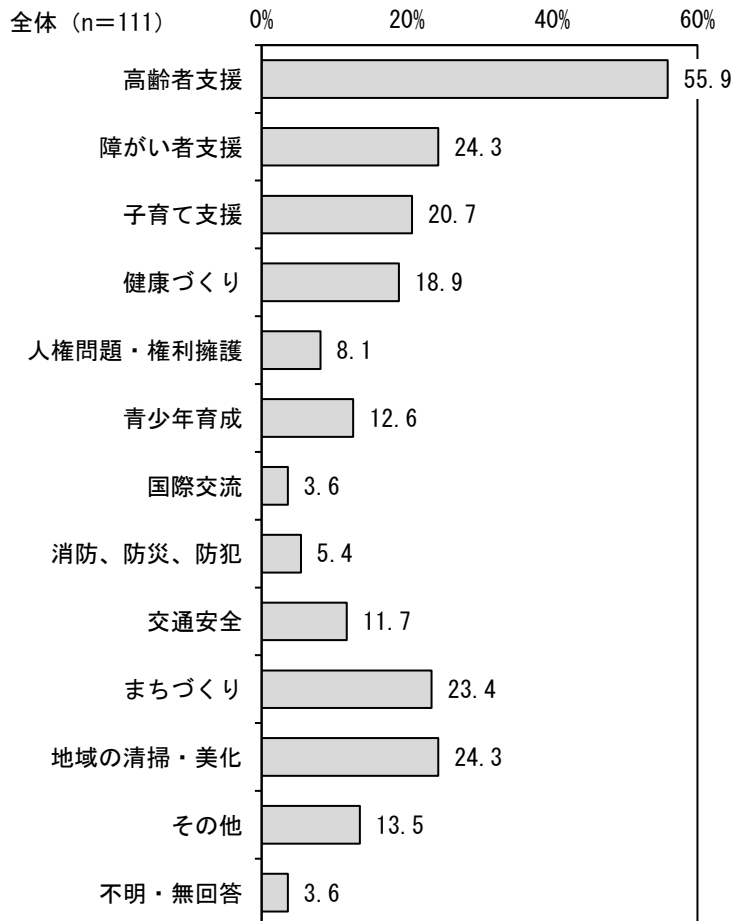
活動範囲について、「湖南省の全域」が44.1%と最も高く、次いで「湖南省の一部」が38.7%、「湖南省および近隣市町など、広域で活動」が14.4%となっています。

全体（n=111）



【団体の活動内容】（〇は3つまで）

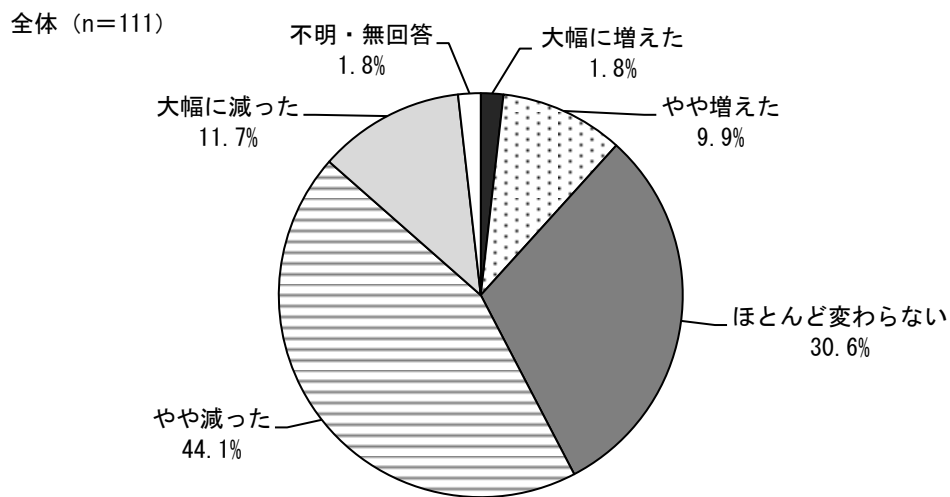
団体の活動内容について、「高齢者支援」が55.9%と最も高く、次いで「障がい者支援」、「地域の清掃・美化」がともに24.3%、「まちづくり」が23.4%となっています。



その他回答
● 郷土の歴史を知る
● 障がい施設奉仕
● 各種依頼物件に対応
● 子どもの見守り
● 学校等庭園の樹木剪定
● 小中学校の子ども会
● 夏祭り等のイベント参加
● フラダンス
● 高齢者施設にて大正琴の演奏
● 社会福祉協議会
● 公共施設
● 献血運動

問2 おおよそ5年前に比べ、構成員の人数に変化はありましたか。(○は1つ)

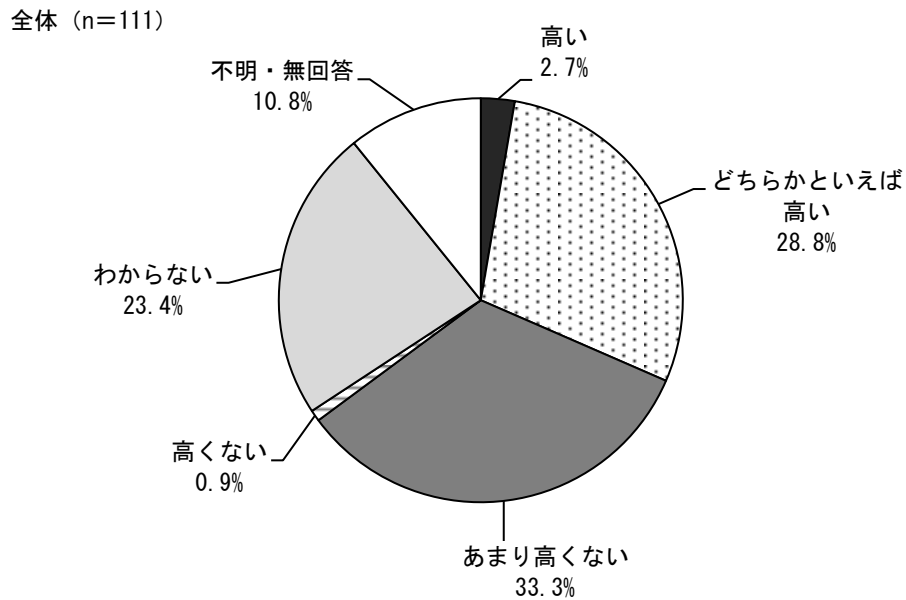
構成員の人数に変化について、「やや減った」が44.1%と最も高く、次いで「ほとんど変わらない」が30.6%、「大幅に減った」が11.7%となっています。



2. 地域について

問3 湖南省における住民相互の助け合いに対する意識は高いと感じますか。(〇は1つ)

湖南省における住民相互の助け合いに対する意識について、「あまり高くない」が33.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば高い」が28.8%、「わからない」が23.4%となっています。



問4 貴団体の活動の中で、地域と一緒にいることや地域に向けて行っていることはありますか。あれば具体的な内容を教えてください。(自由記述)

地域と一緒にいること・地域に向けて行っていること

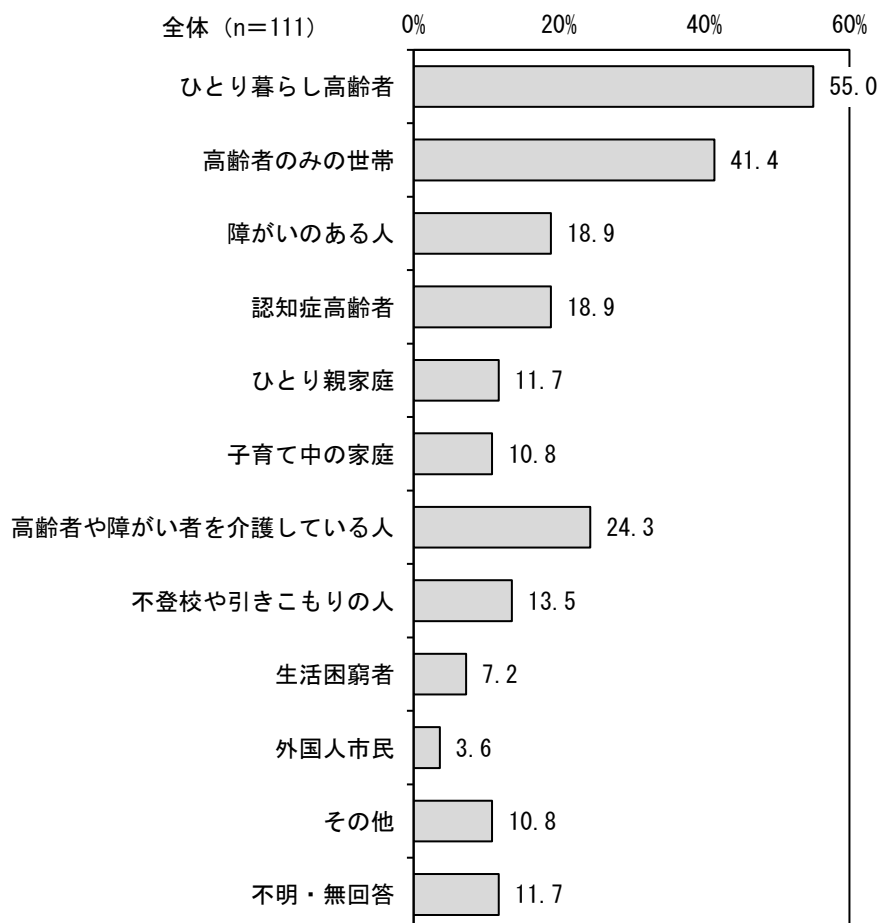
- 地域安心安全事業→高齢者に関わらず、独居者老人をはじめ理解ある方とともに、月1回第3水曜日に「集い」を開催
- 地下道清掃月1回実施
- 地域の春まつり神輿づくりの手伝いと茶の準備
- 愛の一声運動→年1回、登校児の安全を守る活動
- 地域住民と一緒に音楽会を開催
- 朝の挨拶運動(小学校校門前にて行っている)…愛のひと声運動
- 古紙回収(ワークステーション虹さんへの協力)
- 区主催の行事等に参加している
防災訓練、放水訓練、夏まつり、新春墓参り、史跡保養祭、花まつり、盆供養祭、戦没者追悼法要
- 学校行事への参加
縦割り遠足引率ボランティア、マラソン大会ボランティア etc
- 地区の区長さんとその他役員さんと合同で歴史の研修会を行い、その区の昔話や出来事を知る
- 三雲、東三雲学区の生徒さんと市内の歴史探訪を行い、楽しい歴史を共有する
- 毎月一回の例会、講習講演については一般の方もOK
- Mameco、金曜日(毎週)参加、老人、子どもも世話をする
- 農園サークル、畑開放
- 団体主催に参加、出席(防災訓練、フェスティバル(学区)、ゴミ拾い、草引き)
- マスクの作成、販売
- 障がい者施設の依頼物件の対応
- 手芸小物作り
- 地域の清掃、美化
- 小学校下校時の見守り活動
- 小学生帰宅安全の見守り、文化活動の発表
- ひとり暮らしの高齢者にお誕生日祝いのお便りを送っている
- 一般市民に対して剪定講座を行っている
- まちづくり協議会主催による高齢者対象の教室(毎月1回)を実施。地域でボランティアスタッフを募り、進行がスムーズに進んでいる(参加者のための脳トレと思っていたが、コロナで教室が休みになってリーダーをしている自分の脳トレでもあった事を自覚した。9月からの再開が待たれる)
- 夏祭り大会、公園の清掃、草刈り、どんと焼き
- 三雲東小学校学童の登下校見守り
- 社会を明るくする運動時のあいさつ運動
- 社会を明るくする運動、街頭啓発(ミニ集会・フードドライブ協力)
- まちづくり→神社や学区の行事に参画
- 健康づくり→ウォーキングやグラウンドゴルフの企画・実行
- 仲間づくり→集会・講演会・旅行等
- 地元意識→清掃・交通安全他
- 高齢者施設・医療施設等へ訪問して演奏
- 高齢者の支援、民生委員への情報提供
- 産婦人科で出産した母親に向けた絵手紙を制作していた。絵手紙にボランティアセンターで主催している「すずめの学校」案内を同封した。現在は活動を控えている
- 手話サークルを立ち上げ、地域住民に呼びかけ手話の普及に努めている
- 地域の祭りに参加し、マジック・手話歌を披露
- 学校や地域から依頼があると、積極的に引き受けている

地域と一緒にいること・地域に向けて行っていること
<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校に「愛の図書券運動」をしている ● 受刑者の社会復帰の一助になればと「便箋」「メモ用紙」「一筆便箋」購入など、希望者のみしている ● 地域によって、学童の下校時見守り ● 中学3年生に卒業ファイルを贈呈
<ul style="list-style-type: none"> ● 夏祭りやイベント参加 ● デイサービス等のレクリエーション参加
<ul style="list-style-type: none"> ● 区の河川愛護活動の日は、清掃活動に参加 ● 区の防災訓練の日は、日赤としての役割分担の活動
<ul style="list-style-type: none"> ● 一般公開ケース集会（学校関係・民生委員・保護者・自治会役員で、子どもたちの現在の問題点を話し合う） ● 朝のひと声運動（交通立番） ● 菩提寺北小サポートボランティア
<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会の子育てサロンに、布のおもちゃや絵本を作製してプレゼント
<ul style="list-style-type: none"> ● 手話講座を開催し、手話を広めている ● 各地域の防災訓練を通じて、視覚障がい者の地域参加を応援 ● 地域の手話サークルへろうあ者参加を呼びかけ、住民との交流を勧めている
<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍のため活動していない
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者サークルでの演奏活動
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちの朝の見守り、帰りのパトロール
<ul style="list-style-type: none"> ● 区のイベント等に協力 ● 小学生の交通安全に登下校時に奉仕
<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍で行事が無くなっているが、地域のゴミ拾いは行っている
<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティア祭りには参加
<ul style="list-style-type: none"> ● 市の文化祭に出演、敬老会・高齢者施設への訪問
<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会と共催＝大祭・夏祭り ● 石部地区老人会＝日帰りバス旅行・グラウンドゴルフ ● 当老人クラブ＝集会場美化活動・町内ゴミ拾い・健康講座・交通講話・詐欺防犯講演 ● 市老人クラブへの参加（研修会・各種スポーツ・ゲーム大会・交通キャラバン出役他）
<ul style="list-style-type: none"> ● 「ミュージックベル」と「トーンチャイム」の演奏をしている。主に地域の高齢者の集会やデイサービスや入居施設等から依頼がある。楽器演奏の体験希望者には、試してもらっている
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のイベント（夏祭りやふれあいの集い、学校行事等）の中で、折紙を通じた交流を行っている。またボランティアまつりで、主催の一つとして活動
<ul style="list-style-type: none"> ● 百歳体操・健康活動（グラウンドゴルフ） ● 地域の自治会支援として美化活動（河川・県動物愛護活動）
<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティア協会との連携で、区・自治会・老人クラブ等へフラダンスを通じて異国情報の雰囲気をお届けしている
<ul style="list-style-type: none"> ● ゴーヤカーテンプロジェクトに参加 ● 子ども食堂への野菜提供
<ul style="list-style-type: none"> ● 「子どもや孫に美しい故郷を残そう」をテーマに、ボランティアグループで湖南市全域のこども園や保育園、老人デイサービス施設等にゴーヤカーテン棚を作り、苗植え付けや棚の後片付けまで行っている
<ul style="list-style-type: none"> ● 支部ミニ集会に区長・民生委員・子ども会長等に出席依頼
<p>【囲碁の普及活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学童を対象とした囲碁教室の開催 ● 中学生向け囲碁教室の開催 ● ケアハウスの囲碁サロンへの出向
<ul style="list-style-type: none"> ● 例会開催 ● グラウンドゴルフ等の軽運動開催 ● 例会時の出前講座 ● 自治会活動への積極的参加

地域と一緒にいること・地域に向けて行っていること
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の行事開催時、要請があれば該当ボランティアグループを派遣 ● 秋に「ボランティアまつり」を開催 ● バザーの収益は、全額福祉に寄付
<ul style="list-style-type: none"> ● 1年に1度のボランティア祭りで、ふれあい給食として炊き込みご飯を販売
<ul style="list-style-type: none"> ● 愛宕神社の維持管理活動支援、除草等
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者施設に出かけ、一緒に楽しみや生きがいを見出し、老後生活をともに体感できることを目的としている
<ul style="list-style-type: none"> ● 他のボランティアグループ活動やイベントなどを写真にして記録する
<ul style="list-style-type: none"> ● 各まちづくりセンター等の行事に参加
<ul style="list-style-type: none"> ● ワールドフェスタこなん ● 湖南市夏まつり ● 森北公園まつりへ外国人演奏者を紹介
<ul style="list-style-type: none"> ● 「湖南市歴史本・湖南市ふるさとカルタ・郷土の歴史を振り返って」等、制作拡大写本
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者サロンの集いに参加。施設入所者とデイサービス利用者に対しては、回想法を利用した催しを楽しんでもらっている
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者施設への慰問。施設の高齢者たちに、大正琴の演奏を聴いてもらう
<ul style="list-style-type: none"> ● 市の施設を利用し、地域の方にマッサージ等の治療奉仕（免許所持者の施術） ● 市内小学校の総合授業として、視覚障がい者の生活や行動、困ったことの克服などの質問への回答 ● 湖南市体育協会障害者部会ができ、更生会とできる範囲で参加している
<ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設前の花壇へ植え出し
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたち対象に、あいさつ運動 ● 夏休み、お楽しみイベント・ハリキリンピック開催
<ul style="list-style-type: none"> ● 未就園児親子の子育て支援 ● ボランティアグループや個人を招き、参加スタッフと共に楽しむ ● 写真ボランティアに活動の様子を撮影してもらい、記録に残す
<ul style="list-style-type: none"> ● 会員の健康を目的に、出前講座を実施（高齢者の栄養の摂り方、体力の増強がテーマ） ● 自治区の公園の草刈
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の清掃・缶拾い・草引き
<ul style="list-style-type: none"> ● 美化活動（除草、ゴミ拾い） ● 自治会行事の協力と参加（秋まつり、ふれあい大会） ● デイサービス施設との交流 <ul style="list-style-type: none"> ①施設利用者との交流→コロナで中断 ②運営推進会議（デイサービス・自治会・虹の会）コロナのため書面で実施

問5 貴団体が活動を進める中で、これから特に支援が必要だと思う対象は誰ですか。
(〇は3つまで)

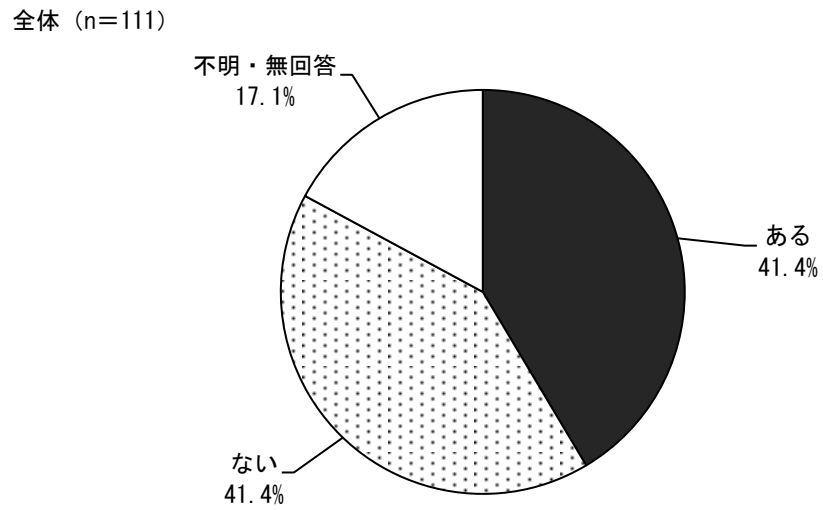
これから特に支援が必要だと思う対象について、「ひとり暮らし高齢者」が55.0%と最も高く、次いで「高齢者のみの世帯」が41.4%、「高齢者や障がい者を介護している人」が24.3%となっています。



その他回答
● 子ども (2件)
● 若い人への「郷土歴史」を共有し、次期リーダー養成を行いたい
● 「ひとり暮らし高齢者」、「高齢者のみの世帯」等の対応は必要と思っているが現状は手一杯なので対応を考えていない
● 老々介護家庭
● 高校生や大学生
● 閉じこもりがちな高齢者
● 小中学生
● 学童保育

問6 地域の中で、既存の公的な制度や福祉サービスだけでは対応が不十分だと思う福祉課題はありますか。(〇は1つ)

既存の公的な制度や福祉サービスだけでは対応が不十分だと思う地域の福祉課題について、「ある」、「ない」がともに41.4%となっています。



<問6で「ある」と回答された方>

問7 課題の内容とその課題に対してどのような支援が必要だと思いますか。(自由記述)

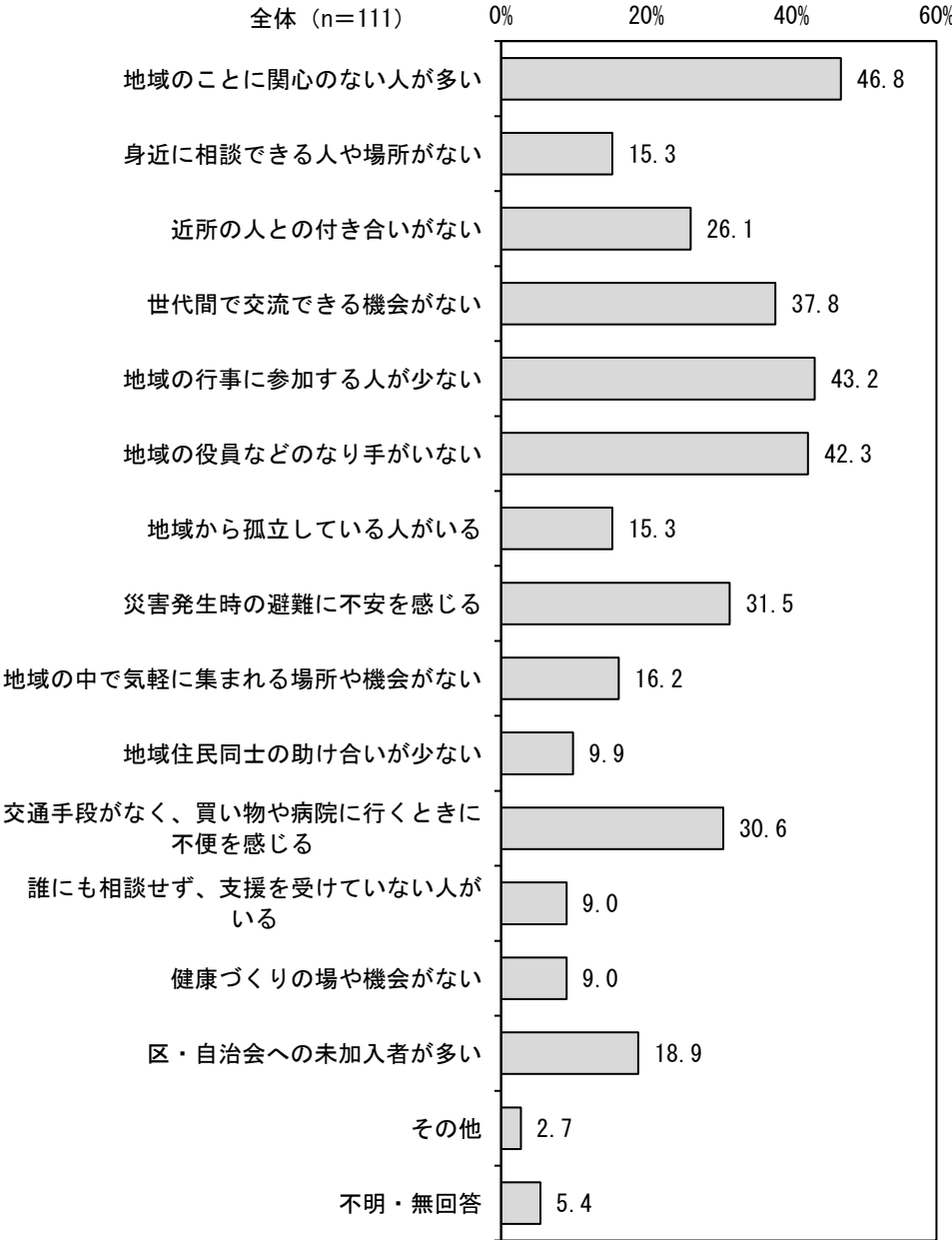
課題	必要な支援
● 後継者がいない。「一人でも家庭単位でも生きていける、友達がいればよい」という次世代の傾向	● 次世代が福祉をどう受け止めているか実情を把握すること
● 犯罪を犯した人の働く場所が無い	● 小さい時から声かけをする
● 更生保護という団体を知ってもらいたい ● 高齢化で役をする人や車の運転ができる人がいない	● 行政や市議会が単に金額だけでなく、年金がどのような内容に使われているか、現行制度の盲点は何なのかを個別に把握する必要がある。その上で政策や予算配分、底辺の支援を考える必要がある
● 積極的に自ら出て行ける人は良いが、なかなか一歩が踏み出せない人へのきっかけづくり。子育て中の親でも高齢者でも障がいを持つ人でも皆同じだと思います。周りの人と繋がっていきけるようなきっかけがみつかりにくいのでは	● 生まれてから死ぬまでとぎれる事のないサービス。人とつながっていきける場の提供を ● しんどい思いをしている人に気づける地域のネットワークづくり。個人情報の壁はあると思うけど一歩踏み出すきっかけが欲しいです
● 100歳大学卒業生 NCL メンバーとのコラボにて活動。老人の遊びの場強化、それによりいろいろな活動をする事によって生きがいが出る	● 100歳大学の復活
● 男所帯の方のほつれものや、仕立て直しの手伝い ● 障がいのある方のほつれものや、仕立て直しの手伝い	● 定期的にお手伝いできるようにその場を開設したい?
● 高齢者の日常の行動範囲が小さい ● 若い人との交流がほとんどない	● 市が率先して高齢者を外へ出して、行動範囲を広げる外出支援 ● 若者に高齢の生きてきた証を紹介する
● 介護サービスを利用出来るまでの高齢者に対する百歳体操等はテレビ画面を見てするだけの笑顔、会話に欠けると感じます	● 季節を感じる話題や昔の生活等回顧の話題等、自由に話せる場づくり ● 簡単に体が動かせる(童謡など歌いながら)
● 影絵サークルの活動からは少しずれてしまうのですが、地域の中でずいぶんと年を重ねている障がいの方がいらして(40代?)、暇なのかよくうろつとあちこちへ移動されているのです。(お家の方も放っておかれるのか)特に誰に迷惑をかけるというのではありませんが、交通ルールとか、人付き合いとかがうまく理解しておられない様子でした。障がい児とかは手厚く支援があるようですが、中年くらいになると放置か、家にとじこもりかの状態なのかな	● 専門的なことはよくわかりませんが、何だか、暇でウロウロ…ってもったいないと思います。自立支援とか、受けなかったのかな
● 本人の身体は不自由で、息子との同居。生活上頼みづらいものがある	● 買い物、話し相手
● 公的なサポート機関が各種団体に丸投げ	● 行政が関わる必要性 ● 行政自体の学習・研修
● 小学生の引きこもり ● 知的障がい、発達障がい(小学生)	● 専門家が対応し、相談にのってあげてほしい
● コロナワクチン接種予約や会場への交通手段	● 一人暮らし高齢者への支援
● 集合場所が無い。コロナ禍により、高齢者が引きこもりのため、イベントやサロンの場所が無い。また交通の便も考えてほしい	● 交通の便が悪く、マイクロやワゴン車で送迎してほしい。参加場所が動きやすい所、車椅子への対応
● 障がい者や高齢者の介護は現在ではできているが、親や介助者が亡くなった時の入居施設が必要	● 介護士・手話通訳者の養成 ● 高校生や大学生の必須科目の設置
● 運転できない人の支援(買い物や通院)	● 希望時間に送迎可能な交通支援

課題	必要な支援
● 福祉サービスの内容周知	● どのような福祉サービスがあり、どこへ行けばサービスを知ることができるか、広く知らせる
● 手話が言語の一つとして、住民へ認識されること ● 視覚障がい者の情報、コミュニケーション保障として支援を広げること	● 市手話言語条例を制定し、学校や住民に手話の歴史や文法、聴覚障がい者への多様性等理解を広げる取り組みを進める。 ● 障がい者を取り巻く地域や団体等の情報保障やコミュニケーション保障を勧め、役割を担う手話通訳者の養成、身分保障を勧める
● 中学生以下の医療費無償化は良い ● 人口減少や少子高齢化が進み、福祉の在り方が問われる ● 高齢者の運転免許証返納後、買い物や通院等の交通手段 ● 8050問題は具体的な支援法は分からないが、近所にいる	/
● 子育て支援サービスの情報が少なく、「どうしたらよいか分からない」と聞く。近くに相談できる場所や居場所が無い、里帰り出産で数か月しかない時、その間の情報がほしい等	● 情報がほしい（チラシ配信等）
● 高齢者の買い物等、日常生活に困っている人の把握ができていないか	● 区・自治会との連携にて、身近な相互関係を築く
● 石部地区は手続きに本庁まで出向くことが必要で、高齢者は大変である。そのため公的制度や福祉サービスを受けていない人がいる	● 民生委員だけでなく、各地区（町内会）に相談や見守りをする補助員がいれば良い
● 高齢者の交通手段	● 車が無い高齢者への買い物や病院への送迎支援
● 当老人会は高齢化が進んでいるが入会者は増えず、会員減少の一途である。会員間は互助ができるものの、会員以外の高齢者については接点を持たない。公助の前に各単位地域での互助をすることで進めていければと思う。各単位地域で課題が違うので足元から取り組み、公助に継がればよい	/
● 運行の問題で、行きたい場所に行ける手段がほしい	● オンデマンドのバス「現在水戸学区で実施されているサービス」
● 地域から孤立している人は、相談する人がわからない	/
● 独身男性が多い	● 結婚をできるような応援
● 高齢者が体力低下のため外出を控え、他人とのコミュニケーションが減る	● ボランティアで運営できる町カフェを増やしてほしい。生きがいを感じられる居場所と役割の確保
● オンラインを使用	● インターネット環境を整えてほしい
● 日本に来た時の年齢により小中高校の教育を受けられず、社会に巣立った若年就労者への生活保障	● 就労を目的として来日した保護者に対し、日本の教育制度や社会保障など説明し、企業もフォローする ● 児童・生徒への教育支援
/	● 高齢者世帯・障がい者・独居者のゴミ出しを介助したくても、ゴミを出す時間が決められているのでできない。訪問しているヘルパーもゴミ出しはケアプランに入れられないため、サービスできない

課題	必要な支援
<ul style="list-style-type: none"> ● 一人暮らしの高齢者はいろいろ申請することが困難なため、介護サービスが受けられなかったり、コロナワクチン接種の手続きが遅れたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 申請手続きの支援などするため、訪問して指導する
<ul style="list-style-type: none"> ● 同行援護へのヘルパーが少ない ● 休日利用できないことがある 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てで孤立している、子どもを外に出さず育児、声をかけてあげる人が必要 ● 外国からの子どもは言葉や習慣の違いで、クラスに付いて行けないと聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ● その都度、声かけや誘う ● 地区に馴染めるように、勉強・料理・遊び・行事等を通して手を差し伸べるべき
<ul style="list-style-type: none"> ● ブログによる広報活動を行っているが、インターネット環境が整っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● Wi-Fi 環境を整えてほしい
<ul style="list-style-type: none"> ● 会員の高齢化と新会員加入が少なく、会員が減少。個人情報保護法により、どこに障がい者がいるのかわからない ● 行事があると移動手段が無い会員の送迎を行っているが、高齢化により車の運転をする人の確保が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政により、障がい者に会員を勧めてほしい ● 地域の移動支援を進めてほしい
	<ul style="list-style-type: none"> ● 会員の健康を目的に、出前講座を実施（高齢者の栄養の摂り方、体力の増強がテーマ） ● 自治区の公園の草刈 ● 桜まつり、紅葉巡りの行事
<ul style="list-style-type: none"> ● 介護申請を受けていない時に急に調子が悪くなり、今までの生活が困難になる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 素早くサービスが受けられるとよい
<ul style="list-style-type: none"> ● 救援された時、応援を頼まれた時こそ支援が必要。団体のための活動や必要以上の人数での活動は考えるべき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援・作業など人数が多い時、活動者の私語や大声での会話が気になる。速やかな心ある支援こそが大切
<ul style="list-style-type: none"> ● 老人会の会員の中には、入院や施設利用には至らずとも、会活動に参加できない人がいる。老人会が支援するにも限界がある。公的サービスも無理があり難題である 	

問8 ふだんの活動の中で感じる地域の課題や問題点はどのようなことですか。(〇は5つまで)

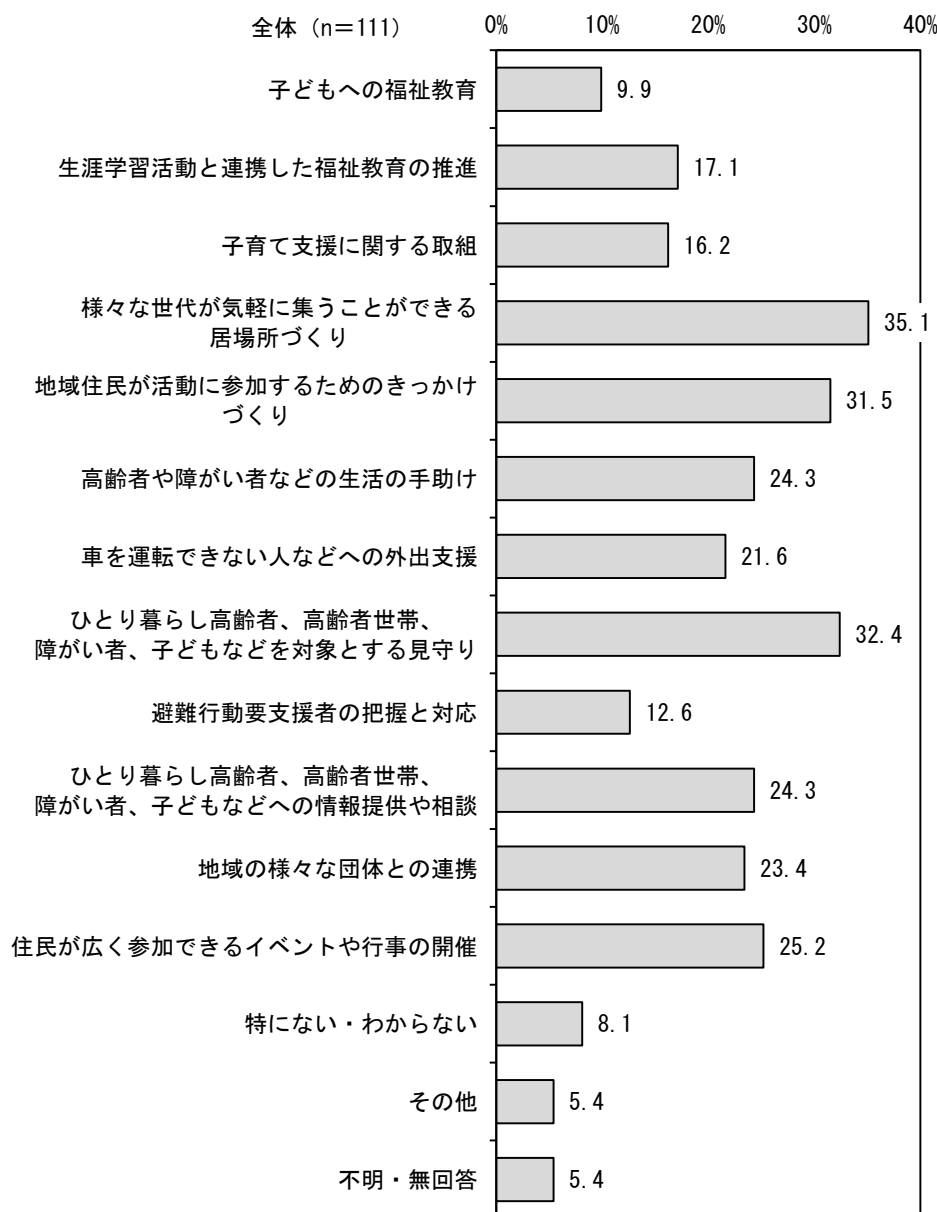
ふだんの活動の中で感じる地域の課題や問題点について、「地域のことに関心のない人が多い」が46.8%と最も高く、次いで「地域の行事に参加する人が少ない」が43.2%、「地域の役員などのなり手がいない」が42.3%となっています。



その他回答	
●	同じ人の参加が目立つ
●	若手と中高年齢の断層
●	問題のある人の情報が入手できない

問9 今後、地域に対して貴団体が取り組む活動としてできることは何かありますか。
(〇はいくつでも)

今後地域に対して取り組む活動としてできることについて、「様々な世代が気軽に集うことができる居場所づくり」が35.1%と最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者、子どもなどを対象とする見守り」が32.4%、「地域住民が活動に参加するためのきっかけづくり」が31.5%となっています。

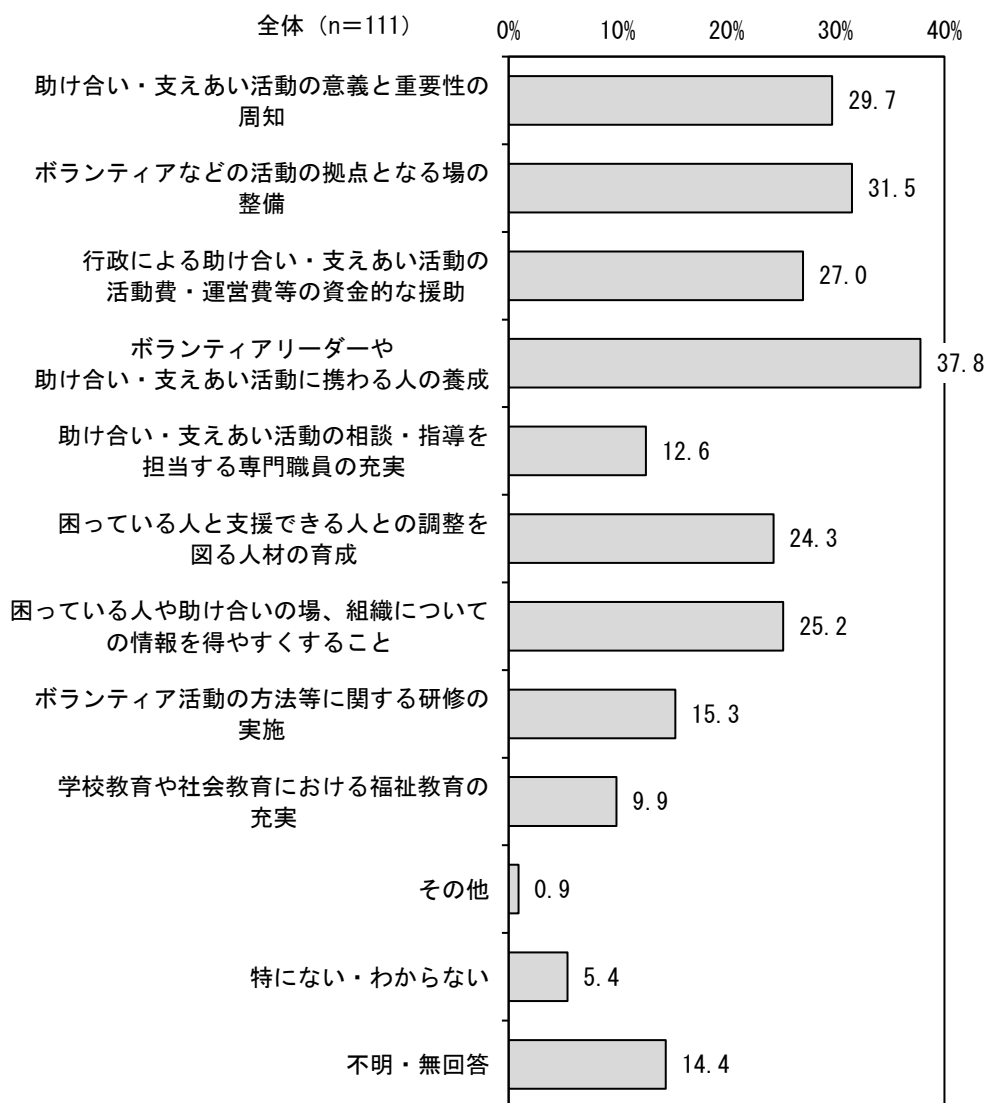


その他回答

- これまで頑張ってきた私たちも高齢になり、今までのように張り切った活動は困難になってきている。50歳後半～70歳代前半の社会参加がほとんど無く、自分たちだけで楽しんでいる傾向がある。私たちが長く頑張り過ぎて、若い人たちを育てなかったことに反省すべき
- 100歳大学復活
- 脳トレリーダーの養成が出来ますが地域で手をあげていただける人の発掘が中々むずかしいです
- 地域ごとにリーダーを養成して私たちが出向いていかなくてよくなるようにしたいです
- 会員が高齢であるため、どこまで協力できるか
- 障がい者が使いやすい道具を作る

問 10 地域における助け合い・支えあい活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

地域における助け合い・支えあい活動を活発にするために重要だと思ことについて、「ボランティアリーダーや助け合い・支えあい活動に携わる人の養成」が 37.8%と最も高く、次いで「ボランティアなどの活動の拠点となる場の整備」が 31.5%、「助け合い・支えあい活動の意義と重要性の周知」が 29.7%となっています。



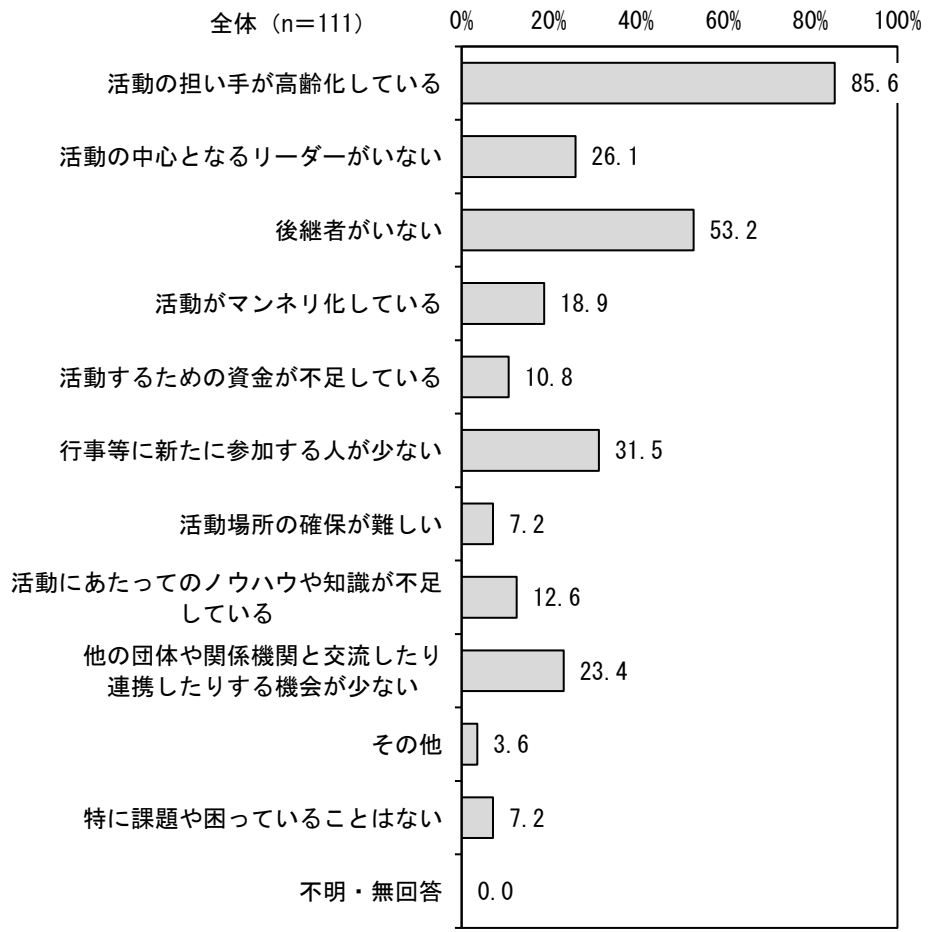
その他回答

記入なし

3. 活動について

問 11 活動を行う上で、課題だと感じることや困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

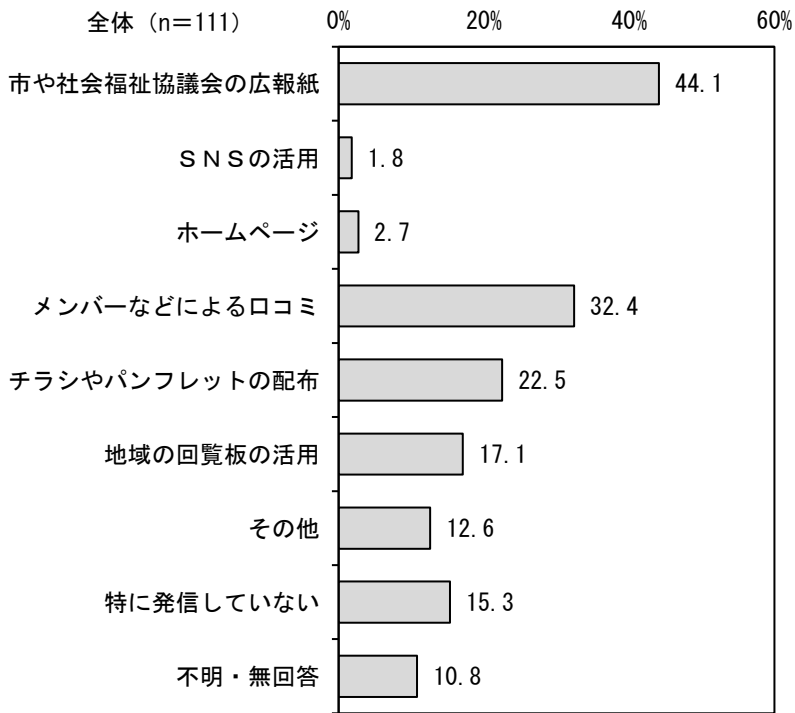
活動を行う上で課題だと感じることや困っていることについて、「活動の担い手が高齢化している」が85.6%と最も高く、次いで「後継者がいない」が53.2%、「行事等に新たに参加する人が少ない」が31.5%となっています。



その他回答	
●	定年延長の関係で、ボランティア（特に我々の活動）を開始するには体力的な問題で難しくなっている
●	団員の減少（特に男性）
●	本業が忙しく、時間が取れない
●	大勢になると、運営が大ごとになり動きが鈍くなる

問 12 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか。(〇はいくつでも)

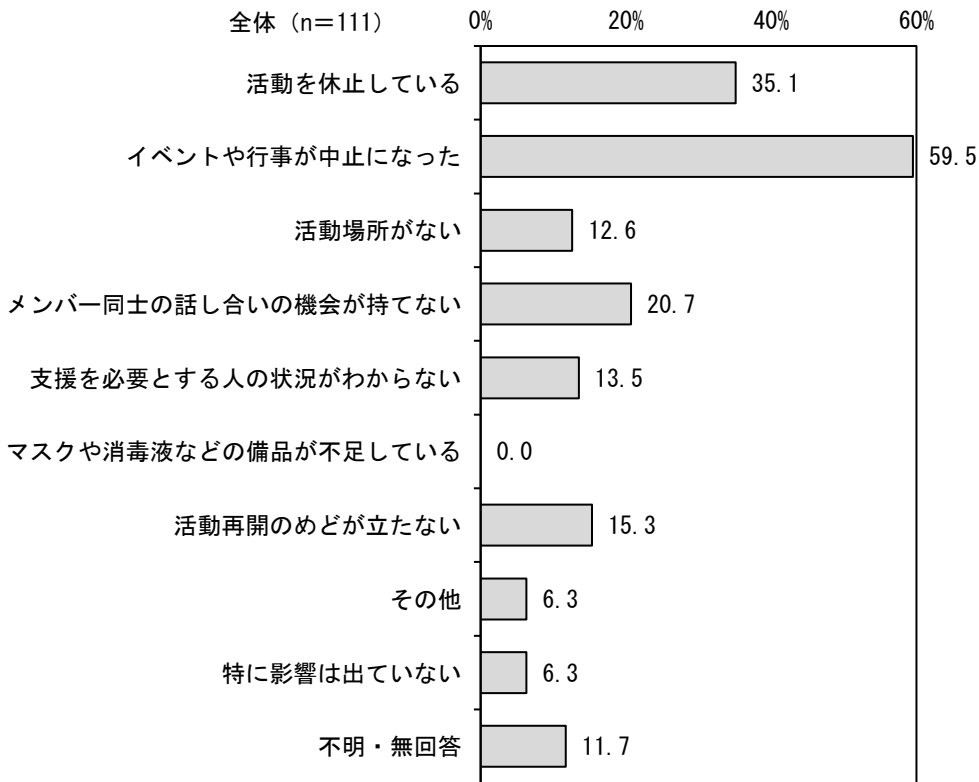
団体の活動情報をどのように発信しているかについて、「市や社会福祉協議会の広報紙」が44.1%と最も高く、次いで「メンバーなどによる口コミ」が32.4%、「チラシやパンフレットの配布」が22.5%となっています。



その他回答
● 広報誌を年に2回作り、各関係機関や学校に配布
● 更生保護をよく理解してほしい
● 年1回会報誌の発行をしている
● 広報誌
● 依頼があれば、自宅で作業
● センターを通じて活動発信
● こなん更立だより
● ブログ(2件)
● ボランティア協会との連携
● 乳幼児健診でパンフレットを渡してもらう
● 会員に手渡しで現状を把握している
● 虹の会通信

問 13 活動を行う上で、新型コロナウイルス感染症による影響はありますか。(〇はいくつでも)

新型コロナウイルス感染症による活動への影響について、「イベントや行事が中止になった」が59.5%と最も高く、次いで「活動を休止している」が35.1%、「メンバー同士の話し合いの機会が持てない」が20.7%となっています。



その他回答
● 最小限度役員で事業
● 国・県・市と明確な戦略や方針が無い
● 施設への訪問・奉仕が受け入れ中止
● 今後も不安
● マスク着用で会議をすると、話がなかなか伝わらない
● 活動内容の変更

問 14 コロナ禍の中で、新たに取り組んでいることがあれば教えてください。(自由記述)

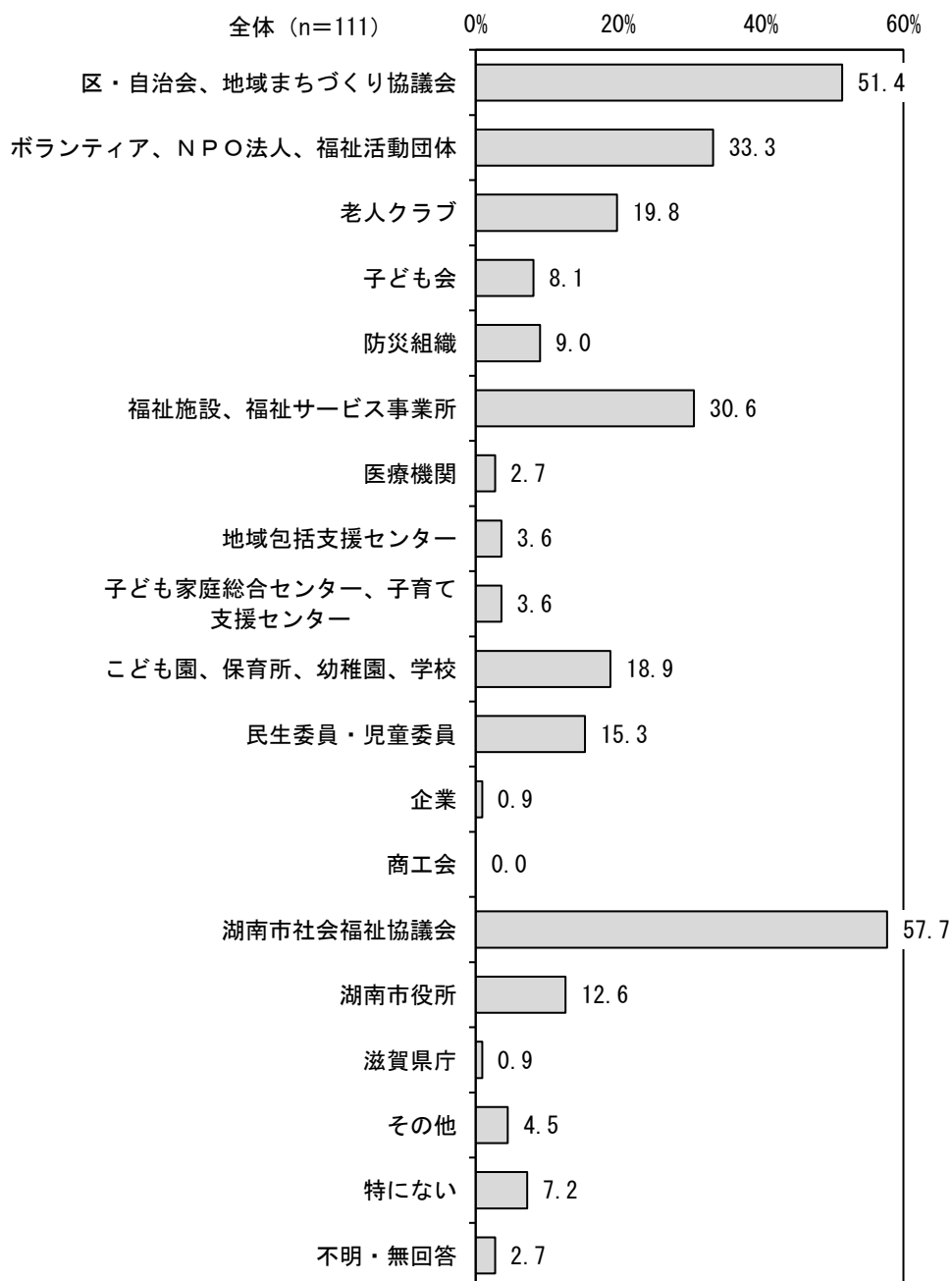
新たに取り組んでいること
● 総会など中止
● 個人で管理。会としては密を避け、アルコール等にて対策
● マスクづくり (安いといわれ注文がきている) ● 小物づくり
● マスク着用、ソーシャルディスタンス、子どもとの距離は以前以上に取っている
● 接触のないゲームを実施 ● スタッフが参加者 (高齢者) にハガキを出している
● 毎月1回の役員会は出来るだけ密を避け、感染症対策を十分とり、マスク、手指消毒を行いながら開いているが、多くの行事はやむなく中止にしている
● シトラスリボン運動
● 屋外活動の実施 (清掃・運動)
● コロナ前では昼は食事とみそ汁を出していたが、コロナ後はコーヒーと菓子を出し、午前中で終了している。市より詳しい情報が欲しい。自分たちで考えて行動しているので、コロナが出るのが怖い。誰が責任を持ってくれるのか?
● オカリナ吹奏を楽しむグループだが、合奏が困難であれば、個人練習中心に切り替えた。場所は従来通り使用可能
● 定期的に集まる。依頼があれば各自自宅で絵手紙制作
● イベント無いので活動休止
● 換気で全窓を開けているため、大きな声や音には注意している
● コロナワクチン接種について、正しく理解する学習会を勧める ● コロナ禍でできることを話し合いながら、会員に広げる
● コロナ禍で演奏依頼が無い状態。この機会を利用して、演目を増やす練習を行っている
● 三密・除菌を意識し、今まで通りのレッスンができています
● 活動を小規模で行う ● 会員全員でコロナ禍での差別や偏見を無くす運動「シトラスリボン」を作成し、市内の小学校に贈る
● 例会時にマスク・フェイスシールドを付けて行っている。手・机・用具の消毒、部屋の換気を行っている
● コロナに脅え、何も手が付かない
● マスク・マスクケースをつくり、市民に材料費のみで販売
● 密を避けるために食堂に入るボランティアを少なくした。手が足りないため、コンパクトな弁当に切り替えた
● オンラインでの会議
● 「聞こえる人に手話を！」をサロンの目的としている。対面での活動が当たり前で、コロナ禍前の生活を早く取り戻したい
● オンライン会議
● 回想法は会話をした活動となる。今はジェスチャーや言葉少なく活動できるように考えているが、限られる
● 少人数に分けての活動
● 電話で話す
● グループ演奏から一人演奏で対応
● オンライン会議
● 三密を防ぐ方法で屋外行事を行っている ● 体育館では換気をよくする方法で行っている
● 広い場所で活動

新たに取り組んでいること

- 活動を控える
- 講演→DVDによる講座
- アトラクションの内容変更（時間短縮、食事会の変更）

問 15 地域での活動の際に、どのような組織・団体などと交流や連携して活動されていますか。
(〇はいくつでも)

地域での活動の際に交流や連携をしている組織・団体について、「湖南省社会福祉協議会」が57.7%と最も高く、次いで「区・自治会、地域まちづくり協議会」が51.4%、「ボランティア、NPO法人、福祉活動団体」が33.3%となっています。

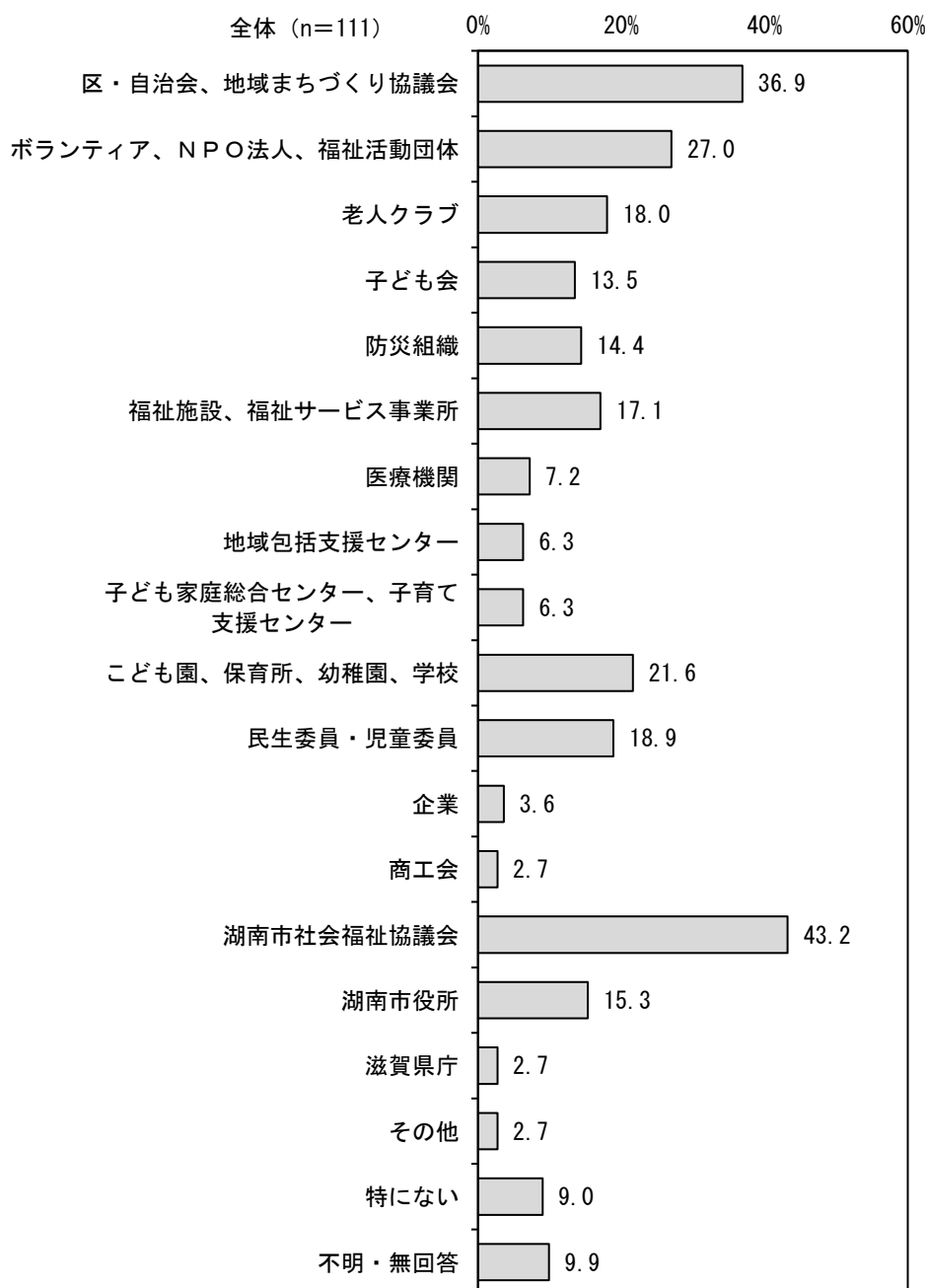


その他回答

- NCL
- 三雲東小学校
- 展示の依頼
- 学童
- 甲賀視覚障害者福祉協会

問 16 今後、地域での活動を行う際に、交流や連携したい組織・団体などがありますか。
(〇はいくつでも)

今後地域での活動を行う際に交流や連携したい組織・団体について、「湖南省社会福祉協議会」が43.2%と最も高く、次いで「区・自治会、地域まちづくり協議会」が36.9%、「ボランティア、NPO法人、福祉活動団体」が27.0%となっています。

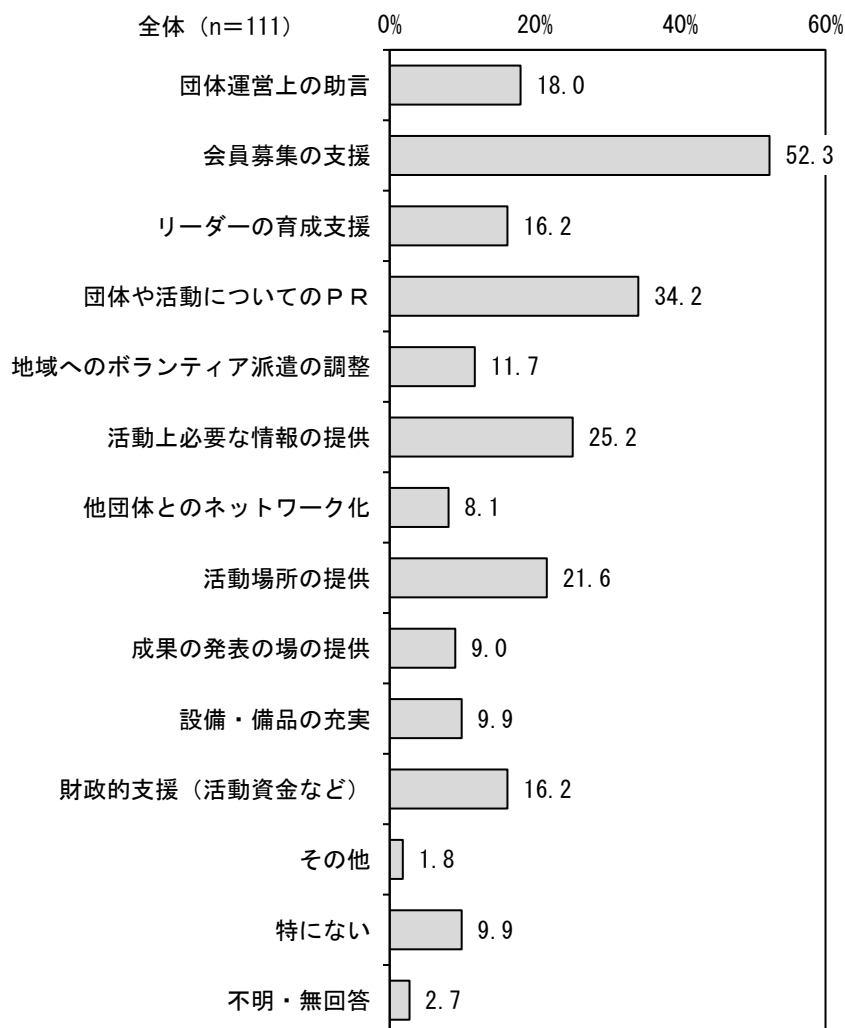


その他回答

- 他市町村との交流
- 滋賀銀行での展示

問 17 貴団体が地域で活動する中で、市や社会福祉協議会に期待することは何ですか。
 (〇は3つまで)

地域で活動する中で市や社会福祉協議会に期待することについて、「会員募集の支援」が52.3%と最も高く、次いで「団体や活動についてのPR」が34.2%、「活動上必要な情報の提供」が25.2%となっています。



その他回答

- レイカディア大学入学生を募集、応援してください

4. 自由記述

その他、地域福祉の推進について、ご意見・ご要望がございましたらご自由にお書きください。

分野	自由回答
支えあい	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域では子どもたちの見守りをしてくれる人が少なく、自治会でも協力してほしい。今まではボランティアで行っていたが、高齢になり後何年続くかと思っている
	<ul style="list-style-type: none"> ● 独居高齢者が増えるため、気軽に暮らしていける、支えあいのできるまちづくりが必要
	<ul style="list-style-type: none"> ● 一番困っていることは、難しい状況にある人が多く、手を出しにくい。早い段階でまず実行。子どもは成長が早く感受性も高いので、手厚く見守る必要がある。すぐに大人になり、社会への影響力もある。恵まれた人だけ幸せになることはできない。世界は繋がっている。何か役に立ちたい、その気のある人を必要としている人に合わせるのは、行政の仕事である
交流・集いの場	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通手段を持たない高齢者、多忙で相談するひまのないひとり親等、小さな声をすくい上げる機会が少ない。地域内での近場で、自由に集まれる場所があればよいのではないか
	<ul style="list-style-type: none"> ● 『湖南省からオリンピック出場選手（外国人含む）』…地域活性化を行い、元気が出るように若者が集まるスケートボード・アーチェリー・バイク等の練習設備をグラウンドゴルフ場の横に設け、世代間交流や移住ができるようにする ● 老人介護等の日常以外のイベントで心が躍り、湖南省で生活できたら楽しい ● 地区の子どもたちとのふれあいが少なく、会話できる場所があるといい
	<ul style="list-style-type: none"> ● 湖南省全体として途切れる事なくいろいろなサービスがうまくかみ合っていてほしいなあとあります。これについては〇〇課へ、こっちは××課へというのは住民からしたら…。一本化は難しいのはよくわかりますが、せめて相談に行く人があればこういったサービスもあるので〇〇課に連絡しましょうねとか言ってもらえるとうれしいです！
連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 市や社会福祉協議会の存在は、団体活動を進めていくためにはなくてはならない機関である。拠り所となり、次の企画を練る場所でおアシスである。仕事に追われ大変だと承知しているが笑顔が少なく、自分に関係のないことであれば知らんぷりされる場合がある。また建物も古く、時代に合った建物を願う。誰もが気持ち良い施設にしてほしい
	<ul style="list-style-type: none"> ● 先日、石部日赤奉仕団より4名社協の家庭用品等の配布の仕分けに寄せていただきました。職員の方は他にも仕事があり大変だと思います。都合がつけば協力させていただきます。連絡してください。いつもいろいろとありがとうございます
	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政（市役所）組織の一貫性、役割分担の明確化（問い合わせ時の電話対応等）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者健康状態も徐々に変わりつつある中で、個人情報を守りながらどのように関わっていけばよいのか難しい。社協と情報交換しながら見守っていければと思う
	<ul style="list-style-type: none"> ● 市長や市議会議員の公約に対する成果、途中経過報告がない。市の広報に成果をレポートさせることが必要
参加者について	<ul style="list-style-type: none"> ● 若い人たちが団体活動に参加しない
	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の人たちがだんだんと手足が不自由になり、体の調子もよい状態でない。腰痛や膝の痛い方、手と足の痛い方、たくさん病院通いをおられます。団体活動も続かなくなってきたような状態です。だからと言って若い人は誰も入ってこない。こういうことになるとどうして続けたらいいか不安です。また、家庭の事情、高齢者になると車の運転ができなくなる。子どもの送り迎えや自分の体のこと、若い人は勤めに出る、家のことは全部自分で抱えなくてはいけない家庭が増えていきます。今まで頑張ってきた方がこの団体活動には参加できない状態になってきています
	<ul style="list-style-type: none"> ● 日赤奉仕団ではどの地区も退会される方はあるが入会してくれる方がいません。今の会員が年々高齢になっていき若い方の入会がありません。役職があたりそうになると退会される方もいます。年々人数が減っていくばかりです。入会して下さる方が一人でも増えるよう行政や自治会から働きかけもお願いしたいです
	<ul style="list-style-type: none"> ● 下部組織がグラウンドゴルフ部（会員約20位）の高齢化と他の部（カラオケ、囲碁、将棋、マージャン、ウォーキング等）も会員が減っていて、やはり高齢化しています。役員のなり手も少なくなって、5～10年後が大変心配です

分野	自由回答
	<ul style="list-style-type: none"> ● 会員が減り続けており、存続が危ぶまれる状況。特に男性の加入は難しい。市や社協で会員募集を支援してほしい ● 新規入団者が少ない。奉仕活動の意識が少なく、仕事をしている理由で断る人が多い ● 高齢化で役をする人や車の運転ができる人がいない
活動について	<ul style="list-style-type: none"> ● 100歳大学を復活、仲間づくりに役立つ。（特に地域の同年齢の方と仲間が広がる） ● 郷里の歴史は月日と共に忘れ去られ、悲しくも消えていくのが世の常、はるか遠くから人々は活動し、すばらしい生活を送っていた。そして日々輝いた世を築きあげていました。そうした先人の足あとと歳月と共に人々の心から消え去り輝きもなく消え去っている。古きを訪ね人々の築いた歴史の史跡を思い出した人々と共に語る事によって忘れられていた事象が有現し、天空を輝く星の如く輝き始め、新しい世によみがえって参ります ● 私たち「シニア歴史ウォーク」の全員は、埋もれた郷里の歴史を今一度語り合い、認識し合い、古きを輝かせて参ります ● 私たちは40歳～86歳位の手仕事好きな仲間が集まり手芸小物を作ったり、依頼物件の縫製などを行っているグループです。福祉とって大きい事をやる訳ではありません。でも施設の方からの依頼でおねしょシートづくりもしています。シングルサイズの裁断など場所が必要です。おかげさまで社協を拠点にさせていただき、すごく助かっているし嬉しいです。建て替えの事などソーイングの持ち物も多く最近は今後の事を考えるとすごく不安です。しっかりした説明が欲しいです ● 月2回9:30～15:00迄活動していますが、社協からの補助金もいただき本当に恵まれていると思っています。でも心ない依頼がありまして、何でも頼めばしてもらえという事が伝わって、材料、糸等すべてグループ持ちという事で軽く依頼があります。ボランティアの考えの違いが起きていると思います。淋しく思いながら制作している事もあります ● 私たちの活動は地域福祉への貢献そのものではなく、それらの活動への手助けである。運営団体からの依頼で共に活動している。湖南省は高齢化が進む地域と子育て中若年層地域との住み分けがはっきりしていて、それぞれ土地の要望が大きく異なっていることが今後の課題だと思う ● 野洲川域での活動として、草刈りや水質調査を行っているが、高齢化が進み新規加入者を期待している。できる限り、現メンバーで続けていきたいと思う ● コロナ禍で大変だが、今後も「子育て支援」のグループ活動を続けていきたい。湖南省より助成金が出ているので、今後の活動に役立てたい ● 当会は老人会であり、老人のコミュニケーションをとりやすい地域を目的に、さらに集合回数を増やすとともに、日常生活状況確認のため自宅訪問を増やしたいと考えている。また新会員増加を目指しているが、「私は元気で加入はしたくない」と言われる人が多く、会員が増えない状況。役員に対して会員募集の支援講座などをお願いしたい ● 更生保護という団体を知ってもらいたい
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 滋賀県でのボランティア活動を知りたい ● ボランティアの高齢化が進み、次世代へ繋がらない状態。70歳くらいまで働く人が増えており、この先どうなるのか…。熱意のあるボランティアも多いが、市や社協の枠の中での制限が多くて残念である。制度や法的に、ボランティアを支える内容が求められる ● ボランティアのなり手不足。国の施策で年金支給は70歳からで、70歳まで働くと、そんな中でボランティア活動に理解を持ち参画する人は少ない。今後、減少が予測される。学生の理解者を増やすことが必要ではないか ● 湖南省登録ボランティア団体として、子ども食堂・子どもたちの集い・高齢者サロン・施設・障がい者施設等に出前公演活動はしているが、地域に対して取り組み活動・助け合い・支えあいに行っていない ● 私たちの団体は去年体制が変わり、ボランティア活動ができていない。一人でも多くの高齢者が皆と集い、和気あいあいと楽しく練習をし、元気でいられることも福祉の一つだと思っている ● ボランティアセンター施設の改善 ● ①設備・施設が古い ②備品保管場が狭い ③1階に広いスペース室が欲しい。階段がづらい会員が多い

分野	自由回答
子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 未来ある子どもたちが貧困で夢や希望を失わないような市にしてほしい
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化に伴い、独居のお年寄りが増加していると思われませんが、個人情報保護のため、お便りをお届けする対象者が年々減少してきています。情報（お名前や住所）が私たちの手元に届かないためです。情報の収集には民生委員さんのご協力が不可欠ですが、皆さんお忙しくてそこまで手がまわらないというのが現状です。実際には対象者が潜在的に増加してきていると思われるので、それにも関わらずお便りを届けられないのが残念です
	<ul style="list-style-type: none"> ● 自宅に閉じこもりがちな高齢者には、情報が届きにくい
障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ● 視覚障がい者といっても多様多面性があり、他の障がいを併せ持つ場合もある。このような多様性に対応できる支援者を増やす必要がある。支援者の養成について、手話通訳に関する知識、聴覚障がい者に対する知識、技術を民間や行政職員に広げてほしい
移動・買い物	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在の三雲地域の状態、高齢者が在宅生活をする上で住みづらさを感じている。銀行は移転し、遠慮なく相談できる駐在所は無く、商店は半数が閉まっていて、大型スーパーまでは徒歩では行けない。不安を持っている人は多いのではないかと。買い物ツアーなどの方法で、こまめに来てもらえたらと思う
	<ul style="list-style-type: none"> ● 運転免許証返納後、買い物はどうしようとか、仲間でお喋りしながら買い物や、たまには景色の良い所を見学するのもいいかな？ ● バスの本数を増やしてほしい ● 十二坊温泉ゆらら行きをたくさんつくてほしいと聞く。行きと帰りにゆったりした時間が欲しい ● 高齢者の四輪車による移動が増えてきたので、道路整備を期待する
コロナの影響	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍での活動自粛が、終息後も続くかと心配している。リモートで済ませることが多くなるのではないかと
	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍でも教養講座やアトラクションは、対策を講じて開催できる方法を検討している。助成をお願いしたい（DVDの活用等）
防災	<ul style="list-style-type: none"> ● いつどのようにして起こり得るか分からない災害に備え、地域での勉強が必要
地域福祉計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 湖南市は小さなまちだが、7区それぞれに特徴があり課題も異なる。市のいくつかの部署で調査・作成している計画をすり合わせ、その学区に合った計画もありかな
アンケート等	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート集計結果を策定後に欲しい
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 住みよい「まちづくり」社会の変化を捉えながら、環境・文化を大切に、住みよい「湖南市に！」

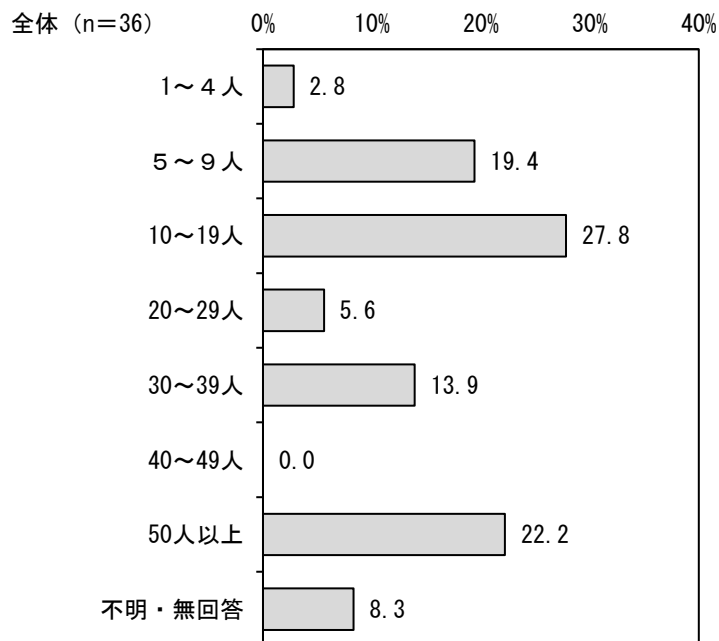
IV 福祉事業所アンケート調査結果

1. 事業所について

問1 貴事業所について教えてください。

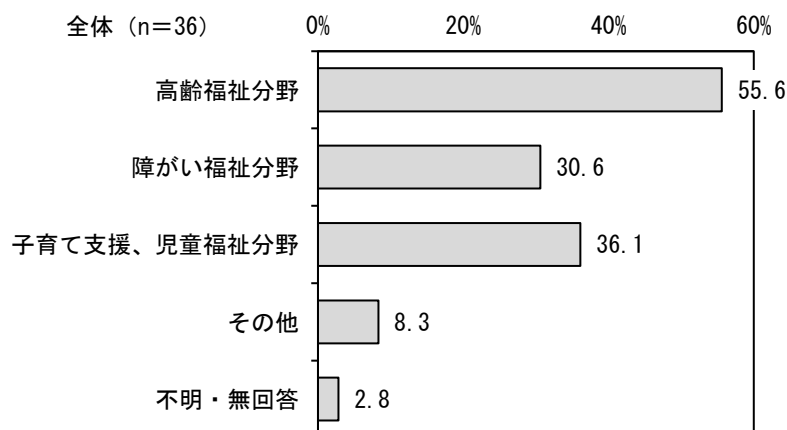
【職員・従業員数】

職員・従業員数について、「10～19人」が27.8%と最も高く、次いで「50人以上」が22.2%、「5～9人」が19.4%となっています。



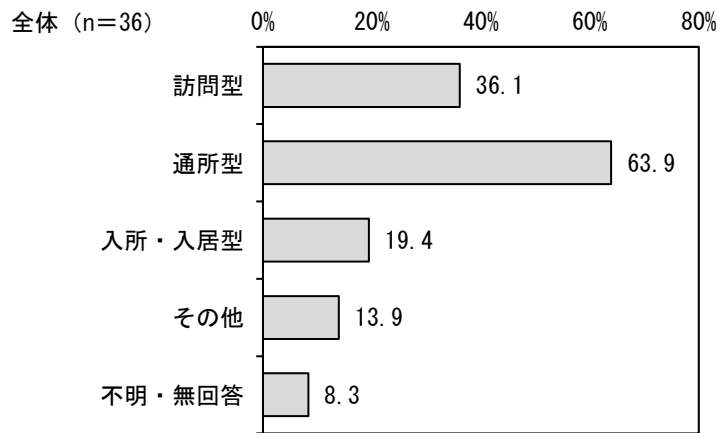
【事業区分】（〇はいくつでも）

事業区分について、「高齢福祉分野」が55.6%と最も高く、次いで「子育て支援、児童福祉分野」が36.1%、「障がい福祉分野」が30.6%となっています。



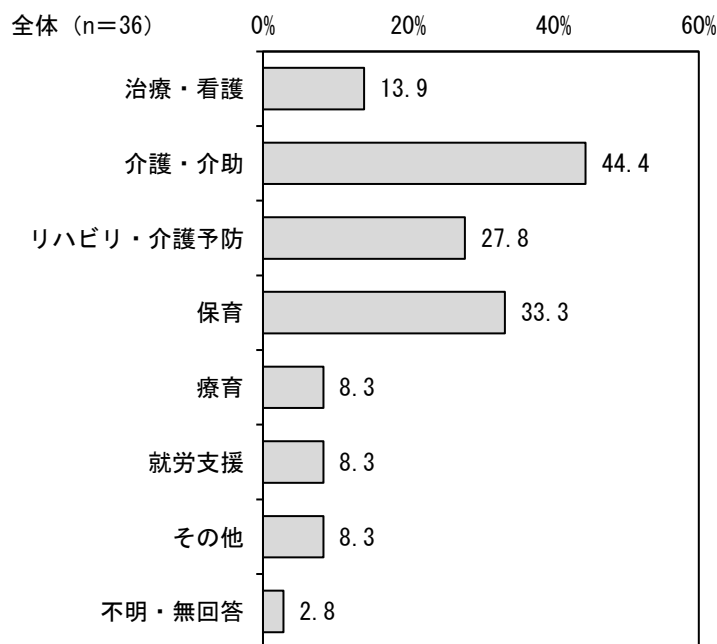
【サービス区分1】（〇はいくつでも）

サービス区分1（訪問型／通所型／入所・入居型）について、「通所型」が63.9%と最も高く、次いで「訪問型」が36.1%、「入所・入居型」が19.4%となっています。



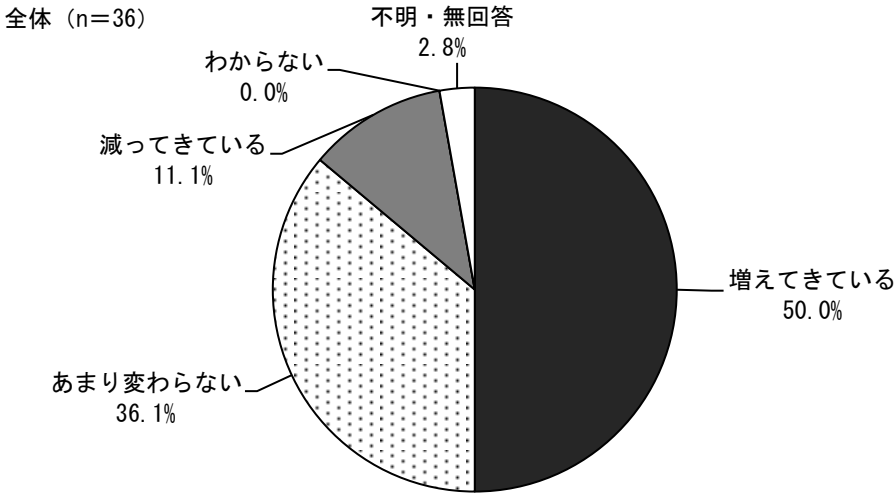
【サービス区分2】（〇はいくつでも）

サービス区分2（サービスの内容）について、「介護・介助」が44.4%と最も高く、次いで「保育」が33.3%、「リハビリ・介護予防」が27.8%となっています。



問2 最近5年間で、全体的な利用者の増減傾向を教えてください。(〇は1つ)

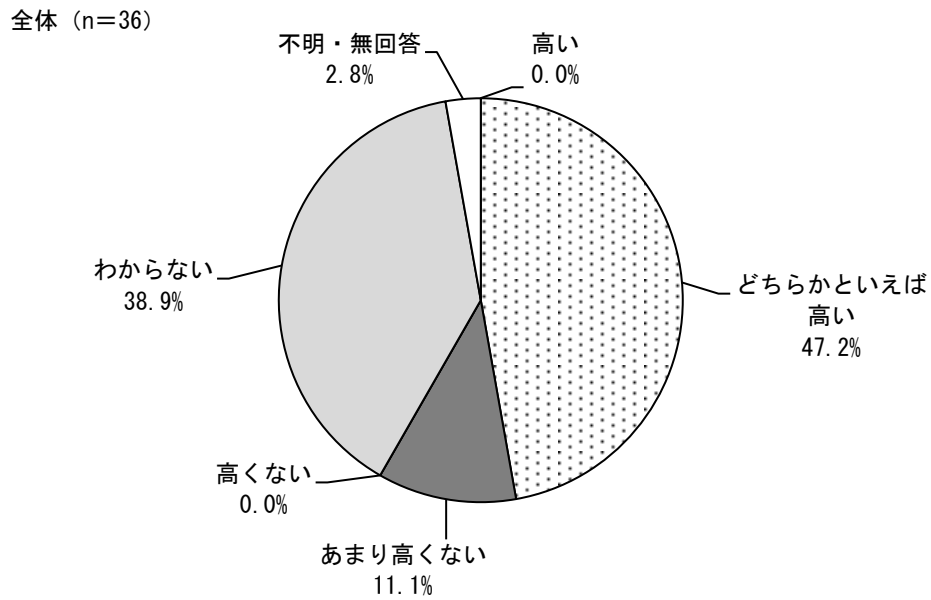
最近5年間の全体的な利用者の増減傾向について、「増えてきている」が50.0%と最も高く、次いで「あまり変わらない」が36.1%、「減ってきている」が11.1%となっています。



2. 地域について

問3 湖南省における住民相互の助け合いに対する意識は高いと感じますか。(〇は1つ)

湖南省における住民相互の助け合いに対する意識について、「どちらかといえば高い」が47.2%と最も高く、次いで「わからない」が38.9%、「あまり高くない」が11.1%となっています。

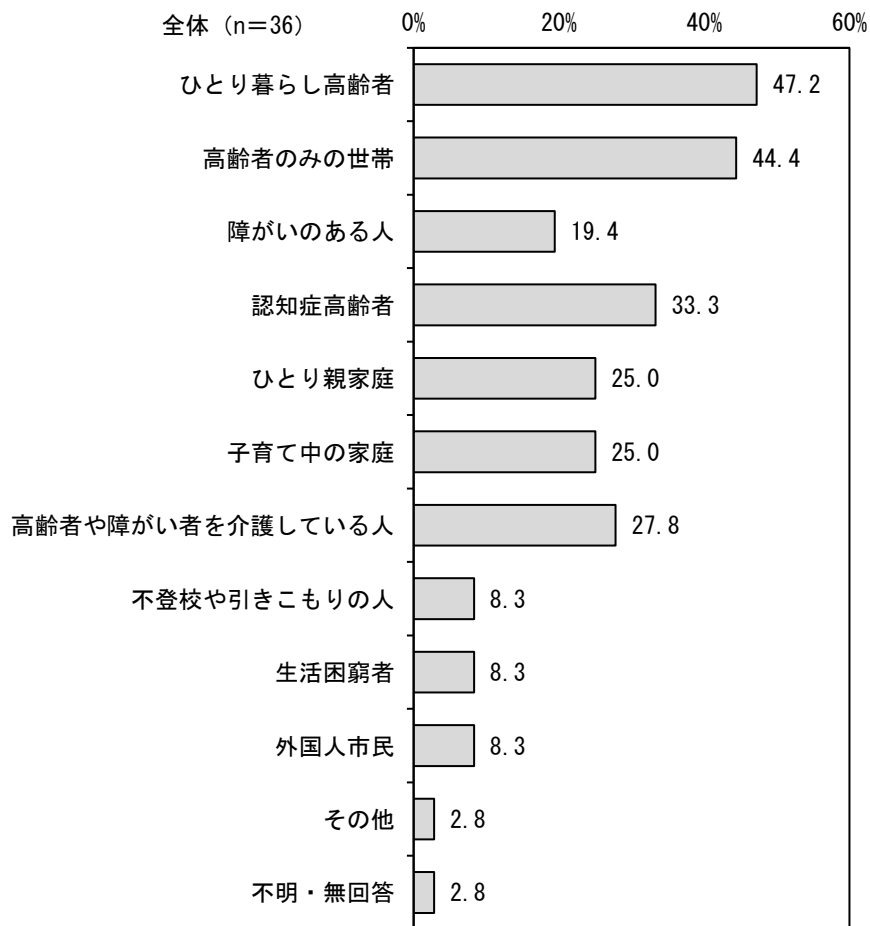


問4 貴事業所の活動の中で、地域と一緒にいることや地域に向けて行っていることはありますか。あれば具体的な内容を教えてください。(自由記述)

地域と一緒にいること・地域に向けて行っていること
<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園、幼稚園、学童保育の子どもたちとの交流 ● 小中学校の運動会観戦 ※いずれもコロナで中断
● まちづくり協議会と合同奉仕作業
● 運営推進会議、地域の清掃活動、認知症カフェ（予定）
● 地域から子どもたちの絵制作等の指導に来てもらっている
<ul style="list-style-type: none"> ● 未就園児に向けての園の開放 ● まちづくり協議会での祭りや発表会に参加 ● 近隣圏との交流、介護施設との交流
● 地域の未就園児親子に対し、園庭開放事業や子育て支援相談事業を行っている
● まちづくり協議会への参加、地域清掃、地域交流
● 移動支援を行っている
● 以前は地域の行事に出向いて出前講座（認知症、介護保険制度、介護予防体操）をさせていただいていた。現在は新型コロナウイルスの影響で中止している
<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症カフェ、青色防犯パトロール隊、夏祭り ● 石部高校講義（出前）、石部中学校生徒就労体験受入、石部中学校生徒ボランティア受け入れ
<ul style="list-style-type: none"> ● 避難訓練へ近所の方が参加 ● 季節の催しを合同で行う
● 高齢者・障がい者なんでも相談会、市民向け権利擁護セミナー、親族後見人懇談会、専門相談（弁護士・司法書士）
● 地域の未就園児向けの育児支援
● 地域住民に向けて、デイサービス事業所にて運動指導、ボランティア発表会等を行っている
● 健康増進、サークル活動、祭り、まちかど健康相談、健康情報の発信
● 一人歩き保護訓練、つどいカフェ
● 年2回の広報誌、訪問看護の相談業務
● 地域の草刈、地域の夏祭り
● コロナ禍以前は地域から依頼を受け、テントの中に風船を入れて大型扇風機で風を送り、幼児が遊べる「バルーンランド」を続けてきた
● まちづくり協議会に入り活動
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域で行われる防災に関することや、クリーンキャンペーンへの参加 ● 学校との連携では、行事への参加や案内、ふれあい交流の受け入れ
● 職員（代表）が民生委員として活動、運営推進会議の開催、手芸サークル

問5 貴事業所が活動を進める中で、これから特に支援が必要だと思う対象は誰ですか。
(〇は3つまで)

これから特に支援が必要だと思う対象について、「ひとり暮らし高齢者」が47.2%と最も高く、次いで「高齢者のみの世帯」が44.4%、「認知症高齢者」が33.3%となっています。



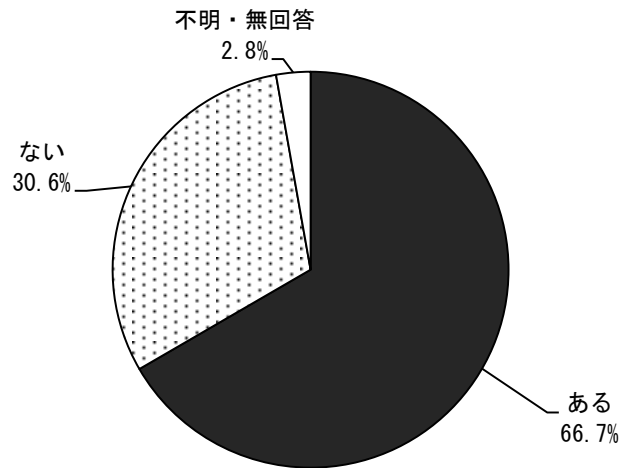
その他回答

● 手厚くみてあげた方がよいお子様

問6 地域の中で、既存の公的な制度や福祉サービスだけでは対応が不十分だと思う福祉課題はありますか。(〇は1つ)

既存の公的な制度や福祉サービスだけでは対応が不十分だと思う地域の福祉課題について、「ある」が66.7%、「ない」が30.6%となっています。

全体 (n=36)



<問6で「ある」と回答された方>

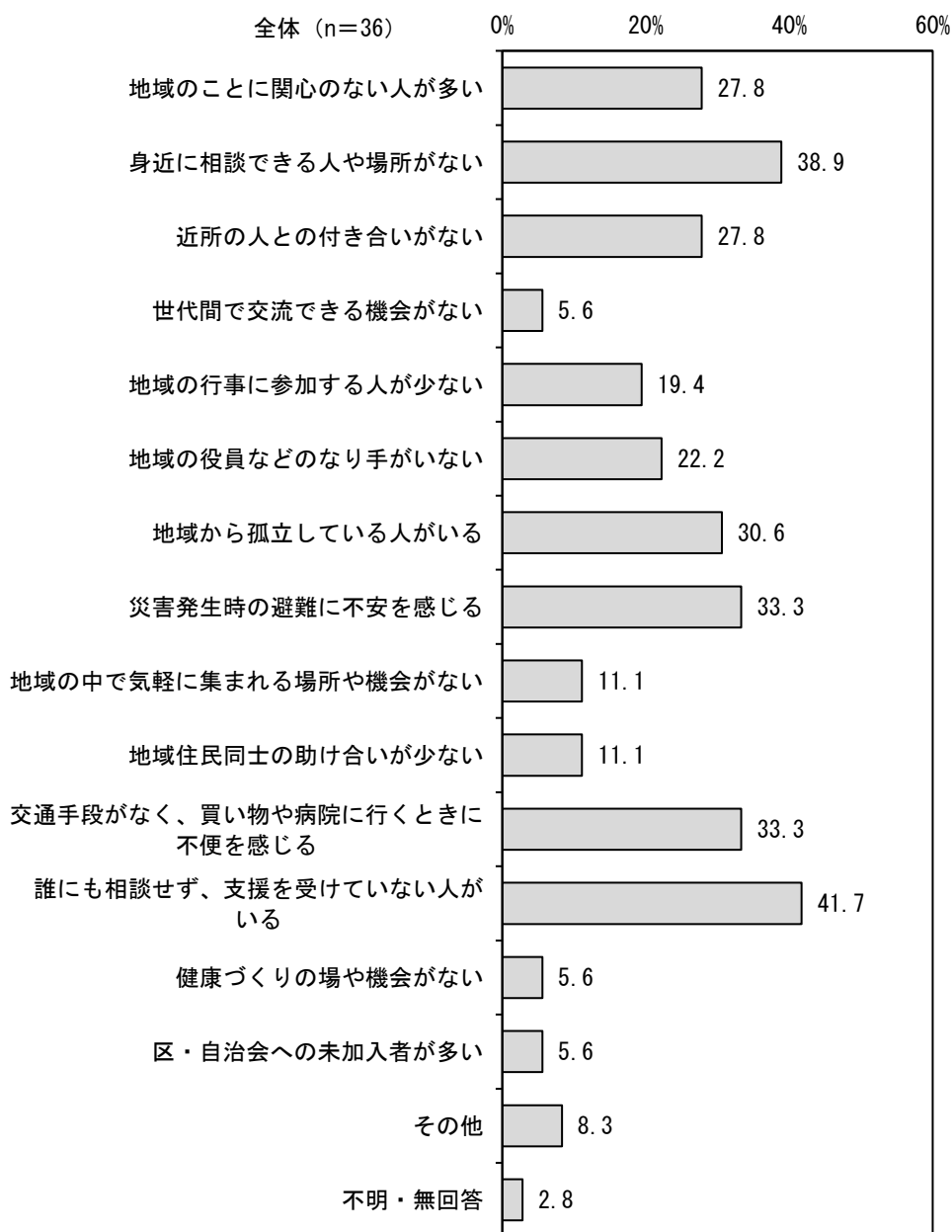
問7 課題の内容とその課題に対してどのような支援が必要だと思いますか。(自由記述)

課題	必要な支援
● 介護保険制度の中で訪問介護の生活が制限され、一人暮らしや高齢者のみの世帯では解決できない生活維持内容がある	● 介護保険外の生活維持サービスを非営利で提供する体制の整備と非営利団体への行政の支援
● 認知症高齢者の増加、車の運転、社会との繋がり	● さまざまなサービスがあるが、地域社会全体での認知症高齢者への対応やアプローチが必要だが、具体的な支援方法は考え中である
● 不登校、家庭支援	● 子どもの居場所、大人（保護者）の居場所、話せる場所、聞いてもらえる場所
● 子育て支援、障がい者支援、高齢者施設等、湖南市は他市に比べて手厚いと思うが、難しい点がそれぞれごとにある	● 地域住民との繋がり
● 外国籍児の支援	● 就学について ● 生活習慣
● 食事の栄養問題や買い物	● 食事の提供や買い物代行
● 外国籍者が安心して放課後児童クラブへあずけられる環境づくり	● 通訳の支援員配置等
● 市民活動としての事業の継続は困難である	● 金銭的な補助が必要
● ゴミ出し 燃えるゴミだけでなく、缶、ビンもある。毎回ゴミ出しできない ● 買い物 商品を見て自分で買物をしたいができない、行けない	● ゴミ出し支援 ● 買い物支援
● 福祉に従事する側への補助金など充実すること。働き手が足りなくなると感じています	
● 生活保護と児童、老人等、複数の課題を抱えていて、それぞれの担当が関わっているが、組織間の連携が取りにくい	● 担当課をまたいだ情報の共有
● 精神障がい者、高齢者に対する支援の在り方 ● セルフネグレクト問題 ● 行き場のない高齢者への対応問題	● 認知症を伴った精神障がい者の居住の場の確保 ● 貧困高齢者への介護施設利用支援
● 障がい者手帳を所持していない人が、支援から漏れるケースがある	● 専門職や関係機関、民生委員などからの情報を一元化する仕組みが必要
● ひとり親は家計を一人で守り、育児・家事も全て一人でこなさなければならない。特に経済的な不安を抱えている家庭が多い。生活保護は持ち家だと受給できないが、アパート住まい者は支払いが多いなどの理由がある。せめて就労でき安定するまで、準生活保護（期限付き）制度があればよい	● 不登校・引きこもりについて 湖南市も多くなっている。市が不登校の子どもたちのために、フリースクールの整備を行ってほしい。引きこもり実態調査を行い、その上で支援方法を考えてほしい
● 老々介護・引きこもり・外国人の保険	● 介護保険制度の拡充、行政担当者の拡充
● 障がい者（児）に対して、一定期間のリハビリ支援はあるが、期間が過ぎれば各自でリハビリの継続となる。通うにも地域の運動施設には障がい者枠が無い	● 地域の運動施設でも障がい者枠の充実
● 交通手段が確保できず、活動の場へ行けない ● 自立度の高い人（要支援者含む）の活動場所の選択肢が少ない	● 自宅から利用できる公的送迎（地域活動への） ● 体力維持のための場の拡充

課題	必要な支援
● さまざまな障がいに対する合理的配慮の進展	● 障がいへの理解と啓発
<ul style="list-style-type: none"> ● 「行動障がいのある人たちへの専門的な支援」 ● 『8050問題』を早期に対応するには、児童期からの行動障がいへの予防的支援が効果的と考えている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会資源の有機的な活用として、学校・保育所・幼稚園・学童保育・放課後デイサービス・発達支援センター・障がい福祉課等が早期に連携し、本人と家族を支援する必要がある。一つの機関で対応するのではなく複数の機関で関わることで、問題解決の糸口が見えてくると思う
● サービスの充実	● 保護者や本人の困り感に寄り添える
<ul style="list-style-type: none"> ● 在宅障がい者を支援する上での、介護者の高齢化と各家庭で問題が起きた際の受け皿が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 短期入所の受け入れ数は少なく、高齢化に伴い緊急ショートステイを希望されると、長期になることも考え、早い段階で家族を含めた先の生活を考えておく必要がある
● 買い物難民や高齢者の移動手段	● 送迎や訪問販売

問8 ふだんの業務・活動の中で感じる地域の課題や問題点はどのようなことですか。
(〇は5つまで)

ふだんの業務・活動の中で感じる地域の課題や問題点について、「誰にも相談せず、支援を受けていない人がある」が41.7%と最も高く、次いで「身近に相談できる人や場所がない」が38.9%、「災害発生時の避難に不安を感じる」、「交通手段がなく、買い物や病院に行くときに不便を感じる」がともに33.3%となっています。

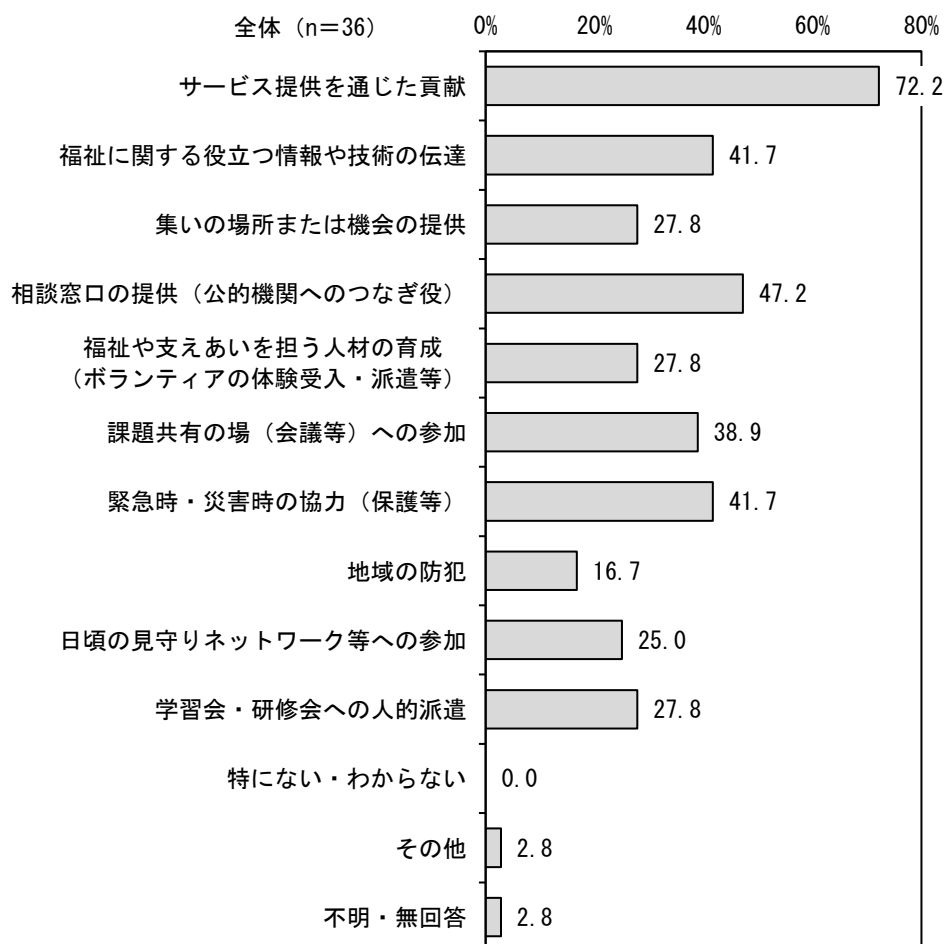


その他回答

- 市の支援内容を知らない人が多くいる
- 市民活動としての福祉有償運送事業を知らない住民が多すぎる
- 地域とつながるための窓口があると助かります

問9 今後、地域に対して事業所としてできることは何かありますか。
(〇はいくつでも)

今後地域に対して事業所としてできることについて、「サービス提供を通じた貢献」が72.2%と最も高く、次いで「相談窓口の提供（公的機関へのつなぎ役）」が47.2%、「福祉に関する役立つ情報や技術の伝達」、「緊急時・災害時の協力（保護等）」がともに41.7%となっています。

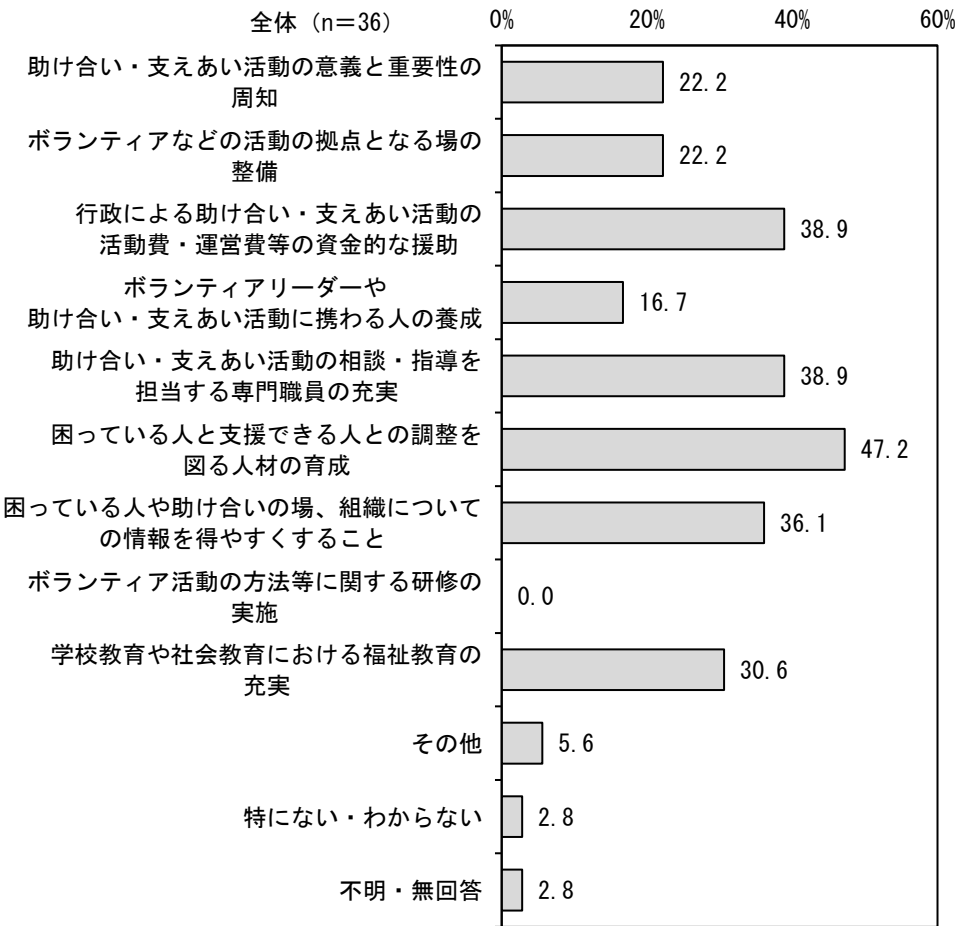


その他回答

- 移動支援を通じていつまでも住み慣れた所で暮らして続けてもらう

問 10 地域における助け合い・支えあい活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

地域における助け合い・支えあい活動を活発にするために重要だと思ことについて、「困っている人と支援できる人との調整を図る人材の育成」が 47.2%と最も高く、次いで「行政による助け合い・支えあい活動の活動費・運営費等の資金的な援助」、「助け合い・支えあい活動の相談・指導を担当する専門職員の充実」がともに 38.9%、「困っている人や助け合いの場、組織についての情報を得やすくすること」が 36.1%となっています。

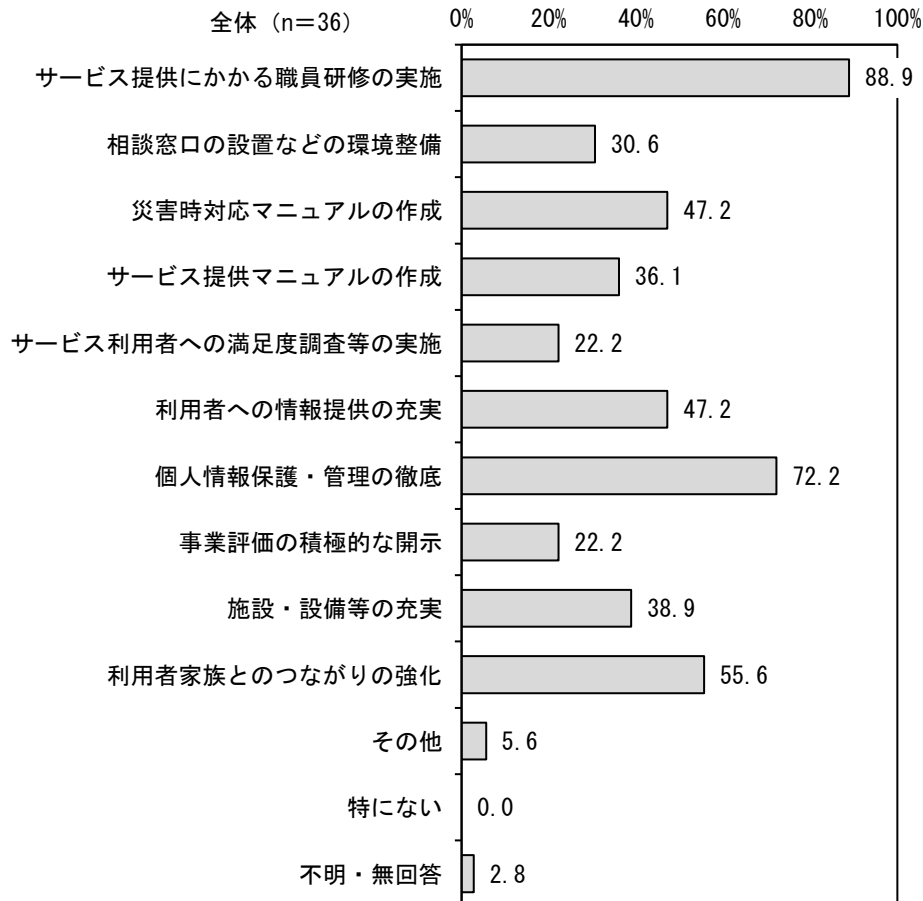


その他回答	
●	事務局機能
●	情報が入らない

3. 活動について

問 11 貴事業所において、ふだんの業務でサービスの質の向上のために取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも)

ふだんの業務でサービスの質の向上のために取り組んでいることについて、「サービス提供にかかる職員研修の実施」が88.9%と最も高く、次いで「個人情報保護・管理の徹底」が72.2%、「利用者家族とのつながりの強化」が55.6%となっています。

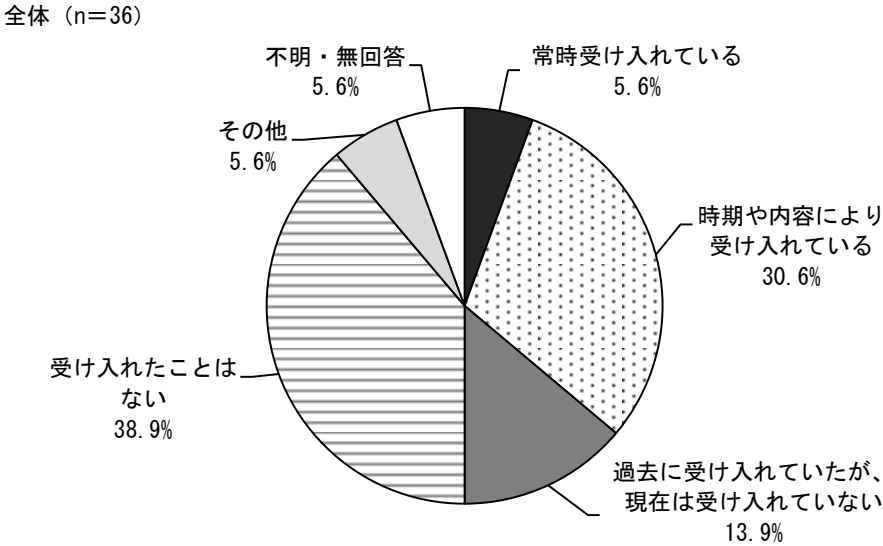


その他回答

- 運転協力委員との面談
- 委員会活動

問 12 貴事業所において、ふだんの業務で湖南市内の団体や住民によるボランティアの受け入れを行っていますか。(〇は1つ)

ふだんの業務で湖南市内の団体や住民によるボランティアの受け入れを行っているかについて、「受け入れたことはない」が38.9%と最も高く、次いで「時期や内容により受け入れている」が30.6%、「過去に受け入れていたが、現在は受け入れていない」が13.9%となっています。



その他回答	
●	ヘルパーは学生の実習、デイはボランティアグループ
●	コロナ禍で現在は停止中

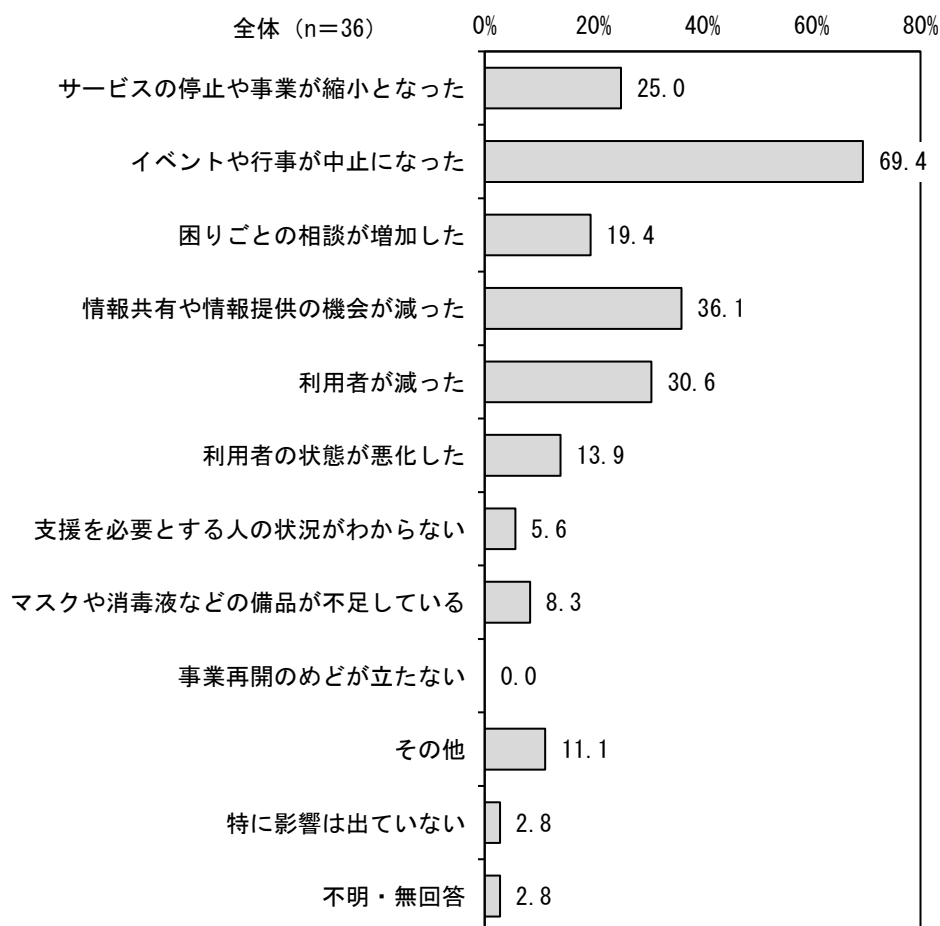
<問 12 で「常時受け入れている」または「時期や内容により受け入れている」と回答された方>

問 13 ボランティアによる具体的な活動内容を教えてください。(自由記述)

活動内容
● 舞踊、演奏、マジック等のサークルや個人の受け入れ
● 清掃用古着の提供、古着の裁断
● 認知症高齢者の話し相手
● 職場体験の受け入れ
● 水戸小学校の町探検の受け入れ
● ゴーヤ栽培、人形劇や絵本読み聞かせ、園内草刈り
● レクリエーション活動
● レクリエーションのボランティア、小学生との交流会
● 平時の時は、地域交流の場として喫茶スペースを設け、運営を手伝ってもらった。行事開催時のスタッフ送迎等
● 利用者との話し相手
● 子どもたちと交流、マジックショー・劇・夏祭り・陶芸教室・腹話術
● 草刈り

問 14 事業運営や活動を行う上で、新型コロナウイルス感染症による影響はありますか。
(〇はいくつでも)

新型コロナウイルス感染症による事業運営や活動への影響について、「イベントや行事が中止になった」が69.4%と最も高く、次いで「情報共有や情報提供の機会が減った」が36.1%、「利用者が減った」が30.6%となっています。



その他回答

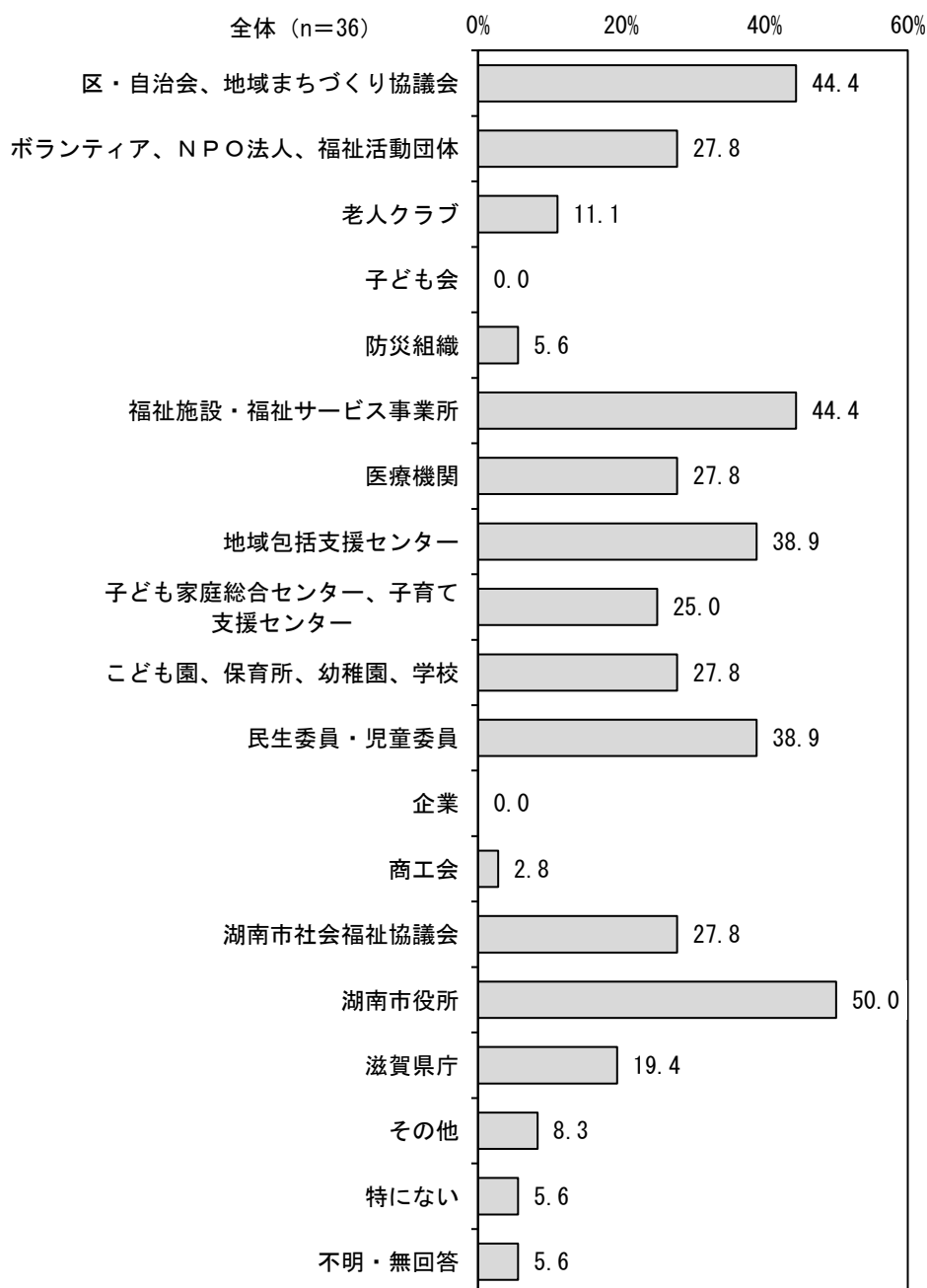
- スペースの確保となり、トレーニングメニューの変更
- 精神的な不安から、職員の休みがあった
- 終末期の在宅看取りの増加
- 活動内容の制限

問 15 コロナ禍の中で、新たに取り組んでいることがあれば教えてください。(自由記述)

新たに取り組んでいること
<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインでの外部との会議や相談、オンライン研修の受講（職員研修） ● 徹底した感染予防対策と環境整備＝ゾーニングのため仕切り
<ul style="list-style-type: none"> ● 集団でのレクリエーションや脳トレ等を中止し、学校授業のように前を見て机を配置し、学習プリントなどで対応
<ul style="list-style-type: none"> ● 検温、手洗い、消毒、除菌を徹底し、外出を自粛
<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン研修、web 上での行事報告
<ul style="list-style-type: none"> ● 三密や消毒、換気を徹底し、外部との交流や行事の中止
<ul style="list-style-type: none"> ● 社内ではオンライン研修や会議が主となっている ● 感染予防のための対策強化、利用者も協力依頼
<ul style="list-style-type: none"> ● 新たな取り組みは行っていないが、消毒やマスク対応をしている
<ul style="list-style-type: none"> ● ヘルパーに渡したり、受け取る書類はポストに投函
<ul style="list-style-type: none"> ● 活動内容の見直し、感染拡大防止
<ul style="list-style-type: none"> ● 車両整備を改善した
<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインでの職員会議・研修への参加
<ul style="list-style-type: none"> ● 感染予防対策強化、オンライン会議等
<ul style="list-style-type: none"> ● 対面研修はほぼ行われず、オンライン研修 ● スタッフのフェイスシールド着用
<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン研修会
<ul style="list-style-type: none"> ● 会議の2部制
<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅内において手指消毒が適切に実施できるように、各所に消毒液の設置
<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン会議、会員への電話
<ul style="list-style-type: none"> ● zoom 会議
<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン会議 ● 自宅療養者（コロナ感染者）の健康観察、感染防護具セット無料配布の協力
<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインでの職員研修
<ul style="list-style-type: none"> ● レクリエーションの内容変更
<ul style="list-style-type: none"> ● 外活動や分散（人数を減らす）して各グループでの活動を行っている。自立活動として電車やバス利用での外出活動は止めている
<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインでの会議を始めた
<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインでの研修参加、保護者との動画で様子を配信 ● クラスター防止、他部署との境目を明確にしている
<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン会議
<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン受講

問 16 地域での活動の際に、どのような組織・団体などと連携して活動されていますか。
(〇はいくつでも)

地域での活動の際に連携している組織・団体について、「湖南省役所」が50.0%と最も高く、次いで「区・自治会、地域まちづくり協議会」、「福祉施設・福祉サービス事業所」がともに44.4%、「地域包括支援センター」、「民生委員・児童委員」がともに38.9%となっています。

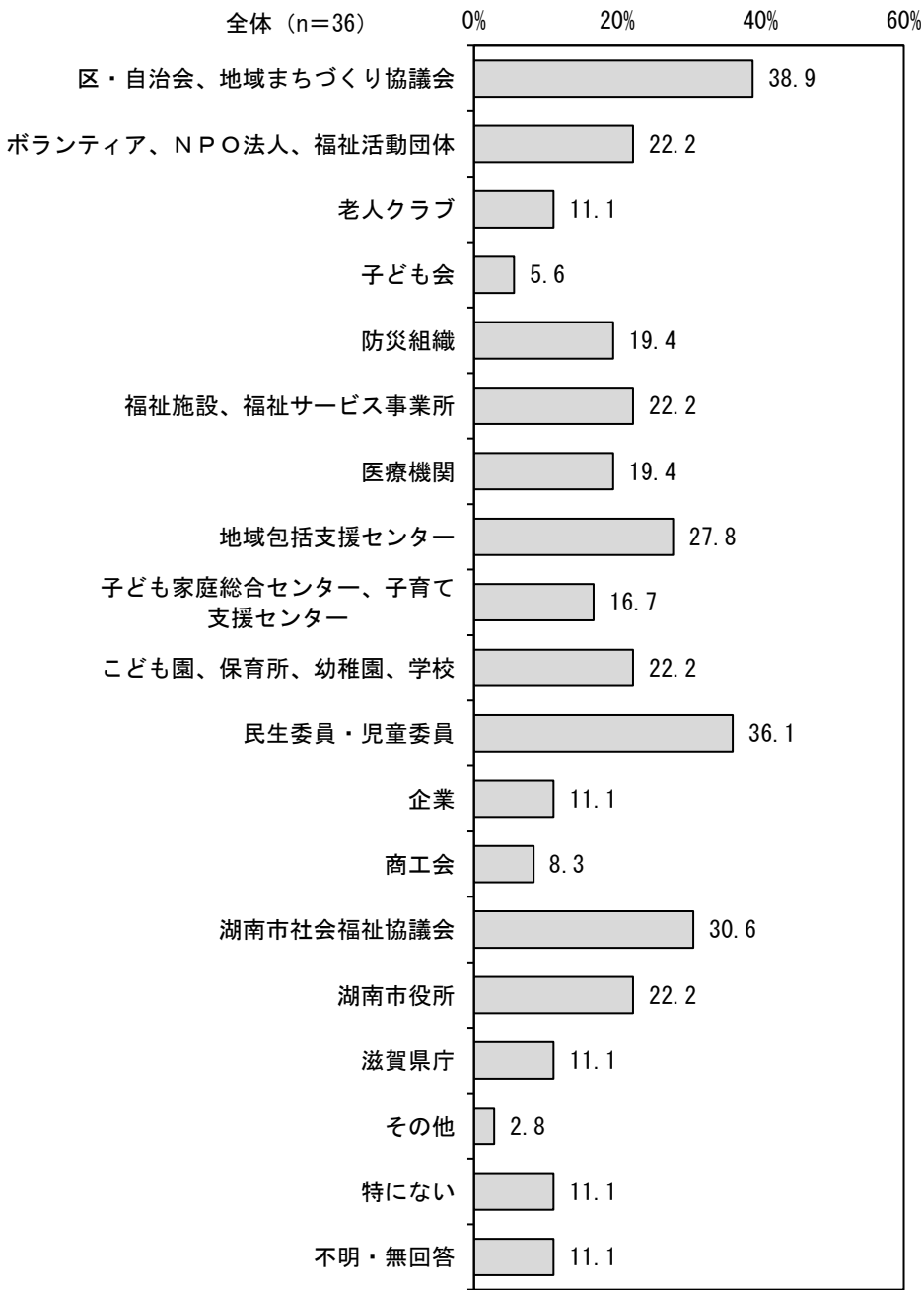


その他回答

- ケアマネ事業所
- 市内のケアマネージャー
- 必要に応じて、どの組織とも連携

問 17 今後、地域での活動を行う際に、連携したい組織・団体などがありますか。
 (〇はいくつでも)

今後地域での活動を行う際に連携したい組織・団体について、「区・自治会、地域まちづくり協議会」が38.9%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員」が36.1%、「湖南省社会福祉協議会」が30.6%となっています。

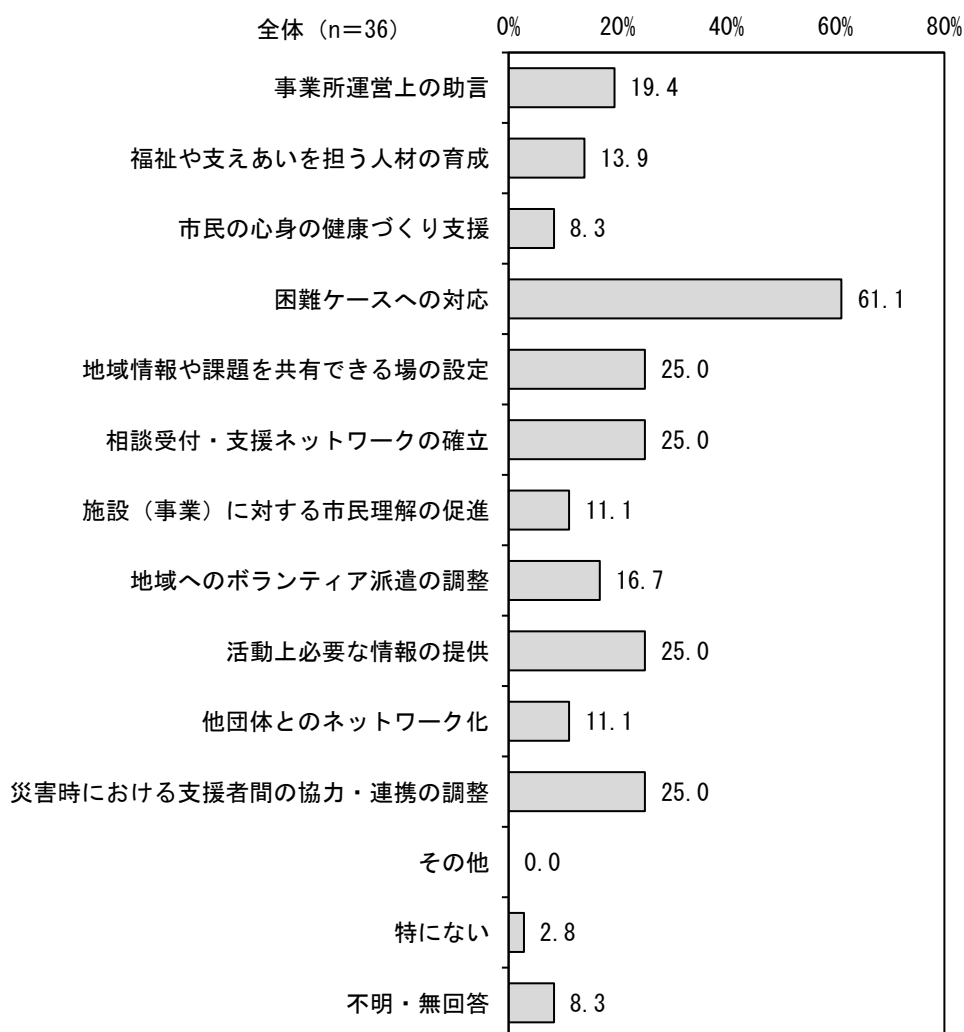


その他回答

● 必要に応じて、どの組織とも連携

問 18 貴事業所が地域で活動する中で、市や社会福祉協議会に期待することは何ですか。
 (〇は3つまで)

地域で活動する中で市や社会福祉協議会に期待することについて、「困難ケースへの対応」が61.1%と最も高く、次いで「地域情報や課題を共有できる場の設定」、「相談受付・支援ネットワークの確立」、「活動上必要な情報の提供」、「災害時における支援者間の協力・連携の調整」がともに25.0%、「事業所運営上の助言」が19.4%となっています。



その他回答

記入なし

4. 自由記述

その他、地域福祉の推進について、ご意見・ご要望がございましたらご自由にお書きください。

分野	自由回答
連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 湖南省社会福祉協議会の役割が、地域福祉の推進に対してさらにウェイトを占めると思う。ネットワークの中心として、官民をつなぐきっかけづくりが必要
福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民はさまざま地域福祉サービスがあることを認知しておらず、関心が向けられていないことが問題である。情報提供や共有について、一緒に周知できるように協力・参加が必要 <p>本校の多くの子どもたちは福祉サービスを利用していますが、さらに支援があればということについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの登下校送迎支援について 下校については放課後等デイサービスなどの支援があり、多くの子どもは学校からサービス先への送迎をお願いしているが、登校時の支援があればという要望が多くある（保護者の体調不良等で、子どもの送迎ができず欠席せざるを得ない等） ● 肢体不自由児の入浴介護について 子どもが大きくなり、家族では介助が難しくなっているケース、女兒児童で同性介助が必要になってきたケースなど。一部サービスを受けている人もいるが、提供の場が少ない ● ひとり親家庭について 休日などサービスを利用できない時の子育ての不安を抱えているケースがある。家族の協力が得られず、一人で何とかしないといけないと悩んでいることもある。心療内科を受診している人もいて、保護者の心のケアサポート支援システムがあればと思う ● コロナウイルス感染症について 保護者が感染して入院が必要な場合、障がいのある子どもを預かってもらう場所があるのか心配している ● 外国語通訳について 外国籍の子どもの通院時、通訳が必要なケースは知り合いに依頼するか、国際協会に依頼をされている。定期通院が必要なケースも多く、費用負担が大変である。ボランティアなどの支援があれば有難い ● 保護者の相談について 子どもの養育についてしんどさを抱えている保護者について、学校以外にも気軽に相談できる機会の提供があればと思う <ul style="list-style-type: none"> ● 計画相談を受けてくれる事業所が少ない ● 短期入所を受けてくれる事業所が少ない
運営について	<ul style="list-style-type: none"> ● 本来は市民の支えあいで運営するべきだが民間からの寄付が激減しているため、公的支援に頼らなければならない
移動	<ul style="list-style-type: none"> ● 運転免許証返納すると足が無いからと、返却しない人もいる。車を取られ、認知症が出てきた人もいる。交通手段に目を向けてほしい ● 地区によって、福祉活動内容や参加率がバラバラで、参加したいが交通手段がないなど利用者から聞く。各専門職者と連携を図り対応できればと思う

V 相談支援機関アンケート調査結果

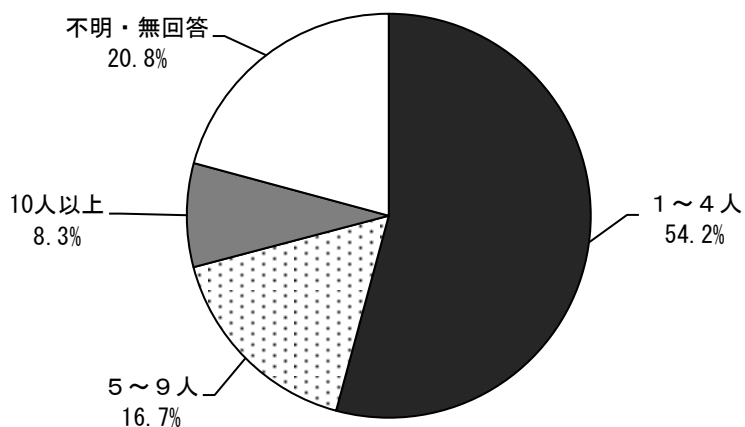
1. 組織・体制について

問1 組織・体制について教えてください。

【従業員数】

従業員数について、「1～4人」が54.2%と最も高く、次いで「5～9人」が16.7%、「10人以上」が8.3%となっています。

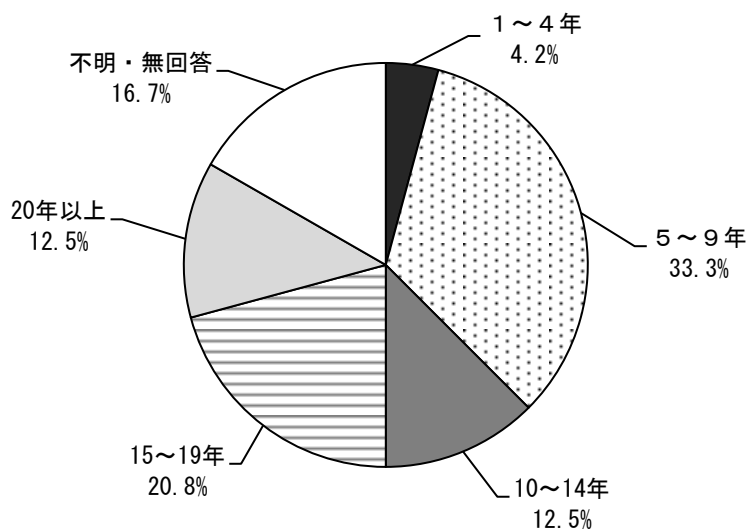
全体 (n=24)



【運営年数】

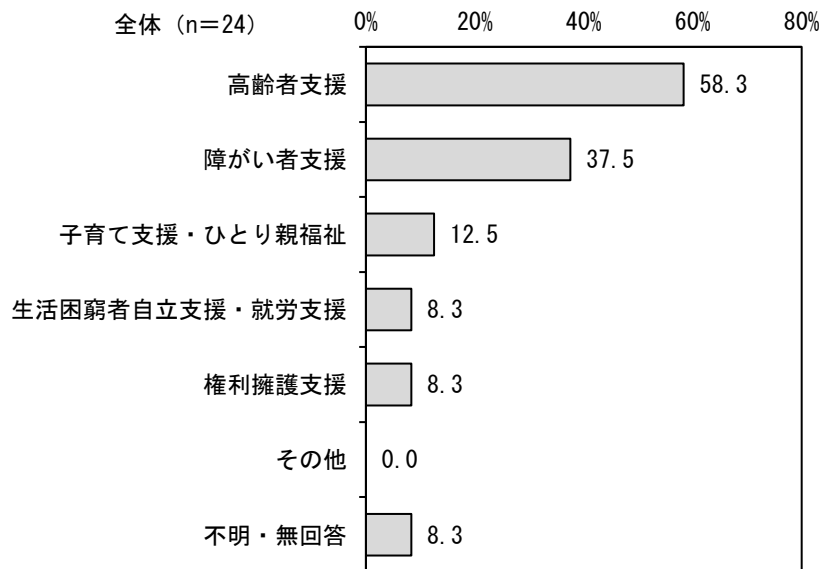
運営年数について、「5～9年」が33.3%と最も高く、次いで「15～19年」が20.8%、「10～14年」、「20年以上」がともに12.5%となっています。

全体 (n=24)



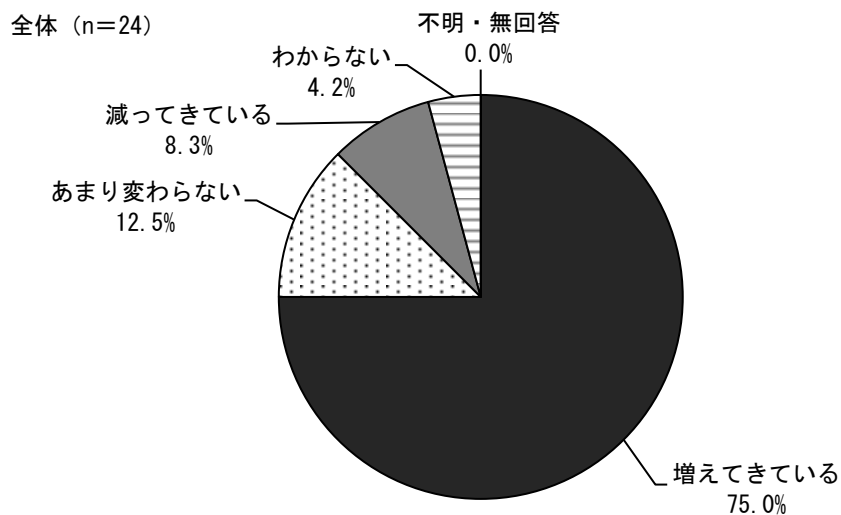
【支援対象分野】（〇はいくつでも）

支援対象分野について、「高齢者支援」が58.3%と最も高く、次いで「障がい者支援」が37.5%、「子育て支援・ひとり親福祉」が12.5%となっています。



問2 最近5年間で、全体的な利用者の増減傾向を教えてください。（〇は1つ）

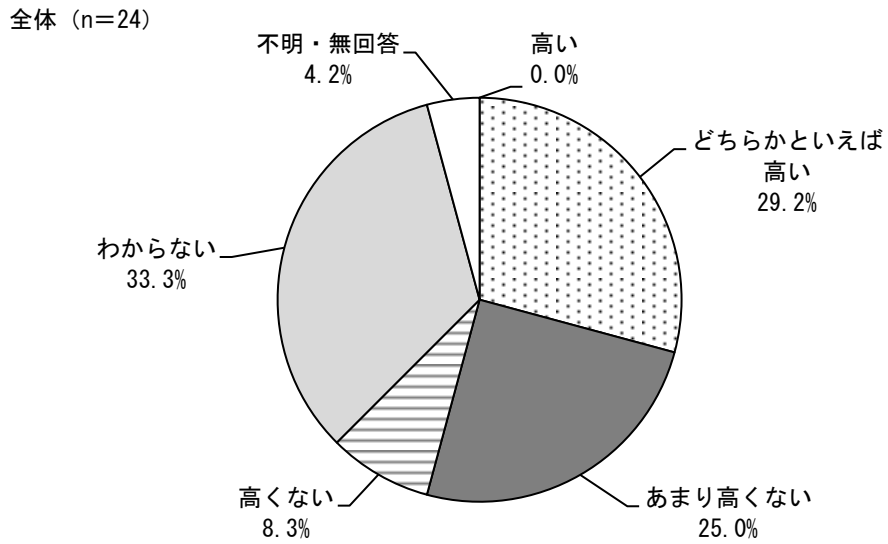
最近5年間の全体的な利用者の増減傾向について、「増えてきている」が75.0%と最も高く、次いで「あまり変わらない」が12.5%、「減ってきている」が8.3%となっています。



2. 地域について

問3 湖南省における住民相互の助け合いに対する意識は高いと感じますか。(〇は1つ)

湖南省における住民相互の助け合いに対する意識について、「わからない」が33.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば高い」が29.2%、「あまり高くない」が25.0%となっています。

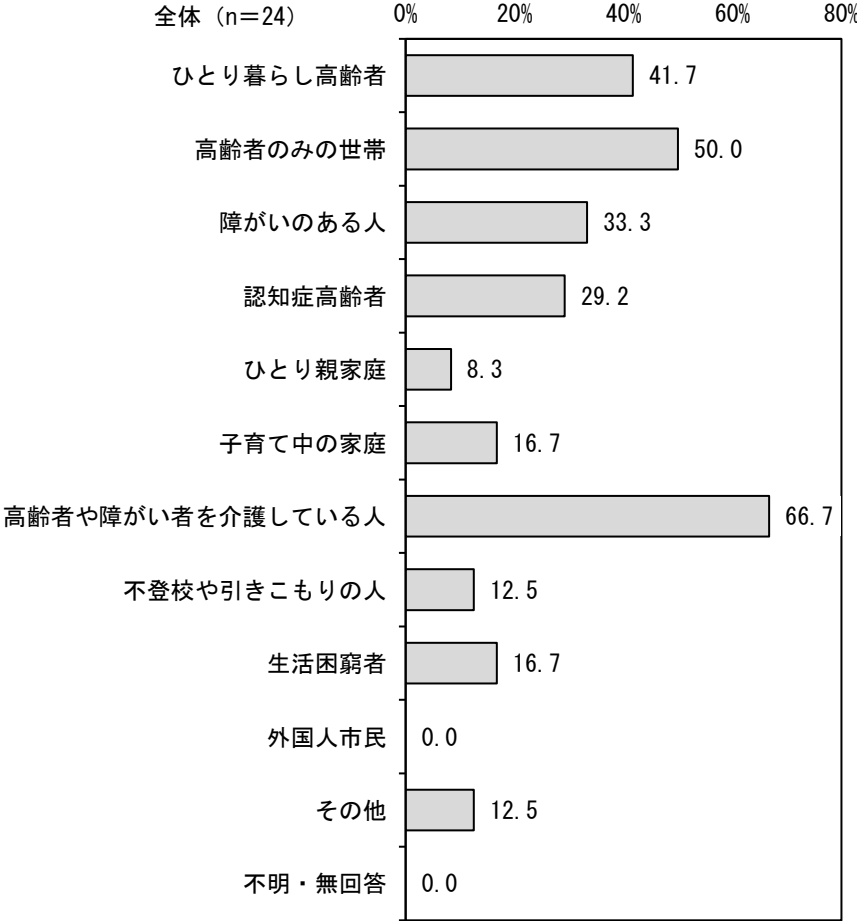


問4 業務の中で、地域と一緒にいることや地域に向けて行っていることはありますか。あれば具体的な内容を教えてください。(自由記述)

地域と一緒にいること・地域に向けて行っていること
● パソコン教室、サロン活動
● 地域で行われているサロンに、介護相談や趣味の教室を行いたい
● 区報に記事を書ける
● 地域包括支援センターとの連携 ● 市の障害福祉課、社会福祉協議会とのケース会議 ● 病院との担当者会議(市、包括、社協、障害福祉課、各サービス関係者)
● 一部地域の民生委員との顔合わせ→今後は各地域の民生委員とのつながりも検討中。ケアマネの役割について知ってもらっている
● 居宅支援事業としては特に行っていないが、本体の特養としては、地域の保育園・幼稚園との交流会、小中学校の運動会への招待、夏休み中に学童を施設に招きイベント開催などは行ってきた。施設で開催する夏祭りの招待を地域に発信している。 ※この2年はコロナの影響でできていない。まちづくりセンターへ地域と合同の防災訓練や介護教室などのコラボの呼びかけはしている
● 医療生協としての祭り、健康チェック、健康保険講座の講師(制度について)
● 地元自治会と連携し、自治会の公共配布物(チラシや案内文書等)を各自治会長宅へ配達 ● 地元年1回の祭りに参加
● まちづくり協議会の地域支えあい推進員との連携。主に情報交換と地域の課題について話す
● サロン活動を市社協やNPO 法人と協同でプログラムを実施
● 民生委員勉強会への参加 ● 認知症高齢者の一人歩き発見保護訓練への参加

問5 相談支援の活動を進める中で、これから特に支援が必要だと思う対象は誰ですか。
(〇は3つまで)

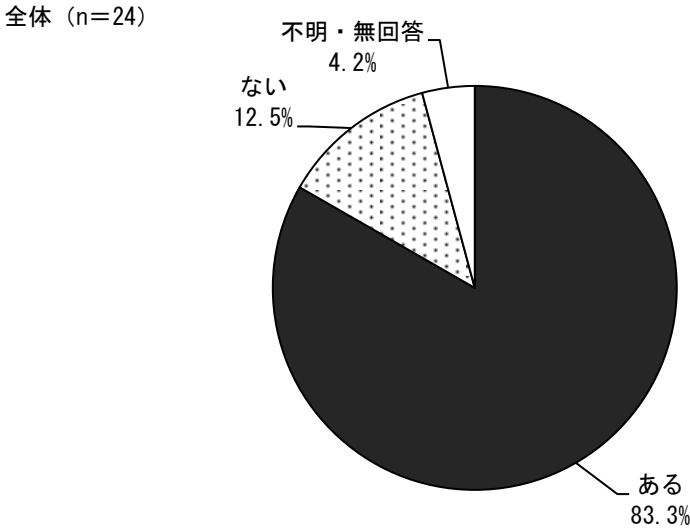
これから特に支援が必要だと思う対象について、「高齢者や障がい者を介護している人」が66.7%と最も高く、次いで「高齢者のみの世帯」が50.0%、「ひとり暮らし高齢者」が41.7%となっています。



その他回答	
●	本人が障がい者で親が高齢
●	介護者が高齢
●	介護者が障がい者

問6 地域の中で、既存の公的な制度や福祉サービスだけでは対応が不十分だと思う福祉課題はありますか。(〇は1つ)

既存の公的な制度や福祉サービスだけでは対応が不十分だと思う地域の福祉課題について、「ある」が83.3%、「ない」が12.5%となっています。



<問6で「ある」と回答された方>

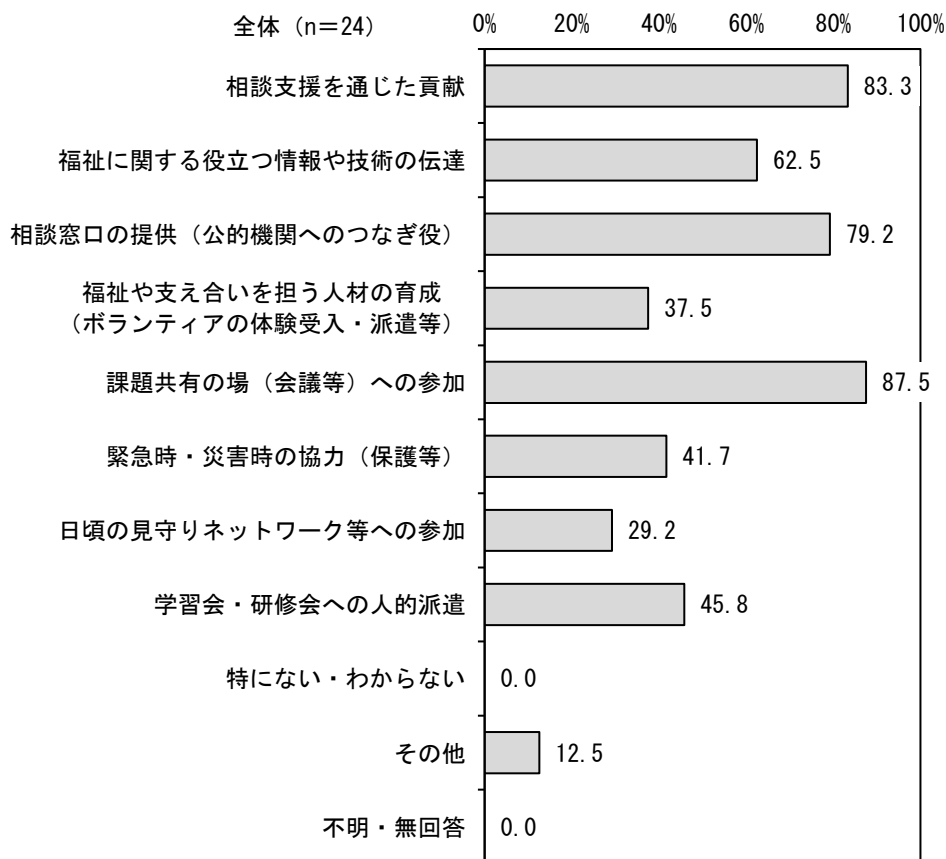
問7 課題の内容とその課題に対してどのような支援が必要だと思いますか。(自由記述)

課題	必要な支援
● 8050問題にもあるように、親亡き後の支援体制	● 支援体制が無く負担量が1事業所に偏っている現状があり、体制づくりと実施が必要
① 運転免許証返納での移手段不足 ② 自治会未加入での孤立 ③ 身内の無い独居者	① ボランティアによる移動支援サービス拡大 ②③ 地域での見守りと共助
● 高齢者や障がい者等、生活における支援が必要な方(世帯)、特に独居者や発信力が弱い方等への支援介入や災害時の支援	● 公的サービスと併せてインフォーマルな関り。民生委員をはじめとした住民の認知や理解による見守りや災害時の協力
● 子育てしながら介護をしているひとり親家庭への支援	● 生活援助
● 障がいと高齢者との同時進行の支援が必要 ● 老々介護の夜間の体制づくり	● 本人が床に座り込み立たせることもできず、救急車を呼んだり訪問看護に連絡して来てもらう時、在宅において他にどのような方法があるのか?
● 障がい福祉サービスから介護保険サービスへの移行が難しい。年齢が65歳になっても、支援の内容や支援者が急に変更になることを受け入れにくい	● 必要な方には障がい福祉サービスが両方受けられるとよい。ケアマネジャー同士の連携がスムーズにできるとよい
● ヤングケアラーの問題 困りごとが発信できるようにしていく支援 ● 障がいのある子どもがいる家族への支援 サービスが必要な方に対するサービスの提供(ができていない人がいる) 助け合いでの支援(気兼ねなく利用できる仕組みの構築)	● 困りごとの発信に対する支援 家事等の支援(家事および介護、養護等) ※制度的には保護者が養育することとなり、家事支援サービス等利用できない。しかし母子家庭等保護者が仕事で不在となることが多く、結果的に子どもが家事、養育、介護等を担うケースがある ● 相談支援の提供 助け合い、ボランティア等公的サービス以外の支援の提供
● 地域にコーディネート的な役割 ● 震災時の対応	● 優先順位を決めて早急に対応(包括、障がい等) ● 地域(各)で隊長、副隊長を決める。防災訓練を1月17日、3月11日など決めて行う
● 家族の介護負担軽減のケア。使いたい時にすぐにサービス利用ができるようにしなければ、サービス導入に時間がかかる。現在は書類記載が多く、高齢世帯では負担に感じることも多い	● 書類の簡素化や使いたい時にすぐに対応ができるような支援 ● 若い方や比較的元気(体が動くなど)な人の就労(少しでも収入が得られるような)デイサービスなど
① 発達障がい者への支援 ② 福祉人材不足 ③ 障がいのある人やその家族の孤立化 ④ 身近な相談窓口につながらない人への支援 ⑤ 身元保証人不在者 ⑥ 虐待の早期発見・対応 ⑦ 障がいのある人の住まいの支援不足 ⑧ ヤングケアラーへの対策 ⑨ 災害時支援	① 地域住民・企業・学校・保育園等への理解促進 ② かなり深刻。福祉教育上、早急に取り組むこと。大学や専門学校との連携 ③ 地域のつながり・見守り体制の充実、民生委員の関わりが重要 ④ 高齢者や障がいがあることにより、窓口に行けない人へのアウトリーチ ⑤ 宅建業界へのアプローチ ⑥ 警察や宅配業者などと協力 ⑦ 障がいのある人の住まいの場として、バリアフリー対応の公営住宅拡充 ⑧ ヤングケアラーに特化した相談機能の理解促進(ヤングケアラーを介護力と見なしてはならない) ⑨ 避難行動要支援者への対応と連携。個別訓練が必要(特に重度障がい者)

課題	必要な支援
<p>① 公共交通機関が発展していない地域においては、買い物や趣味などで外出する機会をつくるのは難しい。障がい者サービスには同行支援があるが、高齢者サービスにはない。引きこもりの高齢者を減らすためにも、外出する機会をつくり、予防していく必要がある</p> <p>② 利用者の在宅訪問が地域福祉では不可欠となるが、ほんの数分でも駐車禁止の切符を切られることがある。「訪問中」とプレートを窓に提示するようにしているが、警察には効力はない</p>	<p>① 制度外の横出し等による、外出同行支援制度があればよい</p> <p>② 公的な効力が発揮されるような「駐車許可証」の制度を作ってもらえれば、安心して地域活動が可能になる。現状、罰金は施設負担で支払っているが、公費を公費で払うような負の流れは地域や社会のためになっていない</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● ひとり親家庭 ● 養育課題のある家庭 ● 医療的ケア児の日中・生活・支援 ● 行動障がいのある日中先や生活先 	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援の担い手確保 ● 居宅介護サービスの充実（社会資源全般） ● 相談支援と充実（相談を充実させるためにも、社会資源が必要。社会資源があっても初めて相談（マネジメント）が機能する
<p>① 公的福祉サービスの周知不足</p> <p>② 困難ケースの対応について</p> <p>③ 移動について（要介護者）</p>	<p>① あるサービスが地域の人に伝わっていない。サービスを利用しやすくするために、誰でもわかりやすく情報が伝わりやすい工夫がほしい</p> <p>② 8050 や引きこもりケース等では、支援者が必要と感じる支援に必要性を感じず、劣悪な環境のまま暮らしていることが多い。CMはサービス（ケアプラン）が発生しなければ業務・報酬とならず、調整段階での補助があるとよい</p> <p>③ 通院時や外出において介護保険では不十分な支援であり、タクシー券や介護タクシー助成拡大をお願いしたい</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者家庭の見守りが不十分である。隣近所との付き合いが密であればよいが、困りごとを遠い身内に頼んでも対応が遅い。早い対応ができる仕組みが必要。また引きこもり障がい者の社会参加への誘導の仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ● いずれも見守り支援者の増員・育成が必要
<ul style="list-style-type: none"> ● 独居、高齢者のみ世帯の増加 ● 家族の力の低下 ● 外出手段がない ● 地域交流の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の見守りや安否確認の声かけ ● 移動支援サービスの充実 ● 地域での災害避難の計画づくり
<p>① 未受診・未診断、社会的引きこもり者への支援継続が困難</p> <p>② 反社会的な行動を起こすリスクの高い人への支援について、チーム支援が展開されにくい</p> <p>③ 住居確保困難者への不動産業者を巻き込んだ支援</p>	<p>① 訪問や居場所づくりの財源の保証、引きこもり当事者への理解促進</p> <p>② 具体的な対応において、ケース会議を始めとする市町等の行政機関の役割が重要</p> <p>③ 不動産業者と福祉関係者、行政機関とのネットワーク</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 独居や高齢者世帯が増える中で、フォーマルサービスだけでは補えない生活支援 ● ゴミ出し、身の回りの大工仕事、草刈りや剪定、買い物 	<ul style="list-style-type: none"> ● 助け合いの近所づくり ● 防災をメインに、自治会活動に働きかける ● 地域ベース会議
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在の状況では、コロナ感染時の緊急対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各事業所とも感染予防対策に大変な状況で、緊急対応は困難である。家族や障がい当事者のコロナ緊急事態に即座に対応できる体制・機関・人員が必要

問8 今後、地域に対して相談支援機関としてできることは何かありますか。
(〇はいくつでも)

今後地域に対して相談支援機関としてできることについて、「課題共有の場（会議等）への参加」が87.5%と最も高く、次いで「相談支援を通じた貢献」が83.3%、「相談窓口の提供（公的機関へのつなぎ役）」が79.2%となっています。

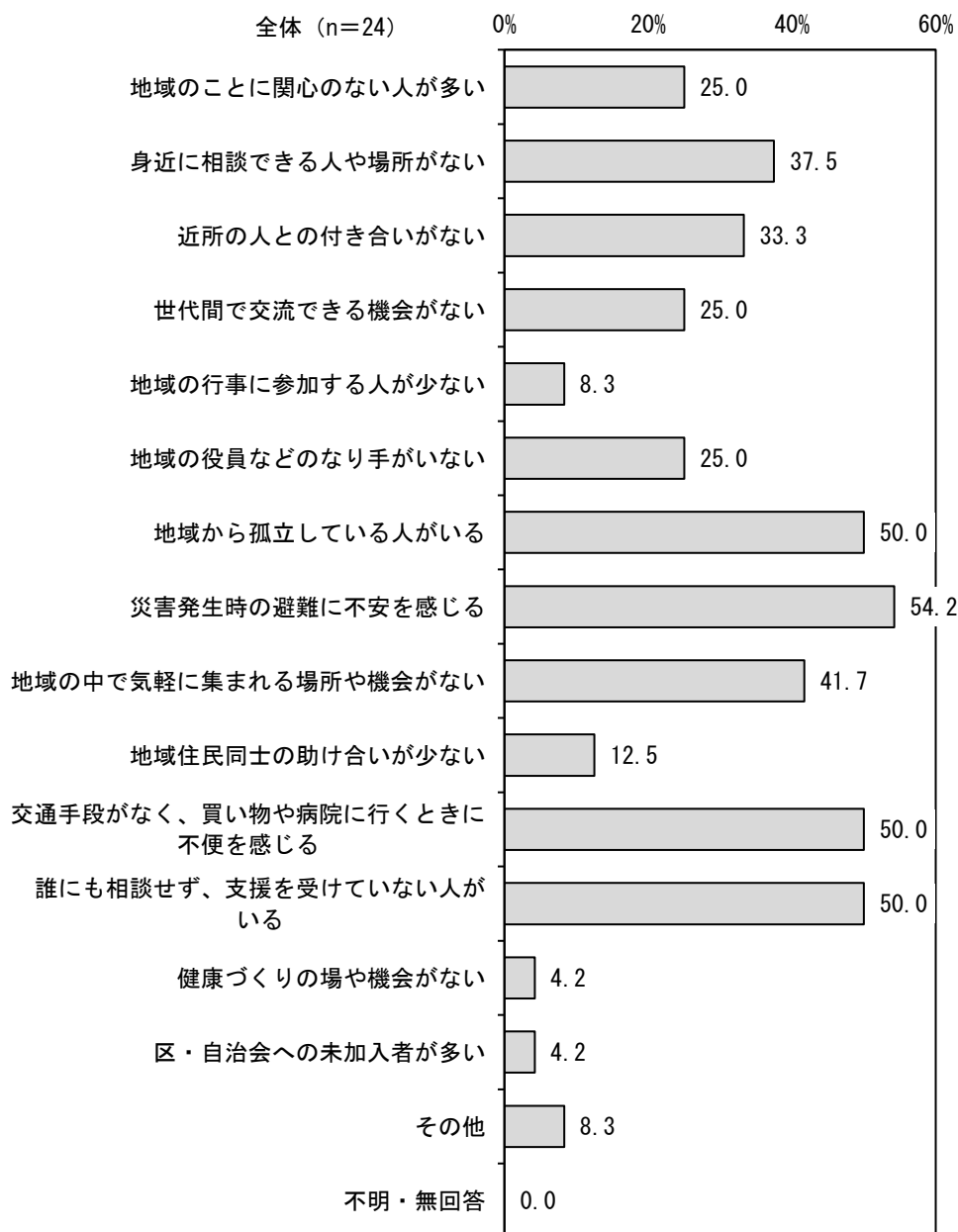


その他回答

- 役所、社会福祉協議会、自治会との情報共有と地域担当相談 CM 選出し、課題分析対策
- 連絡先がありケースに応じて訪問
- 相談先（市）など巡回バス※ワンステップバス
- 研修の企画協力はできている

問9 ふだんの業務の中で感じる地域の課題や問題点はどのようなことですか。
(〇は5つまで)

ふだんの業務の中で感じる地域の課題や問題点について、「災害発生時の避難に不安を感じる」が54.2%と最も高く、次いで「地域から孤立している人がいる」、「交通手段がなく、買い物や病院に行くときに不便を感じる」、「誰にも相談せず、支援を受けていない人がいる」がともに50.0%、「地域の中で気軽に集まれる場所や機会がない」が41.7%となっています。

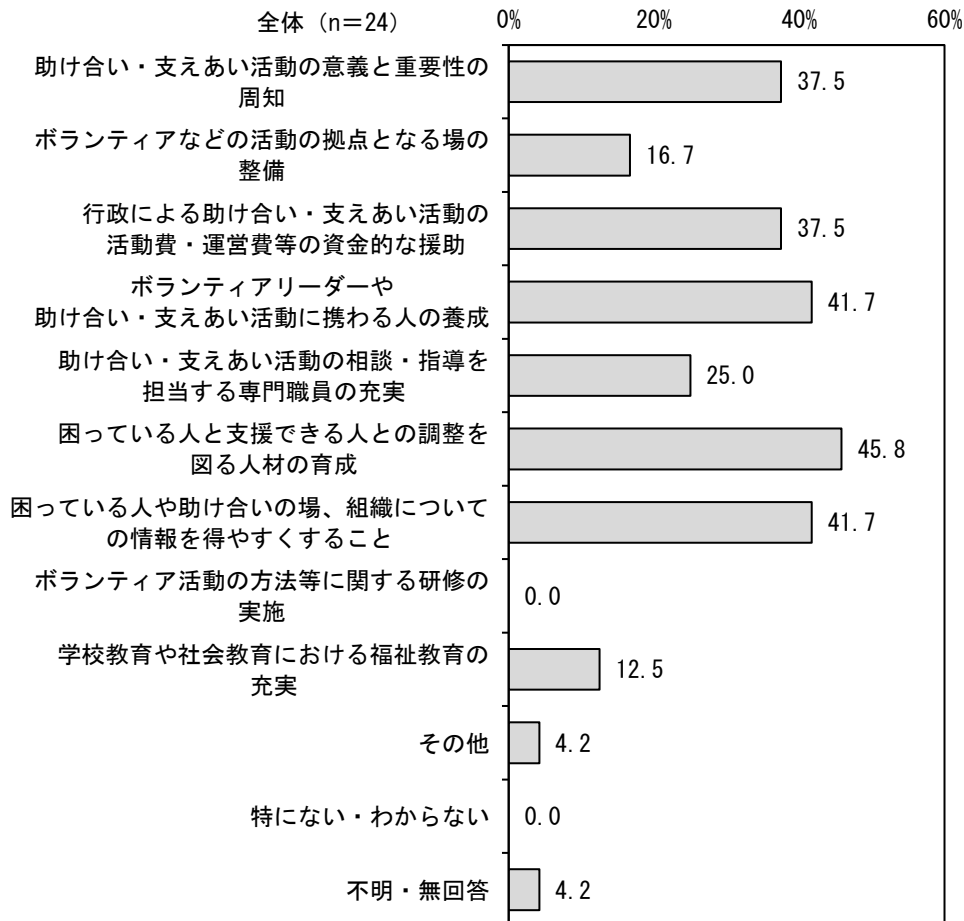


その他回答

- 医療や福祉の資源が少ない
- 支え手が少ない

問 10 地域における助け合い・支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

地域における助け合い・支え合い活動を活発にするために重要だと思ことについて、「困っている人と支援できる人との調整を図る人材の育成」が 45.8%と最も高く、次いで「ボランティアリーダーや助け合い・支えあい活動に携わる人の養成」、「困っている人や助け合いの場、組織についての情報を得やすくすること」がともに 41.7%、「助け合い・支えあい活動の意義と重要性の周知」、「行政による助け合い・支えあい活動の活動費・運営費等の資金的な援助」がともに 37.5%となっています。



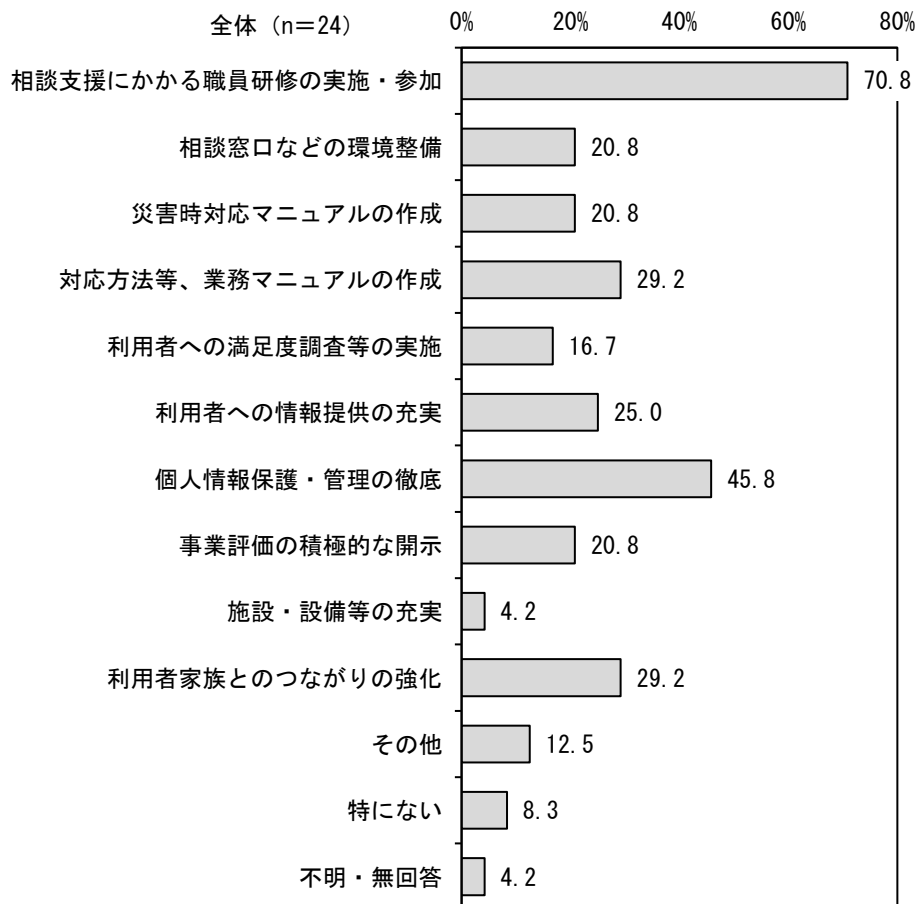
その他回答

記入なし

3. 活動について

問 11 ふだんの業務で相談支援の質の向上のために取り組んでいることはありますか。
(〇はいくつでも)

ふだんの業務で相談支援の質の向上のために取り組んでいることについて、「相談支援にかかる職員研修の実施・参加」が70.8%と最も高く、次いで「個人情報保護・管理の徹底」が45.8%、「対応方法等、業務マニュアルの作成」、「利用者家族とのつながりの強化」がともに29.2%となっています。

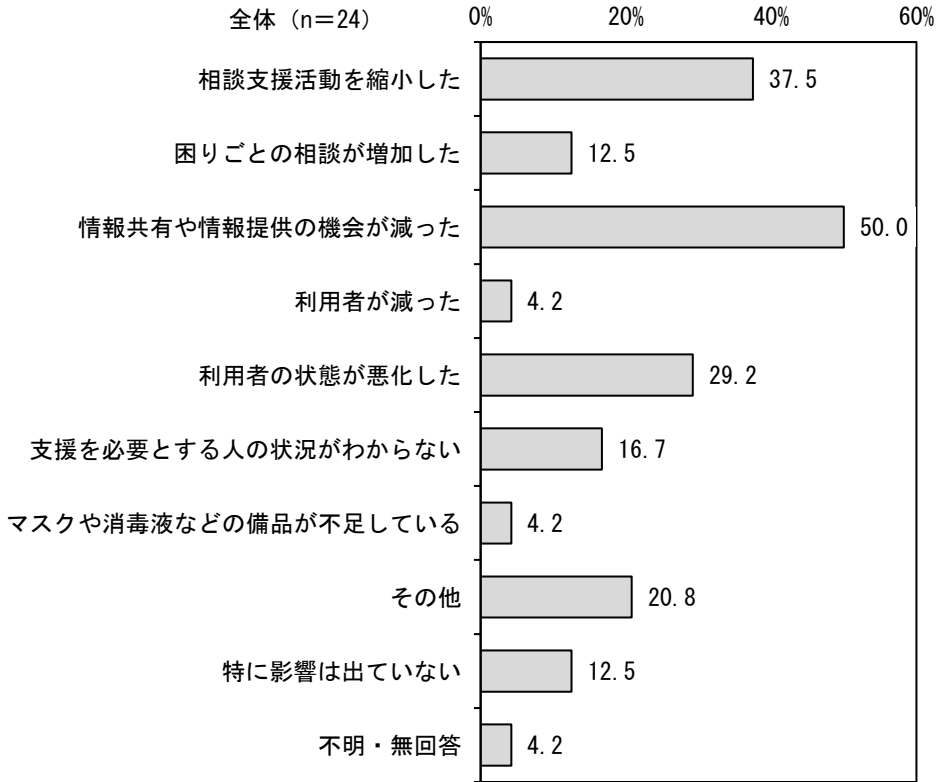


その他回答

- 有志勉強会への参加
- 基幹相談支援センターの訪問指導を受ける

問 12 相談支援を行う上で、新型コロナウイルス感染症による影響はありますか。
 (〇はいくつでも)

新型コロナウイルス感染症による相談支援への影響について、「情報共有や情報提供の機会が減った」が50.0%と最も高く、次いで「相談支援活動を縮小した」が37.5%、「利用者の状態が悪化した」が29.2%となっています。



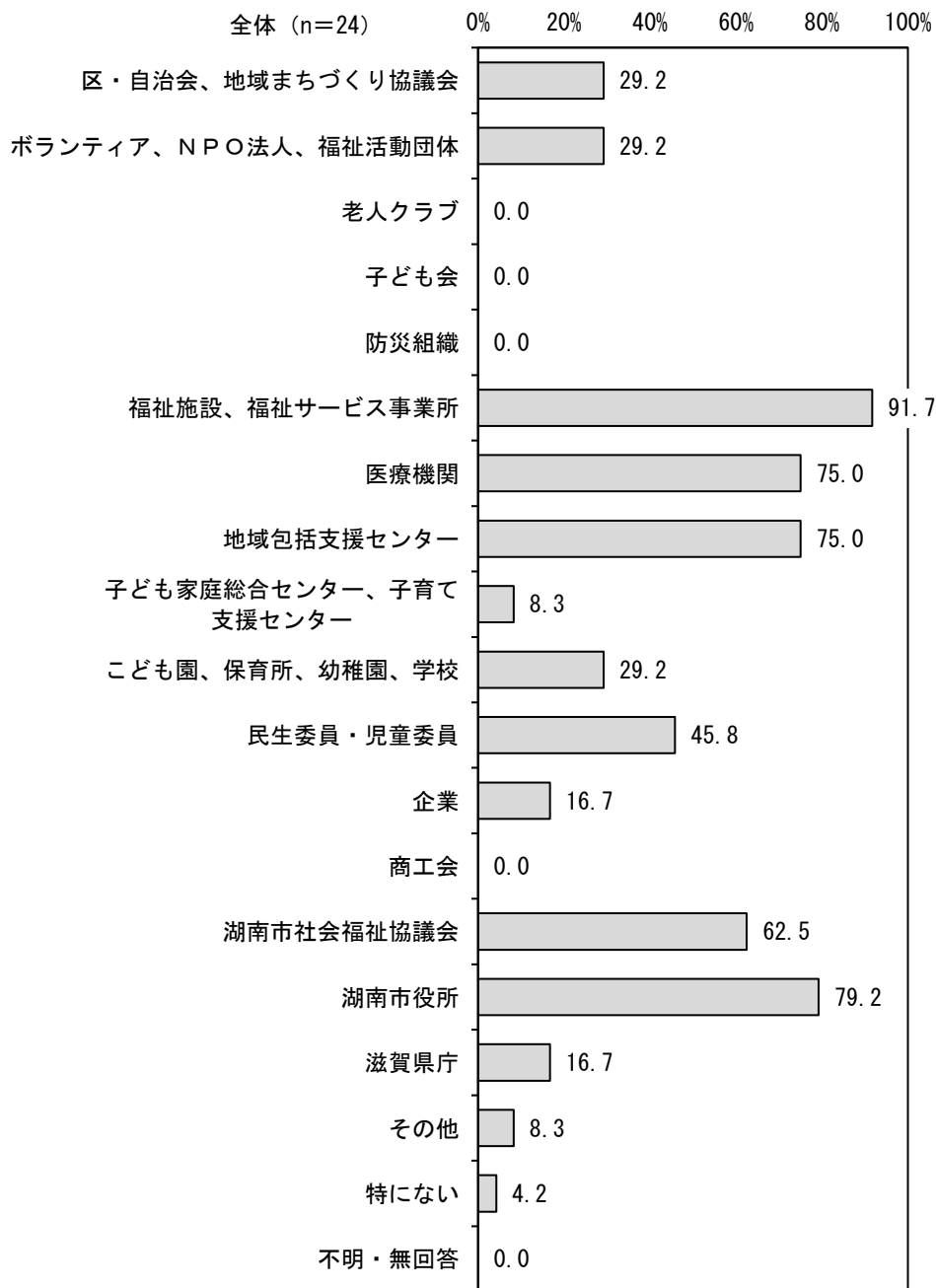
その他回答	
●	会議の中止やオンライン化、サービス提供事業所の停止や縮小
●	集まりを避けてほしいとの要望
●	会議研修が行えない
●	活動を一部縮小

問 13 コロナ禍の中で、新たに取り組んでいることがあれば教えてください。(自由記述)

新たに取り組んでいること
● プログラムの内容を変更
● 訪問時間の短縮
● オンライン会議
● オンライン会議の研修参加
● オンラインでの会議 ● 訪問→電話対応への変更 訪問時、家の中で話をする→玄関先で話をするへ変更
● 病院での退院カンファレンスが開催されないので、DVD（リハビリ、移動移乗、更衣等）で各サービス関係者が視聴
● オンライン研修会により事業所内で研修を受けられるようになった ● 会議開催を照会文などにより行い、密を防ぐようにしている ● 事業所内の換気や消毒を行う
● オンラインを活用した会議や研修会の実施 ● 情報ツールの活用
● 行政の横の繋がりを確保することから始まる ● 総合的に判断するのであれば、担当課という考えが馴染まない ● 「断らない」というキーワードを守るためには、人材と社会資源があることが前提
● オンライン会議・研修会、訪問の制限
● 定期的に行っていた他事業所との会議をオンラインで行っている
● 市や社会福祉協議会は、ビジョンを持った仕事をしてほしい
● 重層的支援、断らない相談、との言葉が並んでいるが、実際は支援の難しい人を次から次へと確認している。事業所は行政機関のバックアップを期待する。対応に苦慮する人への対応・ケース会議、地域課題を検討する場の設定、その場の展開を強く希望する
● 法改正において、市の新しい制度体制への移行が速やかでない。重層的支援体制整備事業においては、地域づくりに向けた支援の中で介護分野として、生活支援体制整備事業があるが、委託先のまちづくり協議会の支えあい推進員と連携し、居宅介護支援としての地域づくりへの役目を果たしていきたい

問 14 地域での活動の際に、どのような組織・団体などと連携して活動されていますか。
(〇はいくつでも)

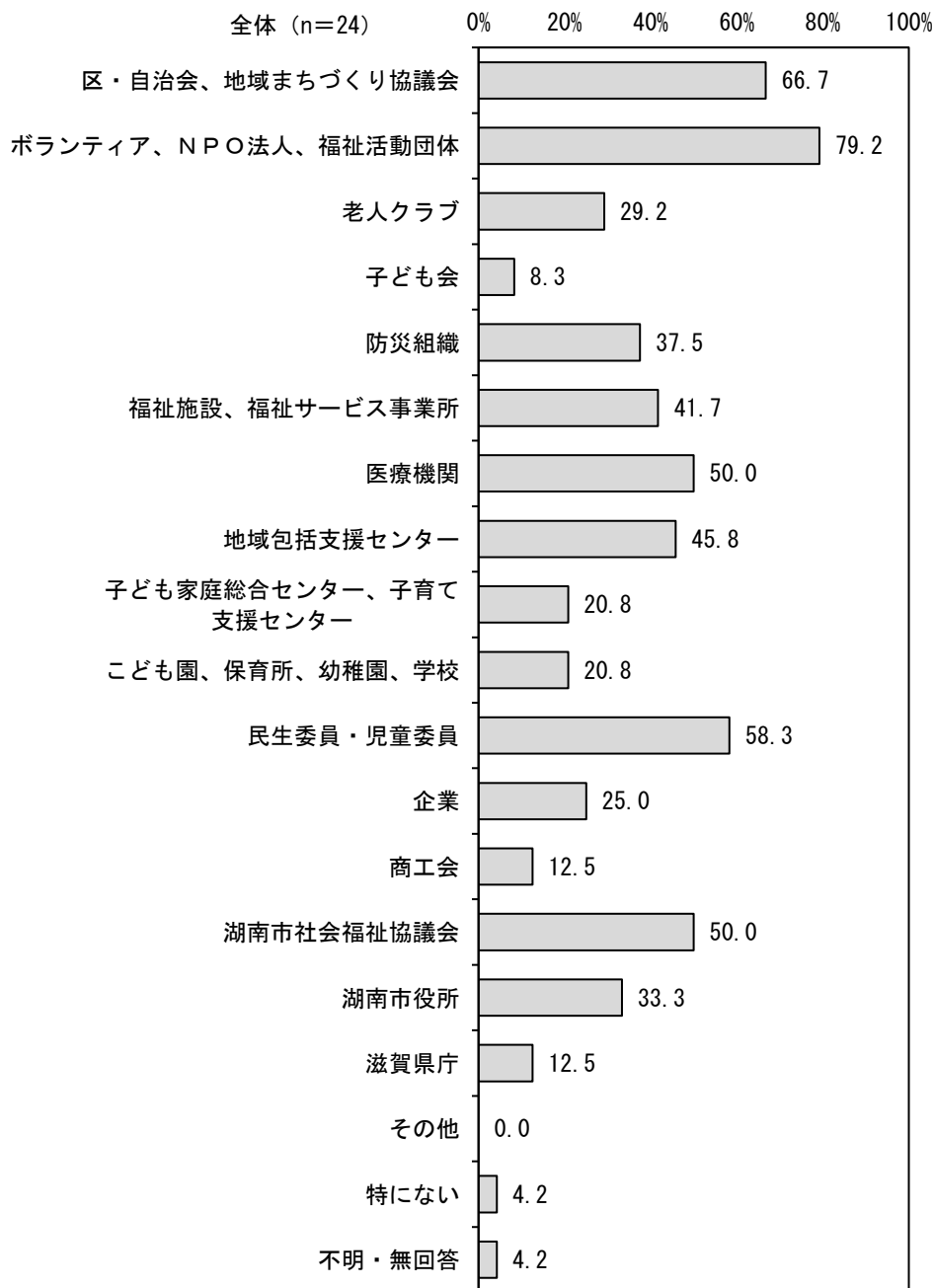
地域での活動の際に連携している組織・団体について、「福祉施設、福祉サービス事業所」が91.7%と最も高く、次いで「湖南省役所」が79.2%、「医療機関」、「地域包括支援センター」がともに75.0%となっています。



その他回答	
●	医療生活
●	甲賀保健所

問 15 今後、地域での活動を行う際に、連携したい組織・団体などがありますか。
(〇はいくつでも)

今後地域での活動を行う際に連携したい組織・団体について、「ボランティア、NPO法人、福祉活動団体」が79.2%と最も高く、次いで「区・自治会、地域まちづくり協議会」が66.7%、「民生委員・児童委員」が58.3%となっています。

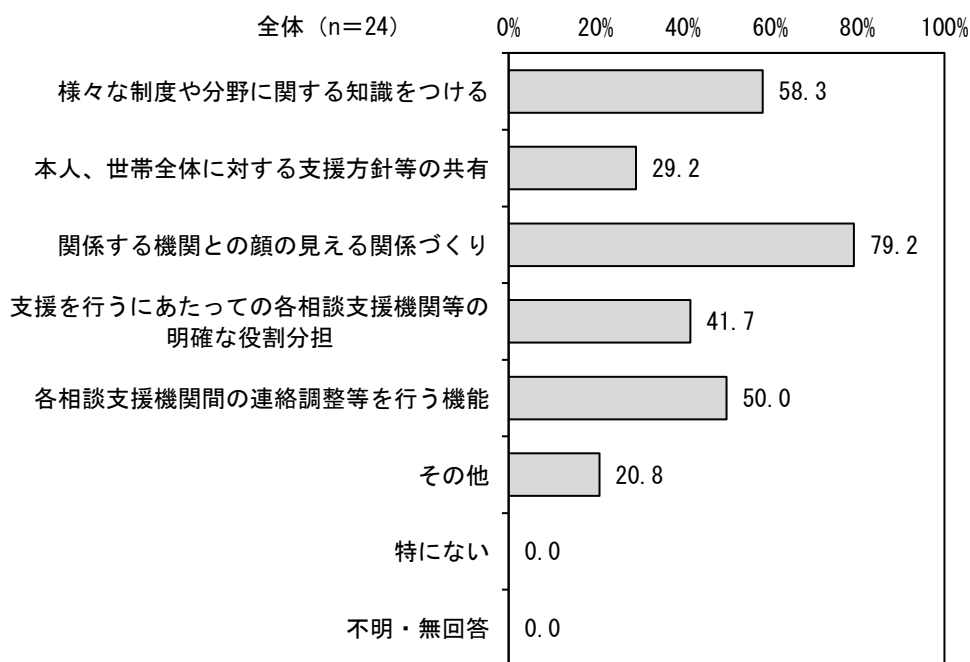


その他回答

記入なし

問 16 断らない相談や包括的な相談支援を実施するために、今後強化が必要と思われる機能や取組は何ですか。(〇は3つまで)

断らない相談や包括的な相談支援を実施するために今後強化が必要と思われる機能や取組について、「関係する機関との顔の見える関係づくり」が 79.2%と最も高く、次いで「様々な制度や分野に関する知識をつける」が 58.3%、「各相談支援機関間の連絡調整等を行う機能」が 50.0%となっています。

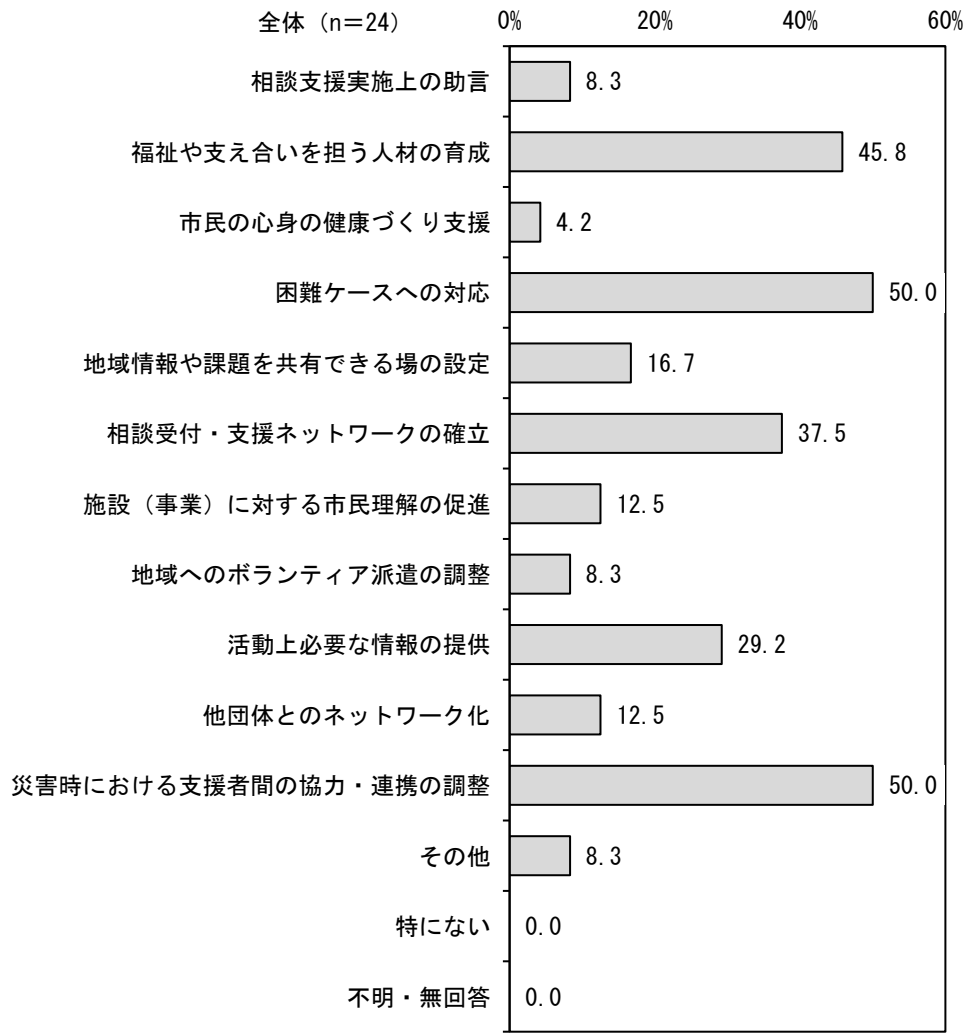


その他回答

- 権限の一元化廃止
- 専門性の確保 (高齢・障がい・児童等の特性を活かすことが重要)
- 相談援助側での限界を理解し、困難事例を受ける事業所への教育
- なぜ支援を行うのか、意味・意義を理解すること

問 17 地域で活動する中で、市や社会福祉協議会に期待することは何ですか。(〇は3つまで)

地域で活動する中で市や社会福祉協議会に期待することについて、「困難ケースへの対応」、「災害時における支援者間の協力・連携の調整」がともに 50.0%と最も高く、次いで「福祉や支え合いを担う人材の育成」が 45.8%、「相談受付・支援ネットワークの確立」が 37.5%となっています。



その他回答	
●	市単独の加算
●	活用できる社会資源の充実

4. 自由記述

その他、地域福祉の推進について、ご意見・ご要望がございましたらご自由にお書きください。

分野	自由回答
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ● サービスの充実は大切ですが、それらを市民皆さんが知っていること、どこに相談すれば良いかを知っていることが大切だと思います。また、関係機関の支援者が地域住民の活動に関心を持ち、相互に関わりがとくれることも大切ではないかと思います
連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 湖南市の各地のまちづくり協議会の方々や、各地域の民生委員との連携強化ができると、それぞれの役割が明確になり、お互いの強みが強化され、地域で生活したいと思う方へ必要な支援がわかるのではないかと思う。少しずつお互い顔の見える関係づくりをし始めているが、まだまだ時間がかかるように思う。生活に困っている方が多くいる現状に、必要な支援を一緒に考えていきたいと思います ● 包括的ネットワークの構築を進めるためには、形式的なこと以上に支援者、関係者同士の顔の見える関係づくりが大切ではないかと思います
相談	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がいのある人への支援は、障がい種別や程度、ライフステージごとの対応など多種多様に求められる。障がい福祉は一般市民には自分事とは捉えにくく身近な存在ではないが、重層的支援体制整備事業による相談機能の充実により、地域住民の相談しやすさにつながると同時に、障がいのある人の相談対応が適切かつ丁寧に行われることを望む。そして障がいのある人が安心して自分らしく生きていける地域社会づくりを目指してほしい
移動	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別養護老人ホームヴィラ十二坊へのアクセスについて、近くにバス停はなく、夜間は街灯もないので困っている。家族面会や徒歩通勤者もいるので、検討してほしい。日枝中学校前にバス停はあるが、歩いて施設まで来るのは遠く、交通量の多い幹線道路を横断するのは非常に危険である
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 甲賀市に事業所があることで、なかなか地域支援にまで進むことはないが、利用者一人ひとりの地域でできることを探して支援を継続する